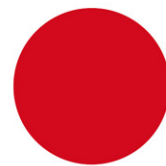


# 土堂小

# の研究



JAPAN HERITAGE

日本遺産

国立教育政策研究所指定  
教育課程研究指定校事業

尾道市教育委員会指定  
尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業  
(コミュニティ・スクール)

研究主題

## 未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造

— 文学的な文章において“問い”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫 —  
— 「割合」の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫改善 —



令和元年11月11日(月)  
主催 尾道市教育委員会  
尾道市立土堂小学校

尾道市立土堂小学校

# 目 次

I	令和元年度土堂小学校スクールプラン	4
II	教育研究計画	
1	研究構想	5
2	研究の概要	6
3	指導・助言者	7
4	研究計画	8
5	資料	
	主体性・積極性の系統表「国語科」「算数科」	9
	国語科「問いの系統表」	10
	算数科「割合の系統表」	11
	算数科「分数系統図」	13
	総合的な学習の時間「コンピテンシー表」	14
III	基礎・基本定着のための取組	
1	モジュール授業の原理	15
2	モジュール授業の目標と内容	
3	モジュール授業の系統性	16
4	モジュール授業を共有，発展させるために	
5	フラッシュ教材例「割合」	18
IV	研究の結果と考察（中間）	
1	全国学力・学習状況調査	20
2	質問紙調査	21
V	研究のまとめ（中間）	
1	成果	22
2	課題と今後に向けて	
VI	日 程	24
	会場案内図	26
VII	全体会	
	開会行事	27
	実践報告	28
	分科会・講評	29
	講演	30

閉会挨拶	32
------	----

## VIII 公開授業 I

### モジュール授業

第1学年	34
第2学年	35
第3学年	36
第4学年	37
第5学年	38
第6学年	38
特別支援学級(自閉症・情緒)	39
特別支援学級(難聴)	40
特別支援学級(知的)	41

## IX 公開授業 II

### 国語科

第1学年「おとうとねずみ チロ」	44
第2学年「かさこじぞう」	48
第4学年「ごんぎつね」	52
第6学年「海のいのち」	56

### 算数科

第1学年「ひきざん(2)」	60
第2学年「かけ算(3)」	63
第3学年「分数」	67
第4学年「計算の仕方を考えよう」	71
第5学年「割合とグラフ」	74
第6学年「速さ」	78

### 総合的な学習の時間

第4学年「未来へ受け継ごう 尾道の祭り」	82
----------------------	----

### 特別支援教育

特別支援学級(知的)「『買い物学習』へGO！」	87
特別支援学級(自閉症・情緒)「聞いてQ！」	90
特別支援学級(難聴)「気持ちのプレゼント」	95

令和元年度 御指導いただいた先生方・研究同人

## ごあいさつ

土堂っ子太鼓の音が、今朝も尾道の町に響き渡っています。

本日、全国各地から多くの先生方のご参加をいただき、このように盛大に教育研究会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

本校は、平成17年度にコミュニティ・スクールの指定を受け、以来、地域とともに歩む学校として、学校運営協議会から示されたミッションステートメントの達成を目指し、教育活動の充実を図ってまいりました。本年度は、①基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校 ②学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校 ③尾道への郷土愛を高める学校 ④地域と保護者が共に育て支える学校-土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-の4つを目指す学校像として、日々取り組んでまいりました。

また、文部科学省から教育課程研究指定校事業、尾道市教育委員会から尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業の指定を受け、未来を拓く子供の資質・能力を育成するための教育の創造に取り組んでまいりました。

特に今年度は、国語科「問いの系統表」、算数科「分数の系統図」の見直しを行い、学年の発達段階を踏まえて、深い学びの実現をめざすとともに、全教科、領域を通じて資質・能力を育成するための授業作りに努めてまいりました。また、児童の振り返りや評価問題から、付けたい力が身に付いているのかを確かめながら授業改善を行っているところです。

本日、これらの実践の一端を発表いたしますが、私たちの取組は試行錯誤の繰り返りで、日々模索しながら歩んでいるところです。皆様から御指導、御助言をいただき、さらなる改善、発展に向け、一層の努力を重ねてまいります。

終わりにになりましたが、本校の研究推進に温かい御指導、御支援をいただきました多くの先生方に心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

令和元年11月11日

尾道市立土堂小学校

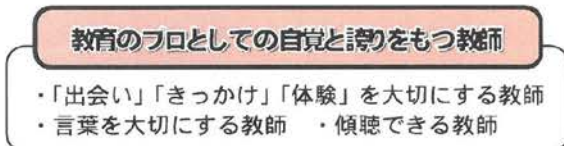
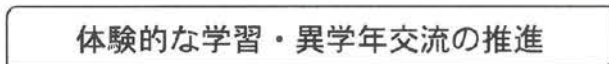
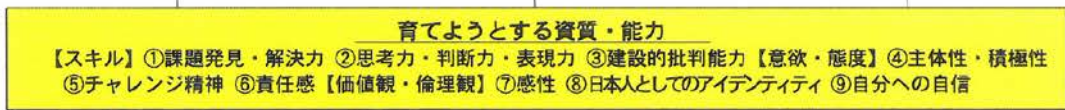
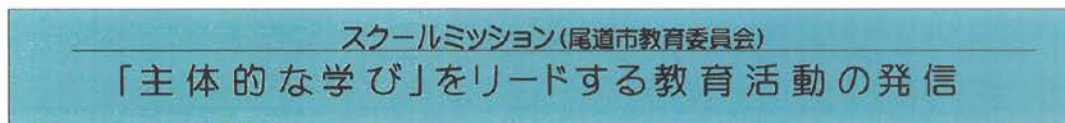
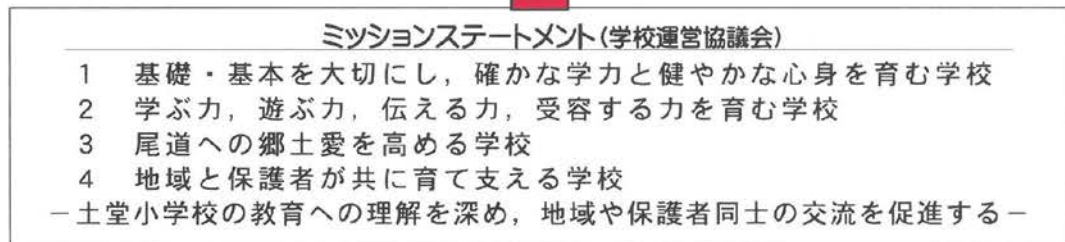
校長 宮本 佳宏

# I 平成31年度（令和元年度） 土堂小学校スクールプラン

夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成

## 平成31年度 コミュニティ・スクール 土堂小学校スクールプラン

教育課程研究指定校(国立教育政策研究所教育課程研究センター)  
尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業指定校



## Ⅱ 教育研究計画

### 1 研究構想

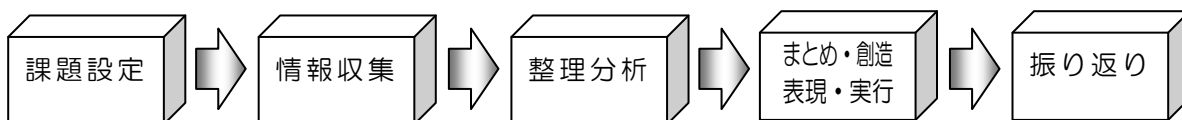
研究主題

未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造

—文学的な文章において“問い”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫—  
—「割合」の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫改善—

### 課題発見・解決学習

各教科

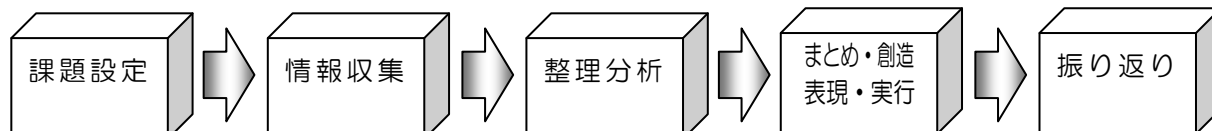


国語科  
「問いの系統表」  
作成・活用・改善

主体的・対話的で深い学びを通した  
より深い知識の習得  
思考力・判断力・表現力等の育成

算数科  
「割合の系統表」  
「分数系統図」  
活用・改善

総合的な学習の時間



各教科で習得した力を活用し、仲間と協働して、最善解を創造

資質・能力の育成

### 課題発見・解決学習

基礎的・基本的な学習習慣の定着

モジュール授業

家庭での学習習慣の定着

家庭学習

## 2 研究の概要

### (1) 研究主題・副題

#### 未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造

—文学的な文章において“問い”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫—  
—「割合」の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫改善—

### (2) 研究主題の設定理由

21世紀はグローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と、正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子ども達は、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考したり、協力・協働したりしながら課題を解決することで、新たな価値を生み出し、社会に貢献していくことがより一層求められていく。

本校では、これまで、課題発見・解決学習のための単元開発や基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるための学ぶ習慣づくりについて研究をしてきた。

平成30年度は、算数科の割合の学習につながる系統性に関する理論研修を行い、各学年の発達段階における系統性を研修し、立式の説明に焦点化して系統表を作成した。さらに、モジュール授業における割合の学習につながる立式の説明の仕方や図の指導等に関するフラッシュ教材を開発した。全学年においては、割合の学習の系統性を意識した学習指導案を作成し、授業研究を公開した。国語科では、文学的文章における児童の“問い”の研究を進めることで学習者基点の学びにつながり、物語を読む面白さに気付くことができたり、“問い”を精査したりすることができた。

しかし、算数科においては、1時間の授業の中で児童が身に付けた力を適切に評価するための適用問題の開発に課題があった。国語科においては、児童の考えた“問い”を単元や授業作りにどのように活かすかや、児童の思考を焦点化するための板書の在り方について課題があった。

そこで、令和元年度は、算数科では、引き続き図のかき方指導と立式した理由を説明する活動や適用問題の開発を重点として研究を進める。また国語科の授業において、児童の文学的教材に対する“問い”の質を高め、読む力を育成することで、児童の主体的・対話的で深い学びを実現していく必要がある。

令和元年度は、昨年度に引き続き国語科と算数科の各部会が、学校全体の研修計画に基づいて、部会で研究計画を立て、部ごとにPDCAサイクルに則った研究推進を行う。その中で、教科固有の見方や考え方、資質・能力に関する理論研究と実践研究を推進し、学校全体で定期的に交流し合う。このことで、児童の変容に基づいて検証し、記録し、次年度へつなぐ体制づくりを行う。

研究主題を「未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造—文学的な文章において“問い”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫—「割合」の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫改善—」とし、単元開発や教科固有の見方・考え方について研究することを通して、主体的・対話的で、深い学びの実現を目指すこととする。

### (3) 研究のねらい

- 資質・能力を育成する。
- 主体的・協働的に学ぶ児童を育成する。
- 基礎的・基本的な力を付け、基礎的な知識の定着を図る。

(4) 研究仮説

基礎的・基本的な学習習慣の定着を図り，国語科・算数科，総合的な学習の時間において，課題発見・解決学習のための授業づくりを行うことで，主体的・対話的で，深い学びを実現することができるであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

- 教科のカリキュラム開発と評価，検証を中心に単元開発を進める。
- 基礎的・基本的な力を付けたり，意欲を高めるためのモジュール授業の工夫を行ったりして，基礎的な知識の定着を図る。
- PDCA 検証部会を設け，学校全体としての研究の方向性を共有しながら，PDCA サイクルに基づいた単元ごとの検証と改善を行い，単元の質の向上を図るとともに国語科や算数科における資質・能力の系統表を見直し，その効果を検証する。
- 割合の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫を行う。
- 国語科の文学的教材における児童の“問い”の質を高め，読む力を育成するための指導の工夫を行う。

(6) 検証の指標

	指標	達成目標	検証時期	検証方法
成果指標 *本県の指標を参考にすること	総合学力テストにおける正答率	全国平均 + 10	令和元年12月 令和2年1月	総合学力テストを利用
	全国学力・学習状況調査における正答率	県平均 + 12 (国語) 県平均 + 12 (算数)	平成31年4月 令和2年2月	全国学力・学習状況調査問題を利用
	「基礎・基本」定着状況調査等の質問紙調査の肯定率	肯定的回答 75%以上	令和元年6月 令和2年2月	「基礎・基本」定着状況調査質問紙を利用

3 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
笠井 健一	文部科学省・国立教育政策研究所・教育課程調査官	
林 武広	比治山大学・比治山大学短期大学部・副学長 広島大学・名誉教授	
河野 智文	福岡教育大学・教授	
岩田 耕司	福岡教育大学・准教授	
兼永 正彦	広島県東部教育事務所・指導主事	
大矢 純一	尾道市教育委員会・指導主事	
才谷 瑛一	尾道市教育委員会・指導主事	
井桁 陽介	広島県立尾道特別支援学校・教育相談主任	
新林 美穂	広島県立尾道特別支援学校・教育相談主任・地域支援部長	



#### 4 研究計画

月 日	研 修 内 容	講 師	
4	3日(水)	研究構想について モジュール授業について	
	18日(木)	全国学力・学習状況調査	
	25日(木)	授業研究(モジュール①)	
	26日(金)	授業研究(モジュール②)	
5	7日(火)	協議会(モジュール)	
6	7日(金)	授業研究①算数科	岩田准教授(福岡教育大学)
	14日(金)	授業研究②算数科	笠井先生(文部科学省)
	21日(金)	授業研究③国語科	河野教授(福岡教育大学)
	28日(金)	授業研究④特別支援教育	新林先生(尾道特別支援学校)
7	23日(火)	P D C A 検証部会 1学期の反省 教育研究会に向けて モジュール授業について 学力テスト分析	
	30日(火)	教育研究会単元計画提出	
8	23日(金)	研究会モジュール指導案提出 【実践事例集】提出 道徳地域公開指導案提出	
9	20日(金)	紀要【成果と課題】提出	
11	11日(月)	教育研究会	笠井先生(文部科学省) 林副学長(比治山大学・比治山大学短期大学部) 河野教授(福岡教育大学) 岩田准教授(福岡教育大学) 新林先生(尾道特別支援学校) 井桁先生(尾道特別支援学校)
	14日(木)	P D C A 検証部会 教育研究会反省	
12	17日(火)	学力定着実態調査(1~4年)	
1	9日(木)	総合学力テスト(5・6年)	
	30日(木)	2年目研(綿貫)	
2	4日(火)	全学年検証実施	
3	6日(金)	P D C A 検証部会 来年度研究について	

## 土堂小学校版！ 国語科「主体性・積極性」の系統表

資料

学年		低学年	中学年	高学年
国語科	(見直し) 課題発見	教師との対話によって、学習の見通しをもつことができる。	既習学習を想起し関連づけながら、教師の支援を得つつ、学習の見通しをもつことができる。	児童相互の対話によって学習の見通しをもち、必要に応じて見直すことができる。
	学習展開 課題解決	自らの疑問について、調べたいという意欲をもつことができる。	解決のために必要な方法や手段を考え、実行することができる。	課題解決に向けて計画を立て、情報を集め、よりよい方法で解決することができる。
	次への展望 ふり返り	学習目標（ねらい）について、達成したことや困難だったことを振り返ることができる。	学習内容について、自分の考えを明確にしたり、既習内容と関連させたりして振り返ることができる。	学習内容や学習方法について自己評価したり、次時に向けての課題を設定したりすることができる。
	対話性	友達の多様な考えに関心をもち、積極的に交流・共有しようとする。	自分と友達の考えの相違点に関心をもち、自分の考えを見直そうとする。	多様な考えを対話によって分類・整理し、目的を意識して再構成しようとする。

## 土堂小学校版！ 算数科「主体性・積極性」の系統表

学年		低学年	中学年	高学年
算数科	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を用いた活動を通して、数量や図形についての感覚を豊かにする。</li> <li>数学的に考えることや数理的な処理に親しもうとする。</li> <li>算数の学習が生活や学習と関係があることを見付けようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量や図形についての感覚を豊かにする。</li> <li>数学的に考えることや数理的な処理のよさに気付く。</li> <li>算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活と結び付けて考え、数量や図形についての感覚をより豊かにする。</li> <li>数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき、活用しようとする。</li> <li>よりよく生活や解決するために、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする。</li> </ul>
	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑問をもち、よりよく問題を解決しようとする。</li> <li>数字や図形を絵や具体物と関連付けて考えようしたり、具体物を数字や図形に表現しようしたりするなど、抽象と具体の双方から考えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする。</li> <li>抽象的を具体的に表現したり、表現されたことをより一般的に表現したりするなど、多面的に考えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする。</li> <li>抽象を具体的に表現したり、表現されたことをより一般的に表現したりするなど、統合的・発展的に考えようとする。</li> </ul>
	次への展望 ふり返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が解いた問題を振り返り、自分が解いた計算や図が正しいのか、別の方法や友達の方法で確かめようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友達が解いた問題を振り返り、解答や解き方が正しいのか複数の考えを比べて、共通点や相違点を見付けながら検討しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や他者が数学的に表現・処理したことを振り返り、根拠を明らかにしながらよりよい方法や新しい課題を見付け、批判的に検討しようとする。</li> </ul>

# 国語科 文学的な文章における問いの系統 令和元年度版

	1年「おとうとねずみ チロ」	2年「かきこじぞう」	3年「サーカスのライオン」	4年「ごんぎつね」	5年「注文の多い料理店」	6年「海のいのち」
構造と内容の把握	<b>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。</b>		<b>登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。</b>		<b>登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物はだれ。(I)</li> <li>この絵は何をしているところだろう。(I)</li> <li>にいさんねずみ、ねえさんねずみ、チロは何と言ったか。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物はだれ。(I)</li> <li>じいさま(ばあさま)は、何をしたのか。(I)</li> <li>じいさま(ばあさま)は何を言ったのか。(I)</li> <li>これは、何場面の絵だろう。(I)</li> <li>「かきこじぞう」という題からどんなお話だと思ったか。(I)</li> <li>これまで読んだことのある昔話と似ているところがあるか。(II)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心となる人物は誰だろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物、中心人物は誰だろう。(I)</li> <li>○場面の兵十は、どんな気持ちだっただろう。(I)</li> <li>ごんはどんな子ぎつねだろう。兵十はどんな人だろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しんし達はどんな人なんだろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主と太一は、どのような関係か。(I)</li> <li>父は、どのような人物か。(I)</li> <li>太一の父への憧れは、どのようなものか。(I)</li> <li>与吉じいさまは、どのような人物か。(I)</li> <li>与吉じいさまのことを太一はどう思っていたか。(I)</li> <li>太一のことを、母はどう思っていたか。(I)</li> <li>主を前にした時に、太一はどんな気持ちだったのか。(I)</li> </ul>
精査・解釈	<b>場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</b>		<b>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する。</b>		<b>人物像や物語どの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうしてにいさんねずみとねえさんねずみは意地悪なことをいったのだろう。(I)</li> <li>声がとんでいったのがふしぎだな。(I)</li> <li>どうしてじつと耳をすましていたのかな。(I)</li> <li>どうして、もう一度ゆっくり「あ、りが、と、う。」と言ったのかな。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>じいさまがじぞうさまにかさをかぶせているとき、どんな表情だっただろう。どのように語りかけていたのだろう。どんな様子だっただろう。(I)</li> <li>じぞうさまは、なぜ、食べ物もってきたのだろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、じんぎは嫌いなチョコレートを受け取ったのか。(I)</li> <li>「ウォーツ」は、どう読んだらよいか。(VI)</li> <li>なぜ、じんぎは気持ちが変化したと思うか。(I)</li> <li>サーカスのおしまいの日に、じんぎがいないのに、ライオンの曲芸をしたのは、なぜか。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵十のごんに対する気持ちはどう変わっただろう。(I)</li> <li>兵十の気持ちがわかる言葉は何だろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しんし達がたくさんの注文をおかしいと思いはじめたのはいつだろう。(I)</li> <li>しんし達を食べようとしていたのは何だろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太一がクエを殺さなかったのはなぜか。(IV)</li> <li>太一は一人前の漁師か、それとも一人前ではないのか。(V)</li> <li>太一は誰のおかげで一人前の漁師になれたのだろう。(I)</li> <li>自分だったら、クエを刺すだろうか。(V VI)</li> <li>太一が海の主を刺さなかったことに、賛成か、反対か。(VVI)</li> <li>他の作品でも、葛藤が描かれているのか。(II III)</li> </ul>
考えの形成	<b>文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。</b>		<b>文章を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつこと。</b>		<b>文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめること。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>この行動をした○○をどう思うかな。(V)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お正月さん」と「さん」がついているのは、なぜだろうか。(IV)</li> <li>ばあさまがじいさまに怒らないのは、なぜだろうか。(V)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちが変化したじんぎをどう思うか。(VVI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語を読んで、登場人物のどんなところに感動しただろう。(V)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ猫は人間を食べようとしたのか。(III V)</li> <li>なぜしんしはこんな怖い目に合ったのか。(III V)</li> <li>なぜしんしは最後に顔がもともどらなかつたのか。(III V)</li> <li>この作品で宮沢賢治は何を伝えたかったのだろう。(IIIIV)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この作品の主題は何か。(I)</li> <li>この作品の魅力は何か。(I)</li> <li>「海の命」の意味とは何か。(I)</li> <li>友達、この作品の魅力をどう感じているか。(VI)</li> </ul>
共有	<b>文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</b>		<b>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。</b>		<b>文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達はその行動をした○○をどう思ったのだろう。(VI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の読んだ昔話の面白さとは、何だろうか。(II)</li> <li>友達は、どのような昔話の面白さを見つけたのだろうか。(VI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を通して何を伝えたかったのだろう。(II VI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後の場面のごんと兵十はどんな気持ちだっただろう。(I V)</li> <li>感想を話し合いたい。(VVI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ猫は人間を食べようとしたのか。(III V)</li> <li>なぜしんしはこんな怖い目に合ったのか。(III V)</li> <li>なぜしんしは最後に顔がもともどらなかつたのか。(III V)</li> <li>この作品で宮沢賢治は何を伝えたかったのだろう。(IIIIV)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分だったらクエを刺すだろうか。(VVI)</li> <li>太一が海の主を刺さなかったことをどう思うか。(VVI)</li> </ul>

問いの層      I：作品の中の問い      II：作品と別作品とを関わらせた問い      III：作品と作者とを関わらせた問い  
 IV：作品と（時代）情景・状況とを関わらせた問い      V：作品と読み手（自分自身）とを関わらせた問い  
 VI：読み手と他の読み手とを関わらせた問い

問いは学年で大きな違いはない。違うのは、教材の難しさと考える深さ、関係性。

前の文学的文章の問いの学びから

問  
い  
の  
深  
化  
・  
新  
し  
い  
問  
い  
の  
出  
現

単元を貫く問い(学習課題)

学習のゴールを示し、児童と共に設定。問いの枠となる。

「どうすれば~ができるだろう。」  
本質的な問い・付けたい力との関連

確認の問い

「物語を読むときには、登場人物や中心人物、行動や気持ちを確認しておこう。」

解決に向けての問い

「おもしろいな。」  
「ふしぎだな。」  
「どうしてだろう。」  
「みんなと考えてみたいな。」

初発の感想などから子供たちと設定できる。児童から出てきた問いを生かす。

考えを深める問い

「作者の思いは?」「他の作品は?」「自分だったら?」

考えを広げる問い

子供たちと考えるが、教師から提示することも考えられる。

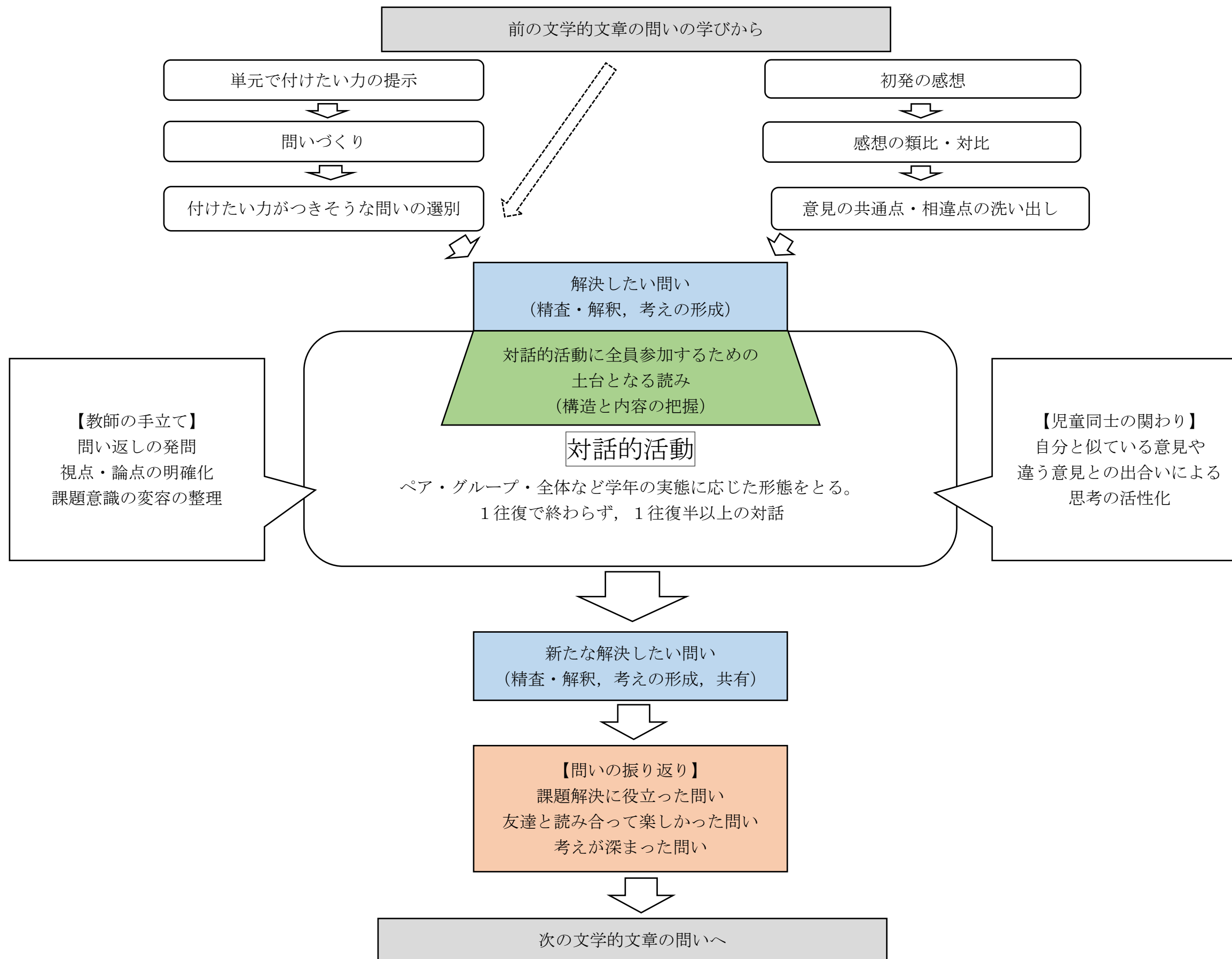
「みんなはどう考えたのかな。」  
「自分の考えをもっと広げたいな。」

「この問いをみんなで考えるのは楽しかったな。」  
「みんなの考えを聞くことができ、自分の考えが変わったな。」  
「次の学習でも生かせそうだな。」  
「こういう問いを作ればいいんだな。」

問いの振り返り

次の文学的文章の問いへ

# “問い”を手掛かりに学びを深める活動の流れイメージ図



土堂小学校版！ 算数科「思考力・表現力」の系統表 —割合の学習につながる立式の系統性に着目して—

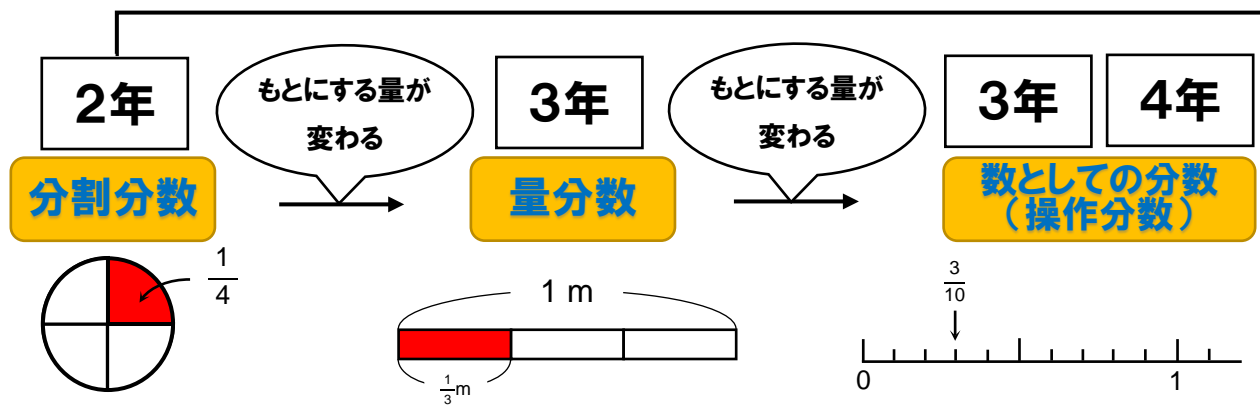
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
めやす資質・能力	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力							
	問題場面を適切に表して演算決定する力	「1つ分の数×(いくつ分)」や「何倍か」を用いて、全体の大きさを考える力	「1つ分」を「もとにする大きさ(1つ分, 1倍)」として捉え、わり算を用いて、何倍かを考える力 かけ算を用いて、倍の大きさを考える力	「いくつ分」から「割合の見方」で倍を捉える力 「割合の見方」を用いて、かけ算になる理由を説明する力	かけ算を用いて、小数倍の大きさを考える力 基準量や比較量が小数のときも、わり算を用いて、何倍かを考える力 基準量・比較量・割合の関係を捉える力	「割合の見方」を用いて、身の回りの事象を捉え、見通しをもち筋道を立てて考える力		
めやす説明の姿(3年生以上はわり算)	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力							
	ブロック操作やまる図等で、式の意味や立式した理由を表現する力	テープ図・比例テープ図で、かけ算で立式した理由を説明する力	比例テープ図・比例数直線で、わり算やかけ算で立式した理由を説明する力	比例数直線で、「割合の見方」でわり算やかけ算で立式した理由を説明する力	比例数直線や線分図等で、「割合の見方」で小数倍などの立式した理由を説明する力 図を用いて、基準量・比較量・割合の関係を説明する力	比例数直線・線分図等で、「割合の見方」を用いて立式した理由を説明する力		
	<p><b>たしざん</b></p> <p>あめが6つあって、ガムの数あめより3つ多いので、6+3をして答えは9つです。(求大)</p> <p><b>たしざん</b></p> <p>まえの人は、わたしを入れて6人で、わたしのうしろの人は3人なので、6+3で9人です。(順序数を含む加法)</p> <p><b>ひきざん</b></p> <p>あめとガムを1つずつ比べます。すると3つちがいます。だから、9-6=3で、あめが3つ多いです。(求差)</p>	<p><b>A2 かけ算(1)</b></p> <p>3cmが1つ分で、その2つ分だから3×2です。</p> <p><b>1つ分を意識</b></p>	<p><b>A3 わり算</b></p> <p>36mは4つ分で、その1つ分にあたる(もとにする)大きさを求めるので36÷4です。</p> <p><b>「1つ分」=「もとにする大きさ」を求める(等分除)</b></p>	<p><b>A4 小数÷整数</b></p> <p>7.3mを5としたとき、1にあたる数を求めるので7.3÷5です。</p> <p><b>「もと=1つ分」から「割合の見方」へ</b></p>	<p><b>A5 整数÷小数</b></p> <p>4mを0.8としたとき、1にあたる数を求めるので4÷0.8です。</p> <p><b>「割合の見方」を小数で(基準量)</b></p>	<p><b>A5 割合</b></p> <p>60㎡を20(0.2)としたとき、100(1)にあたる数を求めるので60÷0.2です。</p> <p><b>基準量を求める(第3用法)</b></p>	<p><b>A5 速さ</b></p> <p>170kmを2.5としたとき、1にあたる数を求めるので170÷2.5です。</p> <p><b>速さを求める(基準量)</b></p>	<p><b>A6 分数÷分数</b></p> <p>2/5㎡を3/4としたとき、1にあたる数を求めるので2/5÷3/4です。</p> <p><b>基準量を求める</b></p>
	<p><b>B2 かけ算(1)</b></p> <p>3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4です。</p> <p><b>「倍」を意識</b></p>	<p><b>B3 わり算、テープ作り</b></p> <p>1つ分にあたる(もとにする)大きさが9cmで、いくつ分かを求めるので36÷9です。</p> <p><b>「もとにする大きさ」の「いくつ分」を求める(包含除)</b></p>	<p><b>B4 小数÷整数、倍の計算</b></p> <p>2mを1としたとき、13.5mにあたる数を求めるので13.5÷2です。</p> <p><b>「いくつ分」から「割合の見方」へ</b></p>	<p><b>B5 整数÷小数</b></p> <p>2.4Lを1としたとき、8.4Lにあたる数を求めるので8.4÷2.4です。</p> <p><b>「割合の見方」を小数で(倍, 割合)</b></p>	<p><b>B5 割合</b></p> <p>300㎡を100(1)としたとき、60㎡にあたる数を求めるので60÷300です。</p> <p><b>割合を求める(第1用法)</b></p>	<p><b>B5 速さ</b></p> <p>68kmを1としたとき、170kmにあたる数を求めるので170÷68です。</p> <p><b>時間を求める(倍, 割合)</b></p>	<p><b>B6 分数÷分数</b></p> <p>3/5㎡を1としたとき、4/5㎡にあたる数を求めるので3/5÷4/5です。</p> <p><b>倍, 割合を求める</b></p>	

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	5年生	6年生	
めざす説明の姿 (2年生以上はかけ算)	<b>ひきざん</b>  左ひくる人は、わたしを入れて6人で、全員で9人だから、わたしの右ひくる人は $9 - 6 = 3$ 人です。 (順序数を含む減法)	<b>C2 かけ算(1)</b>  3cmが1つ分で、その2つ分だから $3 \times 2$ です。	<b>C3 かけ算の筆算</b>  長いなわの長さは、短いなわの長さをもとにすると3つ分だから、 $140 \times 3$ です。	<b>C4 倍の計算</b>  180cmを1としたとき、3にあたる長さを求めるので、 $180 \times 3$ です。	<b>C5 分数×整数</b>  $2/5$ を1としたとき、2にあたる大きさを求めるので、 $2/5 \times 2$ です。	<b>C5 割合</b>  300 m <sup>2</sup> を100(1)としたとき、20(0.2)にあたる数を求めるので $300 \times 0.2$ です。	<b>C5 速さ</b>  68kmを1としたとき、2.5にあたる大きさを求めるので $68 \times 2.5$ です。	<b>C6 分数×分数</b>  $3/5$ dLを1としたとき、 $5/2$ にあたる大きさを求めるので $3/5 \times 5/2$ です。
	<b>ひきざん</b>  あめは9つで、ガムはあめより3つ少ないので、 $9 - 3 = 6$ 個です。 (求小)	<b>D2 かけ算(1)</b>  3が1倍で、4倍はその4つ分だから $3 \times 4 = 12$ です。	<b>D3 かけ算の筆算</b>  1つ分の値段をもとにすると全部の代金は3倍だから、 $20 \times 3$ です。	<b>D4 小数×整数</b>  0.3Lを1としたとき、6にあたる大きさを求めているので、 $0.3 \times 6$ です。	<b>D5 整数×帯小数</b>  80を1としたとき、2.3にあたる大きさを求めるので、 $80 \times 2.3$ です。	<b>D5 割合</b>  24を100(1)としたとき、125(1.25)にあたる大きさを求めるので、 $24 \times 1.25$ です。	<b>D5 速さのまとめ</b>  0.34kmを1としたとき、5にあたる大きさを求めるので、 $0.34 \times 5$ です。	<b>D6 整数×分数</b>  3kmを1としたとき、 $4/3$ にあたる大きさを求めるので、 $3 \times 4/3$ をしてです。
	<b>ひきざん</b>  1人が1つずつおしに替わるので、5人替わります。だから、替わらない人は、 $7 - 5 = 2$ 人です。(異種のものの数量を含む減法)	<b>E2 かけ算(1)</b>  3が1倍で、4倍はその4つ分だから $3 \times 4 = 12$ です。	<b>E3 □を使った式</b>  1本分の値段を□とすると、□がもとなので、全部の代金はその10倍だから、 $\square \times 10 = 800$ です。	<b>E4 整数×帯小数</b>  20mを1としたとき、2.5にあたる大きさを求めるので $20 \times 2.5$ です。	<b>E5 整数×純小数</b>  80を1としたとき、0.8にあたる大きさを求めるので $80 \times 0.8$ です。	<b>E5 割合</b>  24 m <sup>2</sup> を100(1)としたとき、25(0.25)にあたる数を求めるので $24 \times 0.25$ です。	<b>E5 速さのまとめ</b>  60kmを1としたとき、 $1/3$ にあたる大きさを求めるので、 $60 \times 1/3$ です。	<b>E6 比とその利用</b>  砂糖と小麦粉の重さの比は5:7。砂糖の重さは、小麦粉の重さを1としたときの $5/7$ にあたります。だから、 $140 \times 5/7$
<b>ひきざん</b>  あめを3つもらったら全部で5つになったので、はじめの数は $5 - 3 = 2$ 個です。 (増加前推論, 2年)	<b>「倍」を意識</b>	<b>「1倍」=「もとにする大きさ」を使って求める</b>	<b>「割合の見方」へ</b>	<b>帯小数倍へ(比較量)(2.3)</b>	<b>百分率へ(比較量)(1.25)</b>	<b>道のりを求める(比較量)</b>	<b>分数倍へ</b>	
参考: みんなと学ぶ小学校算数(学校図書) 新しい算数(東京書籍)	<b>「倍」を意識</b>	<b>「1倍」=「もとにする大きさ」を使って求める</b>	<b>帯小数倍から導入(2.5, 1.5)</b>	<b>純小数倍へ(比較量)(0.8)</b>	<b>百分率へ(比較量)(0.25)</b>	<b>道のりを求める(比較量)</b>	<b>「割合の見方」で</b>	

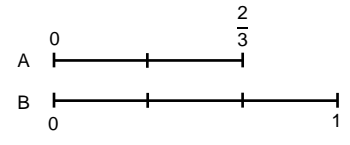




# 分数の系統図(土堂小学校)




**5年**  
**割合分数**



もとする量を1としたときの比べられる量の割合を表す。

Bを1としたとき、Aは $\frac{2}{3}$ にあたるよ。




これまでに学習した整数倍、小数倍をもとに、分数倍を指導する。その際、 $\frac{4}{3}$ 倍は「もとの大きさを1としたときの $\frac{4}{3}$ にあたる大きさ」であることや「もとの大きさを3等分した大きさの4つ分の大きさ」であることをおさえる。分数を用いると、小数倍では正確に表せない場合でも、倍を表すことのできるよさに気付かせる。



**商分数**

整数の除法の結果(商)を表す。

$2 \div 3 = \frac{2}{3}$ と表すことができるよ。  
小数ではわり切れないけれど、分数だと正確に表せるよ。



2Lの牛乳を1人~5人で分けたときの1人分を考え、3人で分けたときに商が0.666...となって割り切れないことから、分数を用いた表し方を考える。その際、量分数の学習を振り返り、もとする量は1Lでなければならないことをおさえる。

分数の意味	もとする量が任意であり、具体物を等分割したもののいくつか分を表す。	もとする量が1mや1Lといった普遍的な基本単位であり、測定した量の大きさを表す。	もとする量が数の「1」であり、1を等分割したもののいくつか分を表す。
子供の姿	<p>ピザを4等分した1つ分の大きさをピザの<math>\frac{1}{4}</math>というよ。</p> 	<p>1mを3等分した1つ分の長さを<math>\frac{1}{3}</math>mというよ。 1Lを3等分した1つ分のかさを<math>\frac{1}{3}</math>Lというよ。</p> 	<p>1を10等分した3つ分の大きさを<math>\frac{3}{10}</math>というよ。0.3と同じ大きさだ。1を6等分した1つ分が<math>\frac{1}{6}</math>で、それが7つ分だと<math>\frac{7}{6}</math>だ。</p> 
指導のポイント	具体物を半分にするなど、具体物を操作することによって、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{8}$ などの大きさをつくり、等分の意味をおさえる。また、もとの大きさとその $\frac{1}{2}$ の大きさや $\frac{1}{4}$ の大きさなどを比べ、その観察を通して、乗法や除法の素地となる見方を指導する。さらに、もとする大きさが変われば、同じ $\frac{1}{4}$ でも大きさが異なることをおさえる。	1mのテープなどの具体物を操作することによって、 $\frac{1}{2}$ m、 $\frac{1}{3}$ m、 $\frac{2}{3}$ mなどの具体的な量を表すことができることを指導する。分割分数としての $\frac{1}{3}$ はたくさんあるが、量分数の $\frac{1}{3}$ mは1つしかないことや、分割分数はもとの大きさを超えないが、量分数は1mや1Lを超える大きさが存在することをおさえる。	1を10等分した1つ分の大きさが $\frac{1}{10}$ であり、0.1と等しい大きさであることを指導する。また、「 $\frac{3}{10}$ は $\frac{1}{10}$ の3つ分」など単位分数のいくつかで数えたり、表したりすることを大切にする。また、1を10等分した目盛りで $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{5}$ の位置を考えることなどを通して、数としての分数はもとする量が常に数としての1であることをおさえる。

※ 本系統図は、福岡教育大学・准教授・岩田耕司氏の指導のもと、以下の文献をもとに作成している。  
 ・文部科学省(2018).『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編』, 日本文教出版, pp.245-246.  
 ・山村翔(2017).『算数科における系統的な分数指導の研究』, 福岡教育大学卒業論文(未公開).

自分に身に付いてきた「コンピテンシー」(資質や能力)を振り返ろう。( )学期 年 組 番 名前( )

	活動内容		活動内容
①		⑨	
②		⑩	
③		⑪	
④		⑫	
⑤		⑬	
⑥		⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	

あてはまるところだけ印を付けましょう。よくできた◎ できた○ あまり△ ※全部に○, △, ×を付けなくていいです。

コンピテンシー		活動番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
スキル																		
いよく・たいど 意欲・態度																		
かちかん 価値観 りんりかん 倫理観																		
ちしき 知識																		

付けたい力, なりたい姿(すがた)

	がんばったこと, 成長してきていることなど	もっと～してみたいこと, 次の目標など
①		
②		
③		
④		

⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
⑭		
⑮		
⑯		

### Ⅲ 基礎・基本定着のための取組

#### モジュール授業

##### 1 モジュール授業の原理

モジュール授業では、児童に「基礎的・基本的な知識・技能」を習得させるための「読み・書き・計算」を中心とした徹底反復学習を行っている。高速で音読したり単純な計算を繰り返したりする徹底反復学習を行うことにより、脳の活性化が図られる。その結果、児童の学習能力が高まると考える。そのため、児童が集中して徹底反復学習に取り組むことができるように「スピード・テンポ・タイミング・個へのアプローチ」をキーワードとして指導の工夫を行っている。スピード感を保ちつつ、テンポ・タイミング良く教材を提示するツールとして、情報機器を活用している。

##### 2 モジュール授業の目標と内容

モジュール授業は、国語科・算数科・その他の教科等の内容を、それぞれ 15 分間のユニットとして指導している。主な指導内容として、次に示すものがあげられる。

国 語 科	<p><b>(音読)</b> 名文やリズムのある作品を音読することで、基礎となる音読する力や読解を助ける力を身に付けさせる。</p> <p><b>(辞書引き)</b> 語彙能力の向上を図るために、辞書引き月間(9月)を設定して、集中して辞書引きに取り組んでいる。発達段階を考慮し、低学年ではルビ入りの国語辞典を使用している。</p> <p><b>(漢字の前倒し学習)</b> 漢字習得率の向上を図るため、年度初めに新出漢字を前倒しして指導し、その後、漢字の反復学習を実施する。</p> <p><b>(聞き取り)</b> 文学的文章や説明的文章等を聞き取り、正しく聞き取る力やメモを取り、聞き取ったことをまとめる力を身に付けさせる。</p>	<p><b>(フラッシュ)</b> 各教科・各学年に応じた内容を練習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、当該学年だけでなく、前学年までの内容を繰り返し練習したり、確認したりすることで定着率を高める。</p> <p>【国語科】 文法、ローマ字、言語事項など</p> <p>【算数科】 計算、図形など</p> <p>【社会科】 地図記号、都道府県、歴史、世界の国々など</p> <p>【理科】 実験器具、理科学語など</p> <p>【外国語活動】 数、色、食べ物など</p>
算 数 科	<p><b>(ます計算)</b> ます計算に取り組むことで、算数科の基礎となる計算力の向上を図る。</p> <p><b>(そろばん)</b> 低学年において、数感覚を養ったり、数と計算の意味について理解させたりするために、そろばんを指導している。</p>	
そ の 他 の 教 科	<p><b>(カルタ)</b> 都道府県や歴史など各学年に応じた内容を練習し、教科における基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。</p> <p><b>(外国語活動)</b> 英語のジングルやチャンツを利用し、様々な単語や英語の発音などに慣れ親しませる。</p>	

### 3 モジュール授業の系統性

年度初めに各学年の音読・算数・その他の分野におけるめざす姿や数値を設定した。目標を意識しながら、児童の実態に合わせて指導を進めていくことができると思う。

	低学年	中学年	高学年
音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢，口形</li> <li>はっきりと，正しく読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい口形</li> <li>内容を考えて読む (強弱・抑揚・間等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい口形，伝わる声</li> <li>内容を考えて読む (強弱・抑揚・間等)</li> </ul>
算数 計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>そろばんに慣れ親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位換算 ・数量関係</li> <li>量のイメージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位換算 ・算数用語の定義</li> <li>数量関係 ・量のイメージ</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して，より速く，正確に解ける</li> <li>自分の目標をもって取り組む。→タイム・解いた問題数を記録していく</li> </ul>		
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語に慣れ親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・理科の重要用語の徹底</li> <li>英単語を発音したり，聞き取ったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・理科の重要用語の徹底</li> <li>英語で簡単な会話をしたり，英文を書いたりする</li> </ul>

#### 【1年】

10ます足し算	10ます引き算	50ます足し算	100ます足し算
10秒	10秒	1分	3分

#### 【2年】

100ます足し算	100ます引き算	10ますかけ算	100ますかけ算
2分	2分30秒	15秒	2分

#### 【3年】

100ますかけ算	A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算
2分	1分30分	3分	3分	5分

#### 【4年】

A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算	C型100問わり算
2分	3分	3分	4分30秒	5分

#### 【5年】

C型100問わり算
4分

#### 【6年】

C型100問わり算
3分

### 4 モジュール授業を共有，発展させるために

児童の実態に応じたモジュール教材の改善・開発を行った。作成した教材を一つのフォルダに集めて共有化し，どの学年の指導者も，当該学年だけでなくその他の学年の内容を確認したり，活用したりできるようにしている。そうすることで，新出した内容だけでなく，既習事項の内容を確認することができたり，計画的・系統的に進めたりすることができると思う。

## 例【6年】

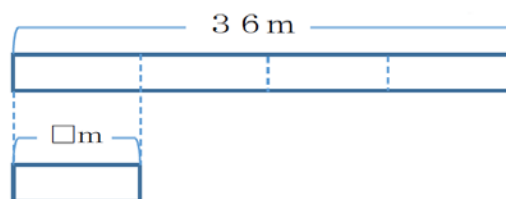
	国語的内容	算数的内容	外国語活動	社会・理科
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【漢字】</li> <li>・全漢字</li> <li>・リズム漢字</li> <li>【音読】</li> <li>・雨二モマケズ</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・慣用句・敬語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・対称, 倍数, 約数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・アルファベット</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・国</li> <li>・色</li> <li>・教科</li> <li>【プリント】</li> <li>・I'm from (America).</li> <li>・My favorite color is (red).</li> <li>・My favorite subject is (Japanese).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(人物, 事件)</li> <li>・世界遺産</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・慣用句, 敬語, 熟語の構成</li> <li>【音読】</li> <li>・雨二モマケズ</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・説明文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・文字と式</li> <li>・逆数</li> <li>・単位換算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・国</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・国</li> <li>・行事</li> <li>【プリント】</li> <li>・Welcome to (America).</li> <li>・You can enjoy (tempura).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(人物, 事件)</li> <li>・世界遺産</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・慣用句, 敬語, 熟語の構成</li> <li>【音読】</li> <li>・雨二モマケズ</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・説明文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・割合</li> <li>・文字と式</li> <li>・逆数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・食べ物</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・国</li> <li>・食べ物</li> <li>【プリント】</li> <li>・Welcome to (America).</li> <li>・You can enjoy (tempura).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(人物, 事件)</li> <li>・世界遺産</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・慣用句, 敬語, 熟語の構成</li> <li>【音読】</li> <li>・雨二モマケズ</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・説明文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・割合</li> <li>・図形の面積</li> <li>・逆数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・動物</li> <li>・アルファベット</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・身の周りのもの</li> <li>・動作</li> <li>【プリント】</li> <li>・I want (a new recorder).</li> <li>・I can (swim).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(人物, 事件)</li> <li>・世界遺産</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・和語, 漢語, 外来語の由来</li> <li>・接尾語, 対義語</li> <li>【音読】</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>・徒然草</li> <li>・孫子</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・新聞記事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・速さ</li> <li>・体積</li> <li>・比</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・動物</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・公共施設</li> <li>・動作</li> <li>【プリント】</li> <li>・We have a (library).</li> <li>・We can enjoy (fishing).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(戦争～戦後)</li> <li>・日本国憲法</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・和語, 漢語, 外来語の由来</li> <li>・接尾語, 対義語</li> <li>【音読】</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>・徒然草</li> <li>・孫子</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・新聞記事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・比</li> <li>・体積</li> <li>・単位換算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・アルファベット</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・場所</li> <li>・動作</li> <li>【プリント】</li> <li>・We have a (school).</li> <li>・I enjoyed (fishing).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(戦争～戦後)</li> <li>・日本国憲法</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>

5 割合に関するフラッシュ教材例

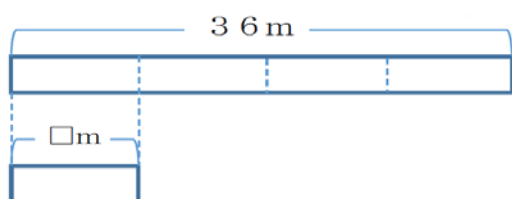
① 基準量を求める

# 4年生

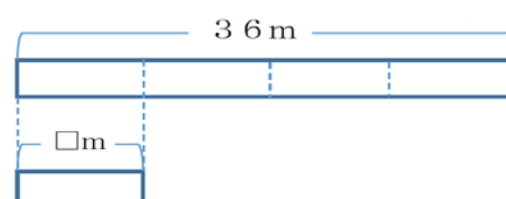
36mのロープがあります。4つに等しく分けると、1つ分の長さは何mでしょうか。



式の理由を説明しましょう。



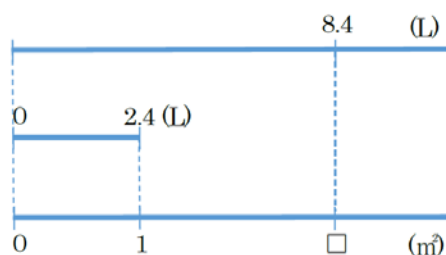
36mは  分で、その  分にあたる(もとにする)大きさを求めるので  $36 \div 4$  です。



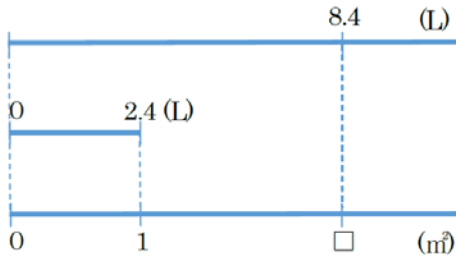
② 割合を求める

# 5年生

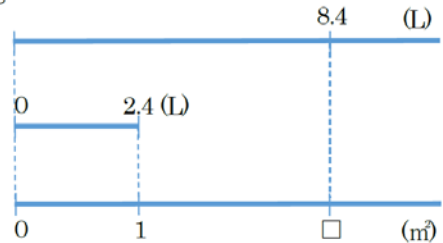
1㎡に2.4Lの水をまきます。8.4Lの水では、何㎡にまくことができますか。



式の理由を説明しましょう。



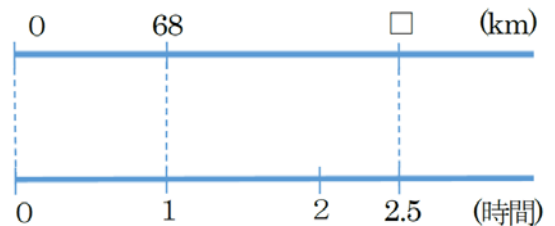
2.4L を ■ としたとき, ■ にあたる数を求めるので  $8.4 \div 2.4$  です。



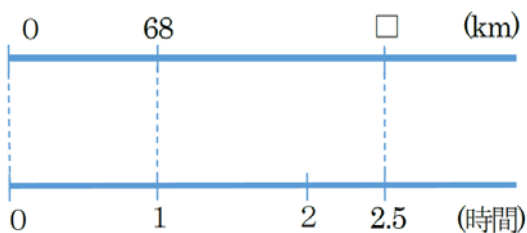
③ 比較量を求める

# 6年生

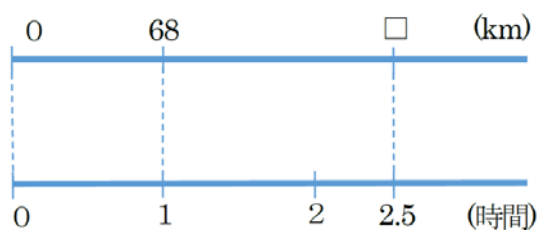
時速68kmの車があります。  
2.5時間走ると, 何km走るでしょうか。



式の理由を説明しましょう。



68を ■ としたとき, ■ にあたる数を求めるので,  $68 \times 2.5$  です。





## IV 研究の結果と考察（中間）

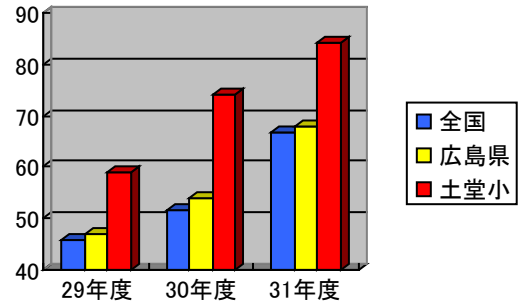
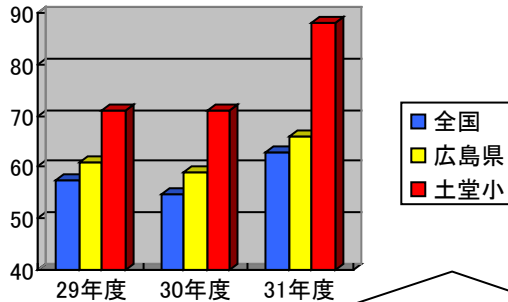
### 1 全国学力・学習状況調査(平均正答率) —第6学年—

国語の平均正答率 (%)

	29年度	30年度	31年度
全国	57.5	54.7	63.8
広島県	61.0	59.0	66.0
土堂小	72.0	71.0	88.0
全国との差	+14.5	+16.3	+24.2

算数の平均正答率 (%)

	29年度	30年度	31年度
全国	45.9	51.5	66.6
広島県	47.0	54.0	68.0
土堂小	59.0	74.0	84.0
全国との差	+13.1	+22.5	+17.4



※ 昨年度まで国語 A と国語 B, 算数 A と算数 B に分かれていたため、H29年度とH30年度の結果は B 問題の結果を載せています。

#### 全国学力・学習状況調査について

全国平均に比べると国語科で 24 ポイント以上、算数科で 17 ポイント以上上回ることができた。「知識」「活用」ともおおむね定着が図られていると捉える。本校の目標（県平均+12）を達成することができた。

教科	課題	今後の取組
国語	①目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件をつけたり、説明文での大切な言葉を使ったりして書く練習をする。</li> <li>テストなど記述問題で文末表現を意識させる。</li> </ul>
	②図表やグラフなどを用いた目的を捉えること。何のための図・グラフなのか読み取ること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語や、総合的な学習の時間など、資料を使う時、意味を考えながらまとめる活動を仕組む。</li> </ul>
	③文の中で漢字を正しく使うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語のみではなく、文章の中で漢字が正しく使えるように練習する。習った漢字は使うようにする。</li> </ul>
算数	①示された減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめることとなるのかを書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数の言葉を用いて自分の考えをまとめたり説明したりする活動を取り入れる。</li> <li>学習の振り返り等で、友達の考え方を解釈したことを、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>
	②単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味理解に課題がある。→ (人数) ÷ (面積) の商が、何を求めているか理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>式の意味を理解させるために、図に表して式の意味を説明させる。言葉の式に整理し、求めている商について説明させる。</li> </ul>
	③2つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらに関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>理由を説明する際に、具体的な数を使ったり、立式を用いたりさせる。</li> </ul>

## 2 質問紙調査

(13)～(27)は、平成28年度「基礎・基本」定着状況調査 児童質問紙調査票から「学びの变革」パイロット校事業の検証に用いる質問事項(13)～(27)を抜粋したものである。9割以上の項目

No	質問項目	県5年	本校6年	本校5年	本校4年	本校3年	本校平均	県との差 本校平均と
13	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。	80.7	88.1	97.3	80.8	78.4	86.2	+5.5
14	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	84.4	92.8	89.4	87.2	80.3	87.4	+3
15	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	50.4	88.1	89.4	70.2	70.5	79.6	+29.2
16	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	59.6	92.8	92.1	89.3	70.5	86.2	+26.6
17	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	72.6	90.4	94.7	63.8	74.5	80.9	+8.3
18	授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見つけたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	73.6	88.1	97.3	74.4	76.4	84.1	+10.5
19	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	64.4	83.3	78.9	74.4	72.5	77.3	+12.9
20	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	66.6	83.3	84.2	80.8	72.5	80.2	+13.6
21	授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	70.8	90.4	92.1	74.4	70.5	81.9	+11.1
22	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	70	83.3	86.8	76.5	78.4	81.3	+11.3
23	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	74.3	78.5	94.7	85.1	76.4	83.7	+9.4
24	ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	81	92.8	100	80.8	82.3	90	+9
25	授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	79.4	92.8	97.3	74.4	76.4	85.2	+5.8
26	授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	70.3	90.4	94.7	85.1	80.3	87.6	+17.3
27	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	69	83.3	92.1	82.9	80.3	84.7	+15.7
	平均	71.1	87.9	92.1	78.7	76	83.7	+12.6

## V 研究のまとめ（中間）

### 1 成果

#### 成果① 児童の資質・能力を高める課題発見・解決学習のための授業づくり

今年度も、昨年度の反省を踏まえ、実践した開発単元の見直しを図り、これまで開発した単元を改善する形で授業実践を行った。総合的な学習の時間のみならず、教科においても育成したい資質・能力や「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・創造・表現、実行、振り返り」の探究のプロセスを明確にした単元開発を行い、導入の工夫や他教科との関連を図るなどして、児童の学習意欲を高めながら、授業を行うことができた。学力テストの結果や質問紙調査の結果からみても高い成果を挙げていると考える。

#### 成果② 児童の資質・能力育成のための系統表の作成

本校で設定した資質・能力のうち、とりわけ「思考力・表現力」の系統表の見直しを行った。国語科では、「問いの系統表」、算数科では、「割合の系統表」と「分数の系統図」を活用した授業作りに取り組んだ。系統表を作成したことにより、ゴールイメージに向けて段階的に力を積み重ねることができ、児童が考えたり、自分の考えを友達に説明したりするという力につながっていると考える。また、1時間の授業や単元における児童の目指す姿を具体的にイメージすることにつなげることができた。

#### 成果③ 児童の確かな学力の定着につながった学習習慣の確立

学ぶ習慣づくりのために、モジュール授業、家庭学習、その他様々な取組を行った。モジュール授業の取組においては、今年度で17年目を迎えた。音読や聞き取り、まず計算など、学習の基礎・基本の定着を図り、インプットしたことをアウトプットする習慣を身に付けさせるために、全学年、全職員で継続して取り組んできたことが、児童の確かな力へとつながっている。今年度も、算数科「割合」の単元のモジュール教材を3年生以上の学年で実施と活用することができた。また、モジュール授業に関わる研修や開発、実施等の工夫が充実したことも成果の大きな要因である。

### 2 課題と今後に向けて

#### 課題と今後に向けて① 児童の資質・能力の育成

単元開発や改善を図ってきたが、今後の課題となったのは、質問紙調査の結果から「情報収集」と「自分の考えを積極的に伝える」に関する質問項目に課題が見られた。各教科を通して、情報収集をする場の設定や、情報収集をしたくなるような課題設定の工夫などを行ったり、友達と話したくなるような授業作りに取り組んでいったりしたい。また、児童の深い学びのために教材研究や理論研修を行ってきたが、児童の実態、そして目指す児童の姿を明確にして取り組んでいきたい。

#### 課題と今後に向けて② 資質・能力の系統表と検証

今年度も、作成した系統表を基に授業作りを行ったが、1時間の授業の中でどの児童にも力を付けることや説明する力を付けることにはまだ課題がある。また、その力が身に付いたかを適切に見取るための評価問題についても検討し続けていく必要がある。

# VI 日程

# VI 日 程

8:40 9:10 9:40 9:50 10:35 10:50 11:10 12:00 13:00 14:30 14:45 15:00 16:20 16:30

受付	公開授業 モジュール授業	移動	公開授業 総合的な学習の時間 特別支援教育 国語科・算数科	移動	児童発表	実践報告 開会行事	昼食・休憩	分科会	移動	講評	講演	閉会行事
----	-----------------	----	--	----	------	--------------	-------	-----	----	----	----	------

## 公開授業 I (モジュール授業) (9:10~9:40)

内 容	公開学年	授業者	会 場
<p style="text-align: center;"><b>モジュール授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読，暗唱，漢字，聞き取り</li> <li>・ます計算，フラッシュ</li> <li>・歴史，外国語活動 など</li> </ul>	1年1組	岡 明 美	1年1組 教室
	1年2組	上田 千紘	1年2組 教室
	2年1組	綿貫 岳人	2年1組 教室
	2年2組	亀本 拓朗	2年2組 教室
	3年1組	重光 泰徳	3年1組 教室
	3年2組	田邊日向子	3年2組 教室
	4年1組	梶本 沙織	4年1組 教室
	4年2組	舛上 敏成	4年2組 教室
	5年1組	赤羽 夏美	5年1組 教室
	6年1組	菅方 賢司	6年1組 教室
	6年2組	谷川 友弥	6年2組 教室
	特別支援学級(知的)	岩本 章子	たんぽぽ 学級教室
	特別支援学級(自閉症・情緒)	黒飛 美稲	さくら 学級教室
特別支援学級(難聴)	岡田美紀代	すみれ 学級教室	

## 公開授業Ⅱ (国語科・算数科・総合的な学習の時間・特別支援教育)

(9:50～10:35)

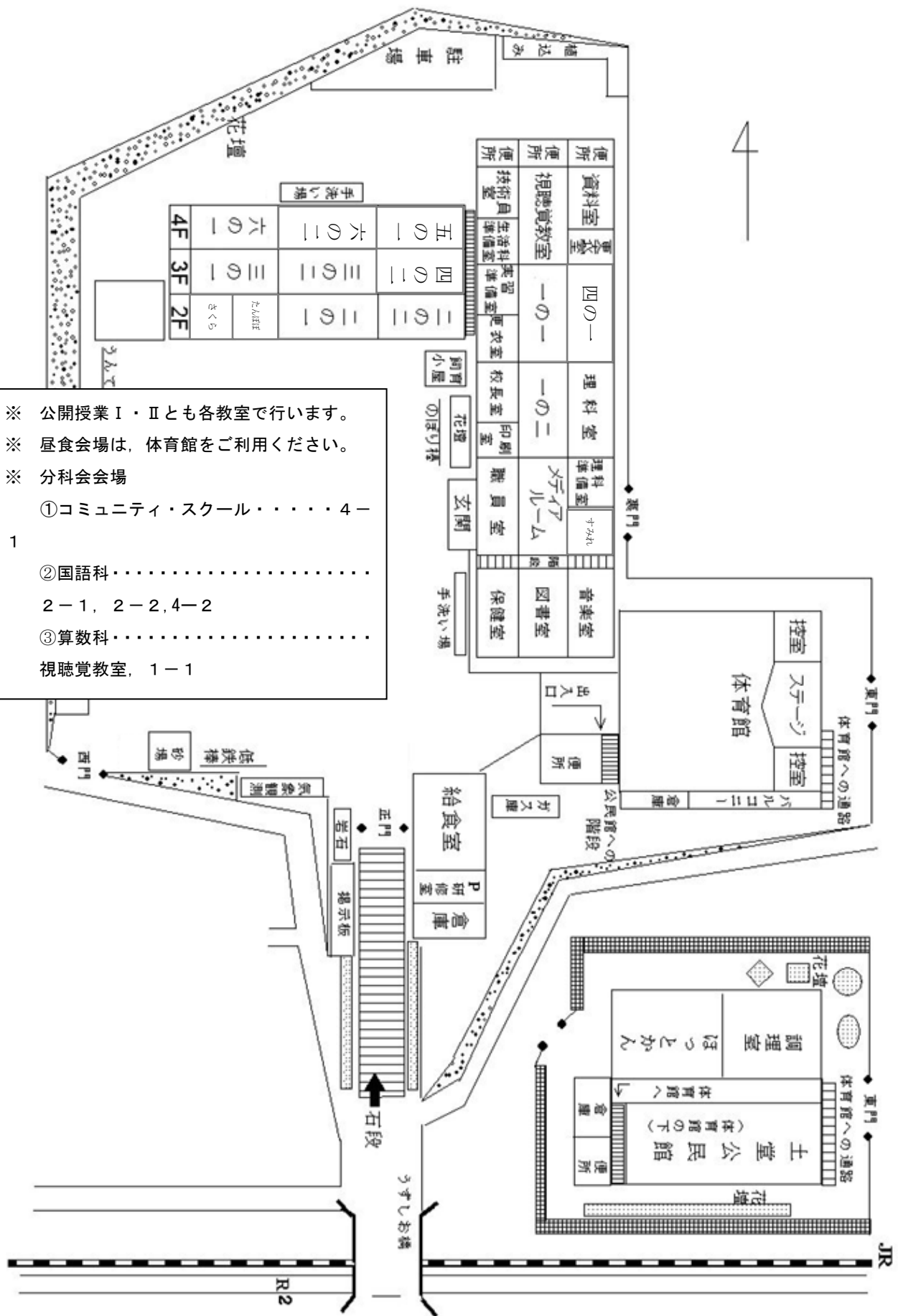
公開学年	教科領域名	単元・題材名	授業者	会場
1年1組	国語科	おとうとねずみ チロ 「こんなことをした登場人物を〇〇と思ったよ。」～どくしよゆうびんでつたえよう～	岡 明美	1年1組 教室
1年2組	算数科	ひきざん(2) どっちがわかりやすいかな?ひきひき法とひきたす法	上田 千紘	1年2組 教室
2年1組	算数科	かけ算(3) 九九を使って考えよう	綿貫 岳人	2年1組 教室
2年2組	国語科	かさこじぞう 場面の様子を想像するには、何に着目して読むといいかな?	亀本 拓朗	2年2組 教室
3年1組	総合的な 学習の時間	未来へ受け継ごう 尾道の祭り	T1重光 泰徳 T2灰垣亜希子	3年1組 教室
3年2組	算数科	分数 分数の計算の仕方を考えよう	田邊 日向子	3年2組 教室
4年1組	国語科	ごんぎつね ごんの気持ちは届いたのかな?～読んで考えたことを伝え合おう～	梶本 沙織	4年1組 教室
4年2組	算数科	計算の仕方を考えよう Run up for “小数のかけ算わり算”	舛上 敏成	4年2組 教室
5年1組	算数科	割合とグラフ 割合ってどんな数?	赤羽 夏美	5年1組 教室
6年1組	国語科	海のいのち 太一の成長に大きく関係した人物は?～サポーターグラフで話し合おう～	菅方 賢司	6年1組 教室
6年2組	算数科	速さ 速さを比べよう	谷川 友弥	6年2組 教室
特別支援学級 (知的)	生活単元学習	「買い物学習」～GO!	岩本 章子	たんぼぼ 学級教室
特別支援学級 (自閉症・情緒)	自立活動	「聞いてQ!」 ～相手の話をよく聞こう～	黒飛 美穂	さくら 学級教室
特別支援学級 (難聴)	自立活動	「気持ちのプレゼント」 ～「もちもちの木」の劇を成功させよう～	岡田 美紀代	すみれ 学級教室

## 児童発表

(10:50～11:10)

○土堂っ子太鼓(6年生児童)

地域に伝わるベッチャー太鼓をアレンジし、全校児童が継承し、今年度で28周年を迎えました。



- ※ 公開授業 I・IIとも各教室で行います。
- ※ 昼食会場は、体育館をご利用ください。
- ※ 分科会会場
  - ①コミュニティ・スクール……………4-1
  - ②国語科……………2-1, 2-2, 4-2
  - ③算数科……………視聴覚教室, 1-1

## Ⅶ 全体会

### 開会行事

(11:10～11:30)

---

主催者挨拶

尾道市教育委員会

尾道市立土堂小学校 校長 宮本 佳宏

来賓祝辞

広島県東部教育事務所 所長 立花 正行



尾道市立土堂小学校 研究主任 谷川 友弥

## 分科会

(13:00～14:30)

分科会名 (会場)	協議テーマ	指導・助言者
コミュニティ・スクール (4年1組)	学校運営協議会によるミッション ステートメントの建議とその具現化へ	比治山大学・比治山大学短期大学部副学長 広島大学名誉教授 林 武広 先生
国語科 (2年1組) (2年2組) (4年2組)	“問い”を手掛かりに主体的・対話的で 深い学びの実現をめざす国語科授業	福岡教育大学 教育学部 教授 河野 智文 先生 尾道市教育委員会 指導主事 大矢 純一 先生
算数科 (視聴覚室) (1年1組) (1年2組)	数学的な見方・考え方を育成する 算数科授業	福岡教育大学 教育学部 准教授 岩田 耕司 先生
総合的な 学習の時間 (3年1組)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 総合的な学習の時間	尾道市教育委員会 指導主事 才谷 瑛一 先生
特別支援教育 (3年2組)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 特別支援教育	広島県立尾道特別支援学校 教育相談主任 井桁 陽介 先生 教育相談主任 新林 美穂 先生

## 講評

(14:45～14:55)

広島県東部教育事務所 指導主事 兼永 正彦 様



「算数科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

～割合や分数の学習指導を通して～」

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部  
教育課程調査官 笠井 健一 先生

# MEMO

---

閉会行事

(16:20~16:30)

---

閉会挨拶

尾道市立土堂小学校 教頭 石川 智子

# VIII 公開授業 I

学年	内容 (教科)	指導者	教室
1年1組	計算・時計フラッシュ, まず計算 (算数科) 音読, フラッシュ, 聞き取り (国語科)	岡 明美	1年1組
算数科		国語科	
<p>【ねらい】 最後まで集中して, 計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 10までの足し算・引き算の計算はできるが, 繰り上がり・繰り下がり計算の定着は, 個人差が大きい。</p>		<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。</p>	
1 計算フラッシュ	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。</li> <li>○フラッシュを答える形態を工夫したり, 出題方法を変えたりして, 集中力を高める。</li> <li>○まず計算では, 目標時間を設定することや, 自己の目標を決めることで, 意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>	1 音読	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。</li> <li>○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。</li> <li>○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時計</li> <li>・足し算</li> <li>・引き算</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・放浪記</li> </ul>	
2 まず計算		2 フラッシュ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・10 まず (10秒ずつ)</li> <li>・30 まず (30秒)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> <li>・日付と数え方</li> </ul>	
		3 聞き取り	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
1年2組	音読, フラッシュ (国語科) ジングル, フラッシュ, ゲーム (外国語)	上田 千紘	1年2組
国語科		外国語	
<p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p>		<p>【ねらい】 正しい口形で発音したり, 集中して単語を聞き取ったり発音したりする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 楽しみながら発音するものの, 何を指しているのかわからない児童がいる。</p>	
1 音読	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。</li> <li>○集中してリズムよく音読・フラッシュの問題ができるようにさせるために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul>	1 歌	<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○口形を意識して, 発音することができるように, 教師の口に注目するように指示をする。</li> <li>○ジェスチャーを付けることにより, 単語の意味を理解しやすくする。</li> <li>○ゲームを取り入れ, 楽しみながら, 聞き取ったり, 発音したりできるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・わたしまん</li> <li>・ことばのけいこ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジングル</li> <li>・Head Shoulder</li> </ul>	
2 フラッシュ		2 フラッシュ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日付と数え方</li> <li>・ことわざ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字</li> <li>・体の部位</li> <li>・色</li> </ul>	
3 聞き取り		3 ゲーム	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・touching game</li> <li>・make face (color)</li> </ul>	

学年	内容（教科）	指導者	教室
2年1組	まず計算，時刻・かけ算フラッシュ（算数科） 聞き取り，反対の意味の言葉フラッシュ（国語科）	綿貫 岳人	2年1組
算数科		国語科	
<p>【ねらい】 集中して計算に取り組み，時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。</p> <p>【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に，つまづく児童がいる。</p>		<p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが，話のあらましや要点を落とすことがある。</p>	
<p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻と時間</li> <li>・かけ算</li> </ul>		<p>1 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反対の意味の言葉</li> </ul>	
<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。</li> <li>○途切れることなく集中して取り組めるように，テンポよく問題を提示する。</li> </ul>		<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話のあらましをつかめるよう，2回文章を聞かせる。1回目には，メモを取らせずに聞かせる。</li> <li>○フラッシュでは，正しくはっきりと言わせる。</li> </ul>	

学年	内容（教科）	指導者	教室
2年2組	音読，主語と述語フラッシュ（国語科） 動物フラッシュ・キーワードゲーム（外国語）	亀本 拓朗	2年2組
国語科		外国語	
<p>【ねらい】 口形や発音，姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声で読むことができるが，正しくはっきりと発音することに課題がある。</p>		<p>【ねらい】 動物を表す英単語を正しく発音して，応えることができる。</p> <p>【児童の実態】 スペルや絵を見て英単語を答えることができる児童が多いが，つまづく児童もいる。</p>	
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・竹</li> <li>・俳句</li> <li>・静夜思</li> </ul> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語</li> </ul>		<p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物</li> </ul> <p>2 キーワードゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物</li> </ul>	
<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リズムよく集中して音読するために，全体・グループ・個人など形態を工夫する。</li> <li>○全員が集中して取り組むことができるよう，テンポ良くフラッシュを提示する。</li> </ul>		<p style="text-align: center;"><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○フラッシュでは，正しくはっきりと言わせる。</li> <li>○勘を働かせるのではなく，キーワードを聞いてから消しゴムを取らせるようにする。</li> </ul>	



学年	内容 (教科)	指導者	教室
3年1組	音読, 聞き取り (国語科) 地図記号プリント, 地図記号・八方位フラッシュ (社会科)	重光 泰徳	3年1組
<b>国語科</b> <b>【ねらい】</b> はっきりと伝わる声で音読したり, 集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 意欲的に音読したり解答したりする児童が多い。はっきり発音することや最後まで集中することに課題がある児童がいる。		<b>社会科</b> <b>【ねらい】</b> 目標をもって学習に取り組み, 地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 地図記号は定着してきているが, 八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。	
<b>留意点</b> 1 音読 ・五十音 ・早口言葉 ・蜘蛛の糸 ・平家物語 2 聞き取り ・説明的文章		<b>留意点</b> 1 地図記号プリント 2 フラッシュ ・四方位・八方位 ・地図記号	
○全体・ペア・列などのように, 読む形態を変えることで, テンポ良く集中して取り組ませる。 ○フラッシュでは, テンポよく問題を提示し, 答えさせる。		○前回のタイムをふり返らせることで, 意欲的に取り組ませる。 ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組ませる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
3年2組	100 問割り算, 大きな数, 長さフラッシュ (算数科) フードジングル, 色&形フラッシュ, ローマ字プリント (外国語)	田邊 日向子	3年2組
<b>算数科</b> <b>【ねらい】</b> 自分の目標に向かって集中して問題に取り組もうとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 自己の目標をもち, 意欲的に取り組むが, 計算の速さや正確性に欠ける児童もいる。		<b>外国語</b> <b>【ねらい】</b> 正しい口形で発音したり, 集中して単語を聞き取ったり発音したりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 意欲的に尋ねたり答えたりする児童が多い。はっきり発音することや最後まで集中することに課題がある児童がいる。	
<b>留意点</b> 1 100 問割り算 ・あまりのある割り算 2 フラッシュ ・大きな数 ・長さ		<b>留意点</b> 1 フードジングル 2 フラッシュ ・色 ・形 3 ローマ字プリント	
○これまでのタイムを振り返らせ, 意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えたり, テンポよくフラッシュを提示したりする。		○これまでのタイムを振り返らせ, 意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えたり, テンポよくフラッシュを提示したりする。	

学年	内容（教科）	指導者	教室
4年1組	100問割り算，位取り・単位換算フラッシュ（算数科） フラッシュ，会話練習，書き取り（外国語）	梶本 沙織	4年1組
<b>算数科</b> <b>【ねらい】</b> 集中して計算しようとする態度を育てるとともに，数・測定の知識を定着させる。 <b>【児童の実態】</b> 集中して取り組むことや割り算を計算する速さに個人差がある。大きい数や長さや量に関する理解に課題がある児童がいる。		<b>外国語</b> <b>【ねらい】</b> 正しい発音や表記を身に付け，友達に自分の欲しいものを英語で伝えようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 覚えた英単語を使って楽しんで会話することができる児童が多いが，つまづく児童もいる。	
1 100問割り算  2 フラッシュ ・大きい数 ・長さやかさ		1 フラッシュ ・ジングル ・ほしいもの  2 会話練習 ・What do you want ? ・I want ～.  3 ライティング	
<b>留意点</b> ○最後まで集中して計算できるよう，時間を区切って取り組ませる。 ○テンポ良く問題を提示し，知識の定着を図る。		<b>留意点</b> ○フラッシュでは，正しくはっきりと発音させる。 ○Big voice, Don't speak Japanese. の約束を確認し，意欲を高める。 ○書き取りが終わった児童は，裏面に練習させる。	

学年	内容（教科）	指導者	教室
4年2組	100問割り算，位取り・単位換算フラッシュ（算数科） 聞き取り（国語科）	舛上 敏成	4年2組
<b>算数科</b> <b>【ねらい】</b> 集中して計算しようとする態度を育てるとともに，数・測定の知識を定着させる。 <b>【児童の実態】</b> 集中して取り組むことや割り算を計算する速さに個人差がある。大きい数や長さや量に関する理解に課題がある児童がいる。		<b>国語科</b> <b>【ねらい】</b> 大事なことを落とさず聞くとともに，自分の考えを理由を明らかにして書くことができる。 <b>【児童の実態】</b> 聞いたことを分かりやすくメモに書いたり，理由を明らかにして書いたりすることが苦手な児童がいる。	
1 100問割り算  2 フラッシュ ・大きい数 ・長さやかさ		1 聞き取り	
<b>留意点</b> ○最後まで集中して計算できるよう，時間を区切って取り組ませる。 ○テンポ良く問題を提示し，知識の定着を図る。		<b>留意点</b> ○時事的な内容を取り上げ，児童の関心を高める。 ○書く形式や字数等の条件を提示して書かせる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年1組	音読, 聞き取り (国語科) ジングル, フラッシュ, ライティング (外国語)	赤羽 夏美	5年1組
<b>国語科</b> <b>【ねらい】</b> 詩や古文に応じた読み方を工夫して, 音読したり, 正確に文章を聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 詩や古文をリズムよく音読することができる。正しく聞き取ることはまだ十分でない児童もいる。		<b>外国語科</b> <b>【ねらい】</b> 外国語でどこの国に行きたいかを, 意欲的に聞いたり書いたりしようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 外国語を楽しんで学習している児童が多いが, 自信をもって話すことや単語の定着には差がある。	
1 音読 ・五十音 ・方丈記  2 聞き取り ・説明的文章		<b>留意点</b> ○読み方の形態を変え, テンポよく音読させる。  ○説明的文章を正確に聞き取り, 時間を制限して要約させる。	
		1 カントリージングル  2 国名フラッシュ ・Where do you want to go? ・I want to go to ~.  3 ライティング	
		<b>留意点</b> ○ジングルやフラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 ○フラッシュで学習したことを使って, 簡単な文章を書く。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年1組	100問割り算, フラッシュ (算数科) ジングル, フラッシュ, ライティング (外国語)	菅方 賢司	6年1組
<b>算数科</b> <b>【ねらい】</b> 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 正確に問題を解くことや割合の立式の理由を説明することに課題がある。		<b>外国語</b> <b>【ねらい】</b> 競技名を正しい発音で読んだり, 見たい競技を相手に尋ねたり答えたりすることができる。 <b>【児童の実態】</b> 学習した英単語や文法を活用して会話することに課題がある。	
1 100問割り算  2 フラッシュ ・割合 ・比		<b>留意点</b> ○前回の記録を確認させ, 目標を決めて取り組ませる。早く終わった児童には見直しをさせる。 ○テンポよく提示するが, 不安なところは繰り返し提示する。	
		1 カントリージングル  2 チャンツ (スポーツ)  3 フラッシュ ・What do you want to watch? ・I want to watch ~.  4 ライティング	
		<b>留意点</b> ○不安な単語は繰り返し発音させる。 ○会話に必要な文法を教師と児童で練習した後に児童同士で会話をさせる。 ○見本に従って丁寧に書かせる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年2組	音読, 対義語・接尾語フラッシュ, 聞き取り (国語科) 実験器具・ものの燃え方と空気・光合成と蒸散フラッシュ (理科)	谷川 友弥	6年2組
<b>国語科</b> <b>【ねらい】</b> 工夫して音読し, 語彙力を高め, 意欲的に文章を聞き自分の考えをもとうとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 意欲的に音読をするが, 文章を聞き取ったり自分の考えをもったりすることに課題がある。		<b>理科</b> <b>【ねらい】</b> 主体的に実験器具や既習事項についての知識を理解しようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 実験器具の名称は理解しているものの, 1学期の学習内容につまずく児童が多い。	
1 音読 ・ 論語 ・ 孫子 2 フラッシュ ・ 対義語 ・ 接尾語 ・ 同音異字 3 聞き取り ・ 説明的文章		<b>留意点</b> ○読みの形態や古典の読み方を工夫して音読させる。 ○集中して取り組ませるために, 個人やグループで言わせる。 ○尾括型で, 字数制限を設けて自分の意見を書かせる。	1 フラッシュ ・ 実験器具 ・ ものの燃え方と空気 ・ 光合成と蒸散 <b>留意点</b> ○ものの燃え方と空気と光合成と蒸散は, 1人で読ませる。 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しつかり声を出させる。

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年・6年 (さくら)	音読, 慣用句フラッシュ, 聞き取り (国語科) プリント, フラッシュ (算数科)	黒飛 美穂	さくら
<b>国語科</b> <b>【ねらい】</b> リズムよく, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする。 <b>【児童の実態】</b> 音読はリズムに乗って素早く言うことができるが, 自分の意見を文章化することが苦手である。		<b>算数科</b> <b>【ねらい】</b> 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 計算問題に意欲的に取り組めるが, 正しい商を素早く立てることが苦手である。	
1 音読 ・ お口の体操 ・ 五十音 2 慣用句フラッシュ 3 聞き取り (説明的文章)		<b>留意点</b> ○拍をとり, リズムよく読ませる。 ○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。 ○何に注意して聞くのかを伝える。	1 プリント ・ 100問掛け算 ・ 50問割り算 2 フラッシュ ・ 商立て ・ 単位量あたりの大きさ <b>留意点</b> ○テンポよくフラッシュを示し, 集中して取り組めるようにする。 ○計算プリントでは, 過去最高タイムを提示し, 自己記録を塗り替えようとする意欲を高める。

学年	内容 (教科)	指導者	教室
3年 (すみれ)	音読, 聞き取り (国語科) 計算プリント, カード・プリント (算数科)	岡田 美紀代	すみれ
国語科	<p>【ねらい】 口形や発音に気を付け, 友達の声に合わせて音読したり, 大事なことを落とさず, メモをとって聞いたりすることができる。</p> <p>【児童の実態】 口形と発音に意識がいくと, 音読の速さがずれていく。聞き取りは, 短い言葉でメモすることが苦手な為, 要点を見落とすことがある。</p>	算数科	<p>【ねらい】 前回の自分の記録を超えるように, 集中して計算に取り組むことができる。図から式を導くことができる。</p> <p>【児童の実態】 計算の速さが少しずつ向上してきた。15分間集中し, 前回の自分を超越する努力をしている。文章問題は, 図を考える手立てとしている。</p>
1 音読 ・五十音 ・雨ニモマケズ ・道程 ・春望 ・平家物語 ・枕草子 など	留意点 ○口形を意識しながら, 友達と息を合わせて読ませる。 ○何に注意して, 聞き取るのかを確認する。	1 プリント ・50問割り算	留意点 ○前回の記録をもとに目標時間を設定させ, 意欲的に問題を解けるようにする。 ○テープ図をかくことで, 題意を理解させる。
2 聞き取り ・説明的文章		2 フラッシュ ・数量関係を表す式	
		3 プリント ・数量関係を表す式	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年 (すみれ)	音読, 漢字のカード, 読み取り (国語科) プリント, フラッシュ (算数科)	岡田 美紀代	すみれ
国語科	<p>【ねらい】 意識して, 大きな口を開けて, 音読する。読み取りのポイントを意識し, 内容を把握することができる。</p> <p>【児童の実態】 大きな口をあけて発表することが苦手である。また, 読むことと同時に, 内容を理解することが苦手である。</p>	算数科	<p>【ねらい】 集中して最後まで計算に取り組もうとする態度を育てる。 与えられた課題に向き合うことができる。</p> <p>【児童の実態】 計算問題に向き合うことができるが, 15分間を最後まで集中することができない。</p>
1 音読 ・五十音 ・雨ニモマケズ ・道程 ・春望 ・平家物語 ・枕草子 など	留意点 ○友達の読みを意識し, 息を合わせて読ませる。 ○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。 ○読み取りのポイントを示す。	1 フラッシュ ・倍数 ・公倍数	留意点 ○算数用語を理解し, 学習させる。 ○目標を設定させ, 児童が時間内に終わる課題を与えて自信をつけさせる。
2 読み取り ・説明的文章		2 プリント ・50問割り算	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
たんぽぽ (6年)	計算カード, 計算プリント, 数の聞き取り (算数科) 音読, カード, 聞き取りプリント (国語科)	岩本 章子	たんぽぽ
算数科	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 落ち着いて計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 計算問題は意欲的に取り組めるが, 掛け算九九の発音の言い間違いがある。</p> <p>1 カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10の合成</li> </ul> <p>2 計算プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10ます足し算</li> <li>・10ます引き算</li> <li>・10ます掛け算</li> </ul> <p>3 数の聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな数</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テンポ良く答えさせる。</li> <li>○目標時間を設定させ, 意欲的に問題を解けるようにする。</li> </ul> </div>	国語科	<p>【ねらい】 大きな声で, 積極的に音読したり, 大事なことを落とさずに聞いたりする。</p> <p>【児童の実態】 音読は丁寧に, 発声することができる。聞き取りはできるが, 書くのは苦手である。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・竹取物語</li> <li>・坊っちゃん</li> </ul> <p>2 カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字</li> <li>・ことわざ</li> </ul> <p>3 聞き取り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大きな声で読ませる。</li> <li>○はっきり読ませる。</li> <li>○大事な言葉を確かめてから聞き取らせる。</li> </ul> </div>

**MEMO**

---

# **IX 公開授業II**



# 「こんなことをした登場人物を〇〇と思ったよ。」

～どくしょゆうびんでつたえよう～

1年「おとうとねずみ チロ」

思考力・表現力

本単元で育成する資質・能力

## 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。  
カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

### (1) 単元観

本単元では、登場人物の行動や会話文、挿絵に着目して、想像を広げながら楽しんで読むことをねらいとする。その際、学習指導要領「C 読むこと」の言語活動例「イ 読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」を参考に、登場人物の行動に着目して読みを進め、その行動をした登場人物をどう思ったか自分の言葉で伝えたり、友達の感想を聞いてさらに自分はどうか感じたかを話し合うことをねらいとしている。

本教材は、おばあちゃんからのチョコキを楽しみに待つチロの行動や気持ちを中心に描かれている。(1) おばあちゃんから手紙が届く場面 (2) チロがおばあちゃんに呼び掛ける場面 (3) おばあちゃんから小包が届く場面 (4) チロがおばあちゃんにお礼を言う場面の大きく4つの場面に分けられ、話の大体が捉えやすい構成になっている。また、兄弟の末っ子であるチロの幼く素直な様子を自分と重ねて共感したり、自分より少し年下のチロの行動を読み手として客観的に見て感想を言ったりすることもできるのではないかと考える。

### (2) 児童観

#### 学級の実態

本学級で学習アンケートを実施したところ、「国語の授業は好き」100%「物語を読むのが好き」と答えた児童が95%であった。「みんなで問いを考え、解決していく学習は好きですか。」についても100%の児童が肯定的に答えている。児童は、「とんこととん」のお話で初めて物語の不思議なところから問いを作った。「どうしてがたがたおとがしたのかな。」という問いをみんなで考えた。また、説明文には「問い」と「答え」があることを学習した後、「大きなかぶ」でも問いを設定していった。「どうしてたくさんの人でひっぱってもぬけないのだろう。」という問いや「動きをつけて音読できるようになりたい。」という願いが出た。問いを短冊に書いて掲示し、それをみんなで解決した。授業で考えたことを基に最終的に音読劇にし、達成感を味わった。

#### 個へのアプローチ

児童は自分の考えをみんなに伝えることを好きと感じている。朝のスピーチで「見つけたこと」を全員が話すことができるようになった。しかし、自分の感じたことを伝えるのに言い方がわからなかったり、間違えることを恐れたりして積極的に発言できない児童がいる。また、友達の話聞いて、それに感想や意見を付けることが苦手な児童がいる。

### (3) 指導観

児童は、物語を読んで不思議だなと思ったことから学級で学習の問いを設定し、解決していく学習を楽しんでいる。そこで、本単元においても、子供たちの初発の感想を生かし、「不思議だな。」「みんなで考えたいな。」というところから問いを設定し、それを解決しながら学習を進めていく。そして、学習のゴール「こんなことをした〇〇をこう思ったよ。」が相手に伝えられるように単元を構成していく。児童の問いを解決しながら読み取りを進めていく中で、人物の行動について本文に立ち返り、馴染みの少ない語句は国語辞書を引いて調べるなど重要な語句をしっかりと押さえていきたい。また思いや想像をしっかりと膨らませた後に、「こんなことをした〇〇をどう思ったか。」を問い、自分の考えをノートに書いた後、そのことについてグループや全体で交流できるようにしたい。

グループや全体で自分の思ったことを伝える際、対話になるように、聞いた友達の考えに対して「どうしてそう思ったの。」などの質問や感想を返す。そして、1往復半程度話をつなげていけるよう声かけをしていきたい。また、いろいろな感じ方があることを知り、自分とは違った意見を取り入れたり、自分の考えを広げたりすることができる時間を設定し、認めていきたい。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 感じたことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。 (知識及び技能)
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、感想をもつことができる。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- 登場人物の行動に着目し、そういう行動をした登場人物をどう思ったか感じたことを話し合うおうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	その行動をした人物について自分が感じたことを伝える言葉を知り、話や文章の中で使っている。	場面の様子を表す言葉に着目し、登場人物のしたことについて想像を広げて読み、自分が感じたことを文章に書いたり、話をしたりしている。	読み取ったことを基に、そのような行動をした登場人物についての感想を伝えたり、友達の感想を聞いたりして、自分の読みを広げようとしている。

#### 3 指導計画 (全17時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>初発の感想を書く。 読み聞かせを聞いて、「～をした○○をこう思ったよ。」が言えるようになるという付けたい力を確認する。(1)</p>	<p>「(登場人物) はかわいいよ。」だけでは、どんなところがかわいいかわらないな。</p>	
	<p><b>【本質的な問い】</b> そのような行動をした登場人物をどう思う？</p> <p>物語の登場人物やお話の大体を確認する。 登場人物の行動で、不思議だったところから問いを設定する。(2)</p>	<p>登場人物は誰かな。何をしたかな。</p> <p>どうしてそんなことをしたのだろう。みんなで考えたいな。</p>	<p>物語を読んで、課題を発見している。</p> <p><b>【態度】</b> (ノート)</p>
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p><b>【予想する1場面の問い】</b> どうして、にいさんねずみとねえさんねずみは、「チロのはないよ。」といったのだろう。(2)</p> <p><b>【予想する2場面の問い】</b> チロはどんないいことを考えたのだろう。</p> <p>こえがとんでいったのがふしぎだな。</p> <p>どうしてじっと耳をすましていたのかな。(2) (本時6/17)</p>	<p>おばあちゃんの手紙に、赤と青の糸と書いてあったからだよ。にいさんねずみとねえさんねずみはいじわるだな。ぼくもお兄ちゃんにいじわるなと言われたことがあるよ。</p> <p>チロは、まだ小さいから字が書けないんだね。私たちより年下かな。丘の上のてっぺんの木から叫んだんだね。</p> <p>くりかえし響いていくのは、こだまっていうんだよ。チロは声がおばあちゃんのところへ届いたと思っているんだね。</p> <p>よく声が響いておばあちゃんのところへ届いている</p>	<p>場面の様子を表す言葉に着目して、登場人物のしたことについて想像を広げて読み、自分が感じたことを文章に書いたり、話をしたりしている。</p> <p><b>【思・判・表】</b> (ノート, 発言)</p> <p>その行動をした人物について自分が感じたことを伝える言葉を知り、話や文章の中で使っている。</p> <p><b>【知・技】</b> (ノート・発言)</p>

	<p>【予想する3場面の問い】 おばあちゃんから、こづつみが届いてしましまのチョッキが入っていたチロはどんな気持ちだったかな。(1)</p> <p>【予想する4場面の問い】 どうして、もういちどゆっくり「あ、り、が、と、う。」と言ったのだろう。(1)</p> <p>【全体の問い】 チロの声は、おばあちゃんのところに本当に届いたのかな。(2)</p>	<p>か聞いているのかな。</p> <p>チロは、嬉しかったと思う。おばあちゃんありがとうという気持ちだったと思う。自分の声が届いたと思ったと思う。</p> <p>一つずつ言葉が響いて飛んでいくのを聞いているからじゃないかな。音読の時もゆっくり読むといいね。</p> <p>チロの欲しかったしましまのチョッキが届いたから、声が届いていたのだと思う。おばあちゃんの家は遠いから、届かないと思う。届いていなくても、おばあちゃんはチロのチョッキを編んでいたと思うよ。</p>	
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>登場人物のどんなところが心に残っているかを読書郵便に書いて、家の人に伝える。(2)</p> <p>読書をした本の登場人物について読書郵便に書いて伝える。(3)</p> <p>問いの振り返りをする。(1)</p>	<p>チョッキがほしくて、チロが木の上からおばあちゃんに叫ぶところがかわいかったよ。</p> <p>〇〇くんが言った問いは、自分もたくさん考えたし、みんなの考えもたくさん聞けて楽しかったな。今度は、自分もみんなが考えるような問いを作ってみたいな。</p>	<p>読み取ったことを基に、そのような行動をした登場人物についての感想を伝えようとしている。 【態度】(カード)</p> <p>これまでの学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている 【態度】(ノート, 発言)</p>

#### 4 本時の展開 (6/17)

##### (1) 本時の目標

登場人物の行動を想像しながら2場面の問いを解決し、その行動をした登場人物をどう思ったかを文章に書いたり話したりすることができる。

##### (2) 観点別評価規準

場面の様子を表す言葉に着目し、登場人物のしたことについて想像を広げて読み、自分が感じたことを文章に書いたり、話をしたりしている。 【思・判・

表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	○ 2場面を音読し、ここで解決できそうな問いを選ぶ。 <b>といをかいつけて、とうじょうじんぶつのことをつたえよう。</b>	お話の順に考えていこう。
2 自力解決をする。 (作品との対話)	<b>【予想される問い】</b> ① チロはどんないいことを考えたのだろう。 ② チロの声はどんなふうにとんでいったのだろう。 ○ どのような順番でどのような方法でみんなの問いを解決していくか確認する。	教科書を読めば分かるかな。 国語辞書で調べてみよう。
3 考えを出し合い、深める。 (他者との対話)	○ チロがしたことには線を引く、挿絵を並べて黒板に整理する。 ・ 外へ飛び出していった。 ・ どんどんどんどん走って行って、おかの上までのぼった。 ・ ひとこえよんだ。 ・ チロはうれしがってとびはねると、まえよりも声をはりあげて言った。 ・ チロは大きくくちをあげ、いちばんだいじなことを言った。 ・ じっと耳をすましていた。 「とびはねる」「声をはりあげる」「耳をすます」等の必要な言葉の確認をした後、自分の考えをノートに書き込む。 ◆ 自分で考えただけではわからないものや、相談したいことがあれば、ペアの人に尋ねてもよいことにする。	チロは字が書けないから他の方法を考えたんだな。小さいけどかしこいな。声が飛ぶってどういうことかな。
4 「こんなことをした○○をこう思ったよ。」で伝える。 (自分との対話)	○ 自分の考えと友達のことを話し合い、比べる。その際に、自分の考えを伝えるということだけにならないように、意見や感想を返すように声掛けをする。 ○ 「2場面でこんなことをした○○をどう思いましたか。」と問い、自分の言葉でノートに書かせる。自分が感じたことを言い表す言葉を見付けさせる。 ◆ 児童につまずきなどがあれば教師が助言していく。	チロは、字が書けないから、高いところにある木の上から叫ぶことを思いついたんだね。やってみると、声がひびいてとんで行ったから1番大事なことも叫んだんだね。
5 ペアで交流する。 (他者との対話)	○ 感じたことを表す言葉をペアで比べ、整理する。 ・ 同じ考えの所に赤い線、似ている考えの所に赤の点線、違う考えの所に青い線を引く。線を引いた箇所について、ペアの人と「どうしてこう考えたの？」というような問いかけを行い、対話につなげる。	チロが、木の上から叫んで、声が飛んで行ったから、「ぼくにもチョッキ、あんでね。」とおねがいするところがかわいいと思いました。
6 全体で交流する。	○ 感じたことを表す言葉をペアで比べ、整理する。 ・ 同じ考えの所に赤い線、似ている考えの所に赤の点線、違う考えの所に青い線を引く。線を引いた箇所について、ペアの人と「どうしてこう考えたの？」というような問いかけを行い、対話につなげる。 ○ 自分の考えやペアの考えを発表する。聞き手は、話し手の発表に意見や感想をもちながら聞き、発表をつなげられるようにする。 ◆ 机間指導をしながら、いろいろな意見をチェックしておき、手を挙げていない児童の意見も取り上げられるようにする。	場面の様子を表す言葉に着目し、登場人物のしたことについて想像を広げて読み、自分が感じたことを文章に書いたり、話したりしている。 <b>【思・判・表】(ノート)</b>
7 振り返りをする。	○ 感じたことを表す言葉をペアで比べ、整理する。 ・ 同じ考えの所に赤い線、似ている考えの所に赤の点線、違う考えの所に青い線を引く。線を引いた箇所について、ペアの人と「どうしてこう考えたの？」というような問いかけを行い、対話につなげる。 ○ 自分の考えやペアの考えを発表する。聞き手は、話し手の発表に意見や感想をもちながら聞き、発表をつなげられるようにする。 ◆ 机間指導をしながら、いろいろな意見をチェックしておき、手を挙げていない児童の意見も取り上げられるようにする。	同じ考えは、まん中に書こう。ここは、考えが違うな。どうしてそう思ったの? 「どきどき」と「しんぱい」は似ているね。
	○ 本時の学習で問いを解決し、登場人物のした行動について感想をもつことができたかを振り返らせる。さらに、新しい問いが出てきていないかを問う。	チロが叫ぶところをみんなで考えて、チロはかわいいと思いました。チロは、叫んだ声が届いていると思っているけれど、本当に届いていたのか考えてみたいな。

## 単元名

# 場面の様子を想像するには、何に着目して読むといいかな？

## 2年「かさこじぞう」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

## 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。  
エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

## (1) 単元観

本単元では、文学的文章読解の基本として、物語の魅力として「物語の展開」「登場人物の人柄」「昔話特有の言葉遣い」について理解することをねらいとする。教材文には、二つの出来事が並列して書かれている。一つは、大みそかなのに「もちこのよういもできん」ことである。もう一つは、六人のじぞうさまが片側だけ雪に埋もれていてかさをかぶせたのだが、「じぞうさまの数は六人、かさこは五つ。どうしても足りない」ことである。この二つの出来事がどのように解決していくかを場面の展開に沿っておさえる必要がある。

昔話は、最後の出来事を解決する時に、人知を越えたものの存在によって解決されることが多いが、教材文もその一つである。前述した二つの出来事のうち、人知を越えたものによってじいさまたちの困ったことを解決するきっかけとなるのは後者の出来事である。二つの出来事がどのようにつながるのかを読ませていきたい。

## (2) 児童観

## 学級の実態

国語に関するアンケートを実施したところ、国語が好きと肯定的に答えた児童は28人中27人で、様々な物語や説明文に出会えることや新しい漢字を書けるようになることなどをその理由として答える児童が多かった。

また、昔話を読むことが好きと肯定的に捉えた児童は28人中20人で、幼稚園・保育園で読み聞かせをしてもらったことや話の内容が面白いことなどをその理由として答えた。しかし、普段の読書では学習漫画や図鑑、シリーズの物語などを読む児童が多く、昔話を手に取る児童は少ない。

音読をする際には、言葉を読み飛ばしたり、語尾の部分を読み違えたりする児童が数名見られる。

## 個へのアプローチ

児童は、どの授業においても意欲的に参加している。しかし、問いの意味を理解できなかったり、問いと答えがつながっていなかったりと、問いの意図を読み取り理解することに課題が見られる。

## (3) 指導観

指導においては、物語の展開・登場人物の人柄・昔話特有の言葉遣いそれぞれの面白さという視点で読み進めさせる。「面白さ」という視点でまとめることで、昔話に日常から親しもうとする児童が増えるように意図する。児童同士の対話の場面では、発達段階を鑑み、何に視点を置いてどのように考えているのかという点が明確になるように対話の流れの整理をする必要も出てくると考えられる。その際には、どのような対話の流れで何について考えているのかということを確認するようにする。

また、昔話特有の言葉遣いに慣れ親しむことが読みを深めることにつながると考えられることから、音読の機会を十分に設けて、その言葉の響きを感じさせたり、意味について理解させたりする。

対話の流れなどの授業の流れの見通しをもたせたり、授業の課題意識の変容を明確にしたりして、どの児童も授業に参加できるようにする。また、その際には、板書の関係ある部分を指先で指したり、線で囲ったりして、対話の論点などがより明確に伝わるように意図する。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

- 昔話特有の言葉について、語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読することができる。  
(知識及び技能)
- 本文の言葉を根拠にして、人物の行動や気持ちを具体的に想像することができる。  
(思考力・判断力・表現力等)
- 昔話の面白さに関心を持ち、進んで読書をして、昔話の面白さを伝えようとする。  
(主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	昔話特有の言葉遣いや言葉のまとまりを意識して、間違えずに音読することができる。	出来事について、時系列で捉え、物語の展開をまとめることができている。 登場人物の人柄を行動や会話から詳しく想像し、まとめることができている。	他の昔話などを進んで読み広げようとしている。 自分の見つけた昔話の面白さをカードにまとめ、伝えようとしている。

**3 指導計画 (全13時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>物語の読み聞かせを聞き、問いづくりをする。 新出漢字を確かめる。 音読を繰り返す。(2)</p>	<p>何だか読んだら心が温くなる物語だなあ。 じいさまもばあさまもじぞうさまも、みんな優しいなあ。 最後にじいさまとばあさまが幸せになって良かったなあ。 自分が使わない言葉がたくさん使われていたなあ。 自分が疑問に思ったことは、何だろうか。</p>	<p>昔話特有の言葉づかいに気を付けて間違えずに音読することができる。</p> <p><b>【知・技】</b>(ノート)</p> <p>読み取ったことをもとにして、進んで問いをつくらうとしている。</p> <p><b>【態度】</b>(ノート)</p>
		<p><b>【本質的な問い】</b> 物語から優しさを感じるのは、なぜだろうか。</p>	

二	<p><b>情報の収集</b></p> <p>物語の結末に何が起きたのかということを中心に、出来事について確かめる。(1)</p> <p>じいさまの人柄について優しさを視点にまとめる。(2) (本時4 / 13)</p> <p>ばあさまの人柄について優しさを視点にまとめる。(2)</p> <p>昔話特有の言葉づかいや表現のおもしろさを視点に物語を読む。(2)</p>	<p><b>整理・分析</b></p> <p>物語の最後にじいさまとばあさまがよいお正月を迎えられるから、ほっとするなあ。</p> <p>じいさまの優しいところは、どこだろうか。</p> <p>ばあさまの優しいところは、どこだろうか。</p> <p>じいさまとばあさまは、どちらの方が優しい人なのかな。</p> <p>じぞうさまは、どこから知っていたのかなあ。</p> <p>じぞうさまの掛け声が面白いな。</p> <p>「できましたと。」の「と。」は、今は使わないよな。</p> <p>昔話のお話の仕方からも優しさを感じるな。</p>	<p>出来事を時系列に捉え、物語の展開について一文でまとめている。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>人物の人柄について、登場人物の行動や会話を視点にして、詳しく想像している。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>人物の人柄について、登場人物の行動や会話を視点にして、詳しく想像している。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>昔話特有の言葉づかいや表現のおもしろさを見つけている。 【思・判・表】(ノート)</p>
	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>他の昔話を読んで、おもしろさを見つける。</p> <p>自分の見つけたおもしろさを友達に伝える。(3)</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>単元の学習過程について振り返る。(1)</p>	<p>他の昔話からも面白さを見付けたいな。</p> <p>「かきこじぞう」と面白さは、似ているのかな？</p> <p>どのような読み方をしたのか振り返ってみよう。</p>	<p>自分の読みたい物語から面白さを見つけ、進んで友達に伝えようとしている。 【態度】(ノート)</p> <p>どのような視点で読んできたのか確かめ、理解している。</p> <p>どのような問いをつくることが楽しかったのか考えて書いている。 【思・判・表】(ノート)</p>

#### 4 本時の展開 (4 / 13)

##### (1) 本時の目標

じいさまの人柄について、詳しく想像し、自分の考えを書くことができる。

##### (2) 観点別評価規準

じいさまの行動や会話について、その様子を詳しく想像し、じいさまの人柄についてまとめることができている。

【思・判・表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認し、本文を音読する。	○ 前時の児童のふり返りに書かれた内容を紹介し、めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">じいさまのやさしさをかんじる場所を見つけよう。</div> ○ 昔話特有の言葉遣いに気を付けて、音読させるようにする。	今日は、じいさまのやさしさを見つけるんだな。
2 自分の考えを書く。	○ じいさまの優しさを感じる行動や言葉を見つけた部分に線を引かせる。 ◆ 1人で考えを書く時間であることを伝える。	どこから優しさを感じたのかな。
3 考えの根拠となった部分について発表し合う。	○ 児童の線を引いた部分、つまり、優しさを感じた根拠となる部分について発表させる。 ○ ペアトークの際には、「どこからそう思ったの?」と尋ねさせる。 ◆ 本文を黒板に貼り、児童の発表したところに線を引きながら児童の発表を聞くことで、本文のどこの何について発表したのか視覚的に分かるようにする。	友達も、どこから優しさを感じたのかな。
4 じいさまの優しさについて読みを深める。	○ もし、じぞうさまが食べ物を持ってこなかったら「よいお正月」には、なっていなかったのかということについて考えさせることで、物的な幸せと心的な幸せの違いについて意識させる。そして、心的な幸せに視点を絞る。 ○ じいさまが「安心した」のは、何に対して安心したのか考えさせることで、じいさまがじぞうさまに対して優しさをもっていたという優しさの対象について明確にする。 ○ じいさまがじぞうさまを「お気のどく」に思ったのは、なぜか考えさせる。以下の2点について意見が出てくると推測される。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ じぞうさまが雪にもまれていたことがかわいそうだった。</li> <li>・ 自分たちがもちこを買えなかったから、せめてじぞうさまだけでも困っている状況から抜け出させてあげたいと思った。</li> </ul> これらのうち、児童の意見として少ないものは、前場面のじいさまとばあさまの境遇を根拠にしている後者の方だと思われるため、そこについて気づかせることで、児童の考えの深まりをねらう。	なんで?物をもらわなければ、幸せになんてなれないよ。 食べ物ももらわなくてもよいお正月を迎えられていたはずだ。
5 自分の考えをまとめる。	○ じいさまの人柄について優しさを視点にまとめさせる。	○ じいさまの行動や会話について、その様子を詳しく想像し、じいさまの人柄についてまとめることができている。
6 振り返りをする。	○ 「どのような読み方をしたから考えが成長したのか?」と発問し、児童自身に自分の成長について考えさせる。 <b>【想定される答え】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人物の行動に着目して読んだ。</li> <li>・ 気持ちを表す言葉を見付けながら読んだ。</li> <li>・ 人物の本文に書かれていない気持ちを想像しながら読んだ。</li> </ul>	<b>【思・判・表】 (ノート)</b> 人物の行動を中心に見つけたね。



## ごんの気持ちは届いたのかな？～読んで考えたことを伝え合おう～ 4年「こんぎつね」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。  
カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

#### (1) 単元観

本単元では、複数の場面の叙述を結び付けながら、中心人物の気持ちの変化を読み取る力を身に付けることを目標としている。また、人物と人物の関わりや気持ちの変化を捉えた上で、自分の考えをまとめる力を身に付けることを目標としている。

本教材は、第5場面まではごんの視点で書かれているため、ごんに同化しながら読み進めることができ、気持ちの変化をつかみやすい教材である。ほんのいたずらで兵十のうなぎを逃がしてしまったことがきっかけとなり、ひたむきに償いをするごんの行動を読み取りながら、ごんの心の奥の「思い」の変化を想像する力を付けることができると考える。視点が変わる第6場面では、ごんが兵十にうたれてしまうという結末に、「ごんがかわいそうだ」「兵十に分かってもらえて幸せだ」といった見方・考え方のズレが児童の中に生まれるだろう。ここに、児童が課題を発見・設定し、人物の気持ちの変化を読んでいくことで、自分の考えをまとめることができる単元であると考えられる。

#### (2) 児童観

##### 学級の実態

国語科に関するアンケートを実施したところ、「国語の授業が好き」と肯定的に答えた児童は24名中16名で、新しい漢字を書けるようになることや物語を読むことが楽しいことなどをその理由として挙げる児童が多かった。「みんなで問いを考え、解決していく学習はおもしろい」と感じている児童は22名であった。

児童は、『走れ』のお話でも問いをつくり、中心人物の気持ちの変化を読み取っていった。しかし、感覚的には読めていても、気持ちの変容やそのきっかけを文章化することに課題が見られた。

##### 個へのアプローチ

物語を読むことに苦手意識をもっている児童が8名いるため、本単元でも意欲をもちにくい児童がいることが考えられる。また、物語を読んで感じたことや考えたことを書くことに苦手意識を持っている児童が10名いる。

#### (3) 指導観

児童は、みんなで問いを考え、解決していく学習をおもしろいと感じている。そこで、本単元においては、児童の初発の感想が集中するであろう第6場面に焦点を絞って問いを設定し、その解決を目指して学習を進めていく。

また、場面読みの際に「〇〇日記」を取り入れる。この活動は、登場人物になりきり、文章中には書かれていない登場人物の気持ちを児童が想像して埋めて書く必要があるため、登場人物の気持ちの変化について深く読むことができると考える。日記という抵抗感の低い活動を取り入れることによって、文章にまとめる経験を増やしたい。

学級全体で一つの大きな問いを設定することで、問題意識をもち、物語を読み進めることができるようにする。また、物語の内容を読み取る際に、自分の知識や経験と結びつけて考えさせたり、考えの変化や深まりを自分自身で確認できる場を設定したりすることで、これらの苦手意識を少しでも取り除けるようにしたい。

#### (4) 単元の目標

○ 登場人物の性格や心情が分かる叙述を見付けることができる。	(知識及び技能)
○ 人物と人物の関わりを考えながら、中心人物の気持ちの変化を読み取ることができる。	(思考力, 判断力, 表現力等)
○ 物語を読んで課題を発見したり, 学習を振り返ったりしようとする。	
○ 友達の感じたことや考えたことを理解しようとする。	(主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	登場人物の性格や心情が分かる叙述を見付けることができる。	人物と人物の関わりを考えながら, 中心人物の気持ちの変化を読み取っている。 物語を読んで, 感じたことや考えたことをまとめている。	物語を読んで課題を発見したり, 学習を振り返ったりしている。 友達の感じたことや考えたことを理解しようとしている。

#### 3 指導計画 (全12時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>初発の感想を書いて発表し, 結末に対する見方・考え方のズレから学習課題を設定する。(1)</p>	<p>最後ごんがうたれてしまって, とてもかわいそうだと思ったよ。ごんは兵十に気付いてもらえて幸せだったんじゃないかな。最後のごんの気持ちについて, じっくり考えたいな。</p>	<p>物語を読んで, 課題を発見している。</p> <p>【態度】(ノート)</p>
<p>【本質的な問い】                      ごんの最後は幸せだったのだろうか。</p>			
二	<p><b>情報の収集</b>                      <b>整理・分析</b></p> <p>ごんの境遇や性格を読み取る。(いたずらをしたごんの気持ちを読み取る。)(2)</p> <p>いたずらを後悔するごんの気持ちを読み取る。(1)</p>	<p>「夜でも, 昼でも」「いたずらばかり」するような, 悪いきつねだ。「ひとりぼっち」のかわいそうなきつねだよ。さみしくて, 遊んでほしくていたずらをしちゃったのかな。</p> <p>まさか自分のいたずらのせいで, 兵十が悲しい思いをするなんて思ってもいなかっただろうな。</p>	<p>登場人物の性格や心情が分かる叙述を見付けることができる。</p> <p>【知・技】(ノート)</p> <p>中心人物の気持ちの変化を叙述から読み取っている。</p> <p>【思・判・表】(ノート)</p>

<p>二</p>	<p>つぐないを繰り返すごんの気持ちを 読み取る。(2)</p> <p>兵十と加助の後をつけるごんの気持 ちを読み取る。(1)</p> <p>「引き合わない」と思いながらもく りを持っていくごんの気持ちと、兵十 のごんに対する気持ちの変化について 読み取る。(2)</p>	<p>ひとりぼっちのつらさを 知っているからこそ、何かし なければと思ったんだろう な。何度もつぐないをしてい るし、兵十のことをとても気 にしているね。</p> <p>やっぱり、兵十のことをと ても気にしているな。もしか して気づいてほしいのかな。 兵十と仲良くなりたいと思 っているのかもしれないよ。</p> <p>いつか気づいてもらえる と思って、ずっとつぐないを するつもりなんだな。ごんに とって、兵十は大切な人にな っていたんだな。兵十は、ま たいたずらをされると思っ て怒っていたはずだよ。こら しめてやろうと思っていた だろうね。くりを見つけたと き、体の力がぬけてしまった と思う。うってしまった自分 を責め続けるかもしれない。</p>	
<p>三</p>	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>最後の場面のごんの気持ちを考え、 問いを解決する。(1) (本時10/12)</p> <p>問いと単元の学習について振り返り をする。(2)</p>	<p>ごんは、最後の最後で兵十 に自分のしてきたことに気 づいてもらえて、幸せだった と思う。兵十がうっていなか ったら、友達になれたかもし れないから、ごんは不幸せだ と思う。</p> <p>ごんの気持ちを想像しな がら読むことができたよ。一 つの言葉から、いろいろな様 子が想像できておもしろか ったな。場面ごとにごんの気 持ちが変わっていくので、ど きどきしたよ。感想を伝える ためには、人物の気持ちの変 化を読み取ったり、自分の経 験を思い出したりするとい いね。物語について考えたり、 物語を読んだ自分の変化 について考えたりすること も面白いと思ったよ。</p>	<p>ごんと兵十の関わりを基に、 自分の考えをまとめている。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>これまでの学習を振り返り、 今後の学習に生かそうとしてい る。 【態度】(ノート)</p>

4 本時の展開 (10/12)

(1) 本時の目標

「ごんの最後は幸せだったのか」という問いについて、ごんと兵十の気持ちや二人の関係をもとに、自分の考えをまとめることができる。

(2) 観点別評価規準

人物と人物の関わりや、気持ちの変化をもとに、自分の考えたことをまとめている。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	<p>○ これまで読み取ってきたことをもとに、自分たちの大きな問いを解決していくことを確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ごんの最後は幸せだったのだろうか。考えを伝え合おう。</p> <p>○ 第6場面を音読し、これまでのごんと兵十の気持ちの変化と関係を振り返る。</p>	<p>友達はどうして不幸せだと考えているのだろう。理由が気になるな。</p> <p>まずは自分の考えをまとめて、その後、班で伝え合おう。</p>
2 自力解決をする。	<p>○ 十分時間を取って、自分なりの考えをまとめさせる。</p> <p>◆ 立場を聞き、その理由を発言させた後で、文章にまとめさせる。</p> <p>◆ これまでの読みを振り返り、立場の理由となるところがないか声掛けをする。</p>	<p>ごんは、最後の最後で兵十に自分のしてきたことに気づいてもらえて、幸せだったと思う。</p> <p>「幸せ」は同じだけど、理由が違ったな。</p>
3 グループで交流する。	<p>○ メンバーの立場を明確にして考えを述べるようにさせることで、お互いの考えの共通点や相違点を考えながら伝え合うようにさせる。</p> <p>○ 一人一人の考えを認め、尊重するように声をかける。</p>	<p>兵十がうっていなかったら、友達になれたかもしれないから、ごんは不幸せだと思うよ。</p>
4 全体で交流する。	<p>○ 自分の考えを發表させ、似ている・少し違うなど自分の考えと比べながら伝え合うことができるようにする。</p> <p>◆ 考えを書くことが難しかった児童にも発言させる。</p>	<p>友達はそんな風に考えていたのか。なるほど。</p> <p>これは、幸せ・不幸せどちらかに決めることはできないな。</p>
5 振り返りをする。	<p>○ 本時の学習で、問いに対する自分の考えをまとめることができたかを振り返らせる。</p> <p>○ 友達の考えに触れて、自分の考えが変わっても良いことを伝え、多様な考えがあることを確認する。</p>	<p>友達の考えを聞いて、なるほどと思うことがたくさんあったよ。少し自分の考えが変わって面白かったな。</p> <p>人物と人物の関わりや、気持ちの変化をもとに、自分の考えたことをまとめている。</p> <p>【思・判・表】(ノート)</p>

単元名

## 太一の成長に大きく関係した人物は？～サポーターグラフで話し合おう～ 6年「海のいのち」

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性

思考力・表現力

### 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。  
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

### (1) 単元観

本単元では、中心人物の心情の変化を登場人物との相互関係を根拠に読み取る力を付けることを目標としている。また、物語を読んで自分が考えたことをまとめる力を付けることを目標としている。

1学期の「風切のつばさ」の学習では、人物と人物の関係を人物関係図に表し、中心人物（クルル）の心情の変化を登場人物（カララ）との関わりが大きく関係していることを読み取ることができた。本教材では、児童にとって最大の問いになるであろう「太一はなぜ瀬の主にもりをうたなかったのか。」について、中心人物（太一）の心情の変化を様々な登場人物（父、与吉じいさ、母、瀬の主）との関わりを基に解釈することができる単元である。また、本教材は、太一に影響を与えたであろう重要な語句（海のめぐみ、千匹に一匹、村一番の漁師、本当の一人前の漁師など）や太一の心情を表す描写が文章中に多く書かれている。授業で扱う各課題について、それらの言葉を根拠に自分の考えをまとめることができる教材である。

### (2) 児童観

#### 学級の実態

昨年度から児童の問いを中心に単元を構成し、授業に取り組んできた。問いを交流することで解決したい問いを選ぶために対話が生まれたり、友達の問題を聞いて問いに対する考え方が広がったりする姿が見られた。また、単元終末に問いを振り返る時間を作ることで、問いは種類があるという新たな発見があった。一方、問いを交流する場面では、どの問いをみんなで解決していくか問いの決定に難しさを感じたり、選んだ問いが言語活動を通した付けたい力と関連していなかったりといった課題も見られた。

#### 個へのアプローチ

レディネステストの結果、中心人物の心情の変化は登場人物との関わりによって変化したことは読み取ることができている。しかし、中心人物の心情の変化を説明する時に、登場人物の相互関係を手掛かりに、物語全体から具体的に説明することに課題が見られる。これは、中心人物の心情の変化を考えるまでの過程で、中心人物とその他の人物との関係を重要な言葉に着目しながら読み取ることや自分の考えを整理することが十分にできていないことが原因として考えられる。

### (3) 指導観

問いの交流場面や言語活動を通した付けたい力との関連に関わる課題に対して次のような指導を行う。単元の初めに、「太一の成長に関係しているのはだれだろう。」という問いを教師から児童に投げかけ、円グラフに表す。円グラフに表すことで誰が一番大きく関係しているのかズレを生み、単元の大きな問いである「太一の成長に大きく関係したのはだれだろう」を児童と共に設定していく。そして、問いの決定場面では、「太一とその他の人物の関係をもっと詳しく考えるためには、みんなが書いた問いのどれが使いそうか。」と発問し、太一と父、与吉じいさ、母、瀬の主との関係を読み取ることができる問いを児童と共に考え、学習計画を立てていく。

中心人物とその他の人物の関係を具体的に読み取るために、単元の導入では、太一の成長に影響を与えた人物を円グラフに表し、児童の考えのズレを生むことで、太一とその他の人物の関係を詳しく読む必然性生まれるような指導を行う。また、毎時間の最後に学習を振り返る時間を設け、自分の考えや変化した考えなどを整理させていく。これらの指導を行うことで、中心人物の心情の変化の理由や太一の成長に影響を与えた人物の理由など考える手立てとしていきたい。

#### (4) 単元の目標

○ 登場人物の心情や関係がわかる描写を見つけることができる。	(知識及び技能)
○ 人物と人物の関係を手掛かりに、中心人物の心情の変化を読み取ることができる。	(思考力, 判断力, 表現力等)
○ 物語を読んで課題を発見したり, 学習を振り返ったりしようとする。	
○ 人物と人物の関係を手掛かりに, サポーターグラフにまとめようとする。	(主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	登場人物の心情や関係がわかる描写を見つけている。	中心人物とその他の人物との関係を叙述から読み取っている。 人物と人物の関係を手掛かりに, 中心人物の心情の変化を読み取っている。	物語を読んで, 課題を発見したり, 学習を振り返ったりしている。 人物と人物の関係を手掛かりにサポーターグラフをまとめている。

#### 3 指導計画 (全11時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>初発の感想や問いを書く。(1)</p> <p>先生の「サポーターグラフ」を見て, 学習の見通しをもち, 自分のサポーターグラフを書く。(1)</p> <p>太一のサポーターグラフを書く。(1)</p> <p>太一のサポーターグラフを交流し, 解決したい問いを決める。(1) (本時4/11)</p>	<p>なぜ太一は与吉じいさに弟子入りしたのだろう。 なぜ太一は瀬の主にもりを打たなかったのかな。</p> <p>自分の成長に大きく関係しているのはやっぱり家族だな。習い事に行かせてくれたり, 相談に乗ってくれたりする。</p> <p>太一の成長に大きく関係した人物はおとうだと思う。</p> <p>自分と同じ意見の人もあるし違う意見の人もある。まだ理由が書けなかった人もいる。太一と関係が深い人物との関係を詳しく読んでみてもう一度書くとよい。どの問いだと太一とその他の人物との関係が考えられそうかな。</p>	<p>物語を読んで, 課題を発見している。 【態度】(ノート)</p> <p>自分を振り返りサポーターグラフを書いている。 【態度】(サポーターグラフ)</p> <p>物語を読んで, 太一のサポーターグラフを書いている。 【態度】(サポーターグラフ)</p> <p>中心人物とその他の人物の関係を読み取ることができる問いを考えている。 【思・判・表】(ノート)</p>
	<p>【本質的な問い】 太一の成長に大きく関係した人物はだれだろう。</p>		

二	<p style="text-align: center;"><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>太一とおとうの関係を読み取る。 (1)</p> <p>与吉じいさと太一の関係を読み取る。 (1)</p> <p>太一と瀬の主の関係を読み取る。 (1)</p> <p>太一はなぜ瀬の主にもりを打たなかったのかを読み取る。 (1)</p> <p>太一と母の関係を読み取る。 (1)</p>	<p>太一はおとうみたいな海のめぐみを大事にして堂々としているような漁師になりたいと思っていた。太一にとっておとうは憧れだったんだな。</p> <p>太一はおとうと同じ瀬に行きたいと思っているから、与吉じいさに弟子入りした。与吉じいさは太一に漁師としての生き方を教え、太一は与吉じいさに感謝している。</p> <p>太一は瀬の主以外の海の物には興味を示さなかったから瀬の主を打とうと思っている。瀬の主を殺して父の敵を討ち父を超えようと思っている。</p> <p>太一は瀬の主を海に生きている命だと思い、自分の欲だけで今この瀬の主を打つことは海の命を無駄にすることだと思ったから、瀬の主を打たなかった。</p> <p>母は太一がおとうの瀬にもぐることがわかっていてやめてほしいと思っている。それでも太一のおとうの瀬にもぐる決心は固いことがわかる。</p>	<p>中心人物とその他の人物との関係を叙述から読み取っている。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>中心人物とその他の人物との関係を叙述から読み取っている。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>中心人物とその他の人物との関係を叙述から読み取っている。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>中心人物とその他の人物との関係を叙述から読み取っている。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>人物と人物の関係を手掛かりに、中心人物の心情の変化を読み取っている。 【思・判・表】(ノート)</p>
三	<p style="text-align: center;"><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>太一のサポーターグラフを書く。 (1)</p> <p>問いの振り返りをする。 (1)</p>	<p>太一とそれぞれの人物の関係を読んできて、やっぱり与吉じいさとの関係が太一の成長に大きく関わっていると思う。理由は、海の命を大切にするために瀬の主を殺さず村一番の漁師であり続けた太一は与吉じいさの教えを守っていったから。</p> <p>太一とその他の中心人物の関係を読んでいったから始めと最後のサポーターグラフには変化があった。</p>	<p>人物と人物の関係を手掛かりにサポーターグラフをまとめている。 【態度】(サポーターグラフ)</p> <p>単元全体を通して、学習を振り返っている。 【態度】(ノート)</p>

#### 4 本時の展開 (4/11)

(1) 本時の目標

中心人物とその他の人物の関係を読み取ることができる問いを考えることができる。

(2) 観点別評価規準

中心人物とその他の人物の関係を読み取ることができる問いを考えている。

【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。	○ 前時で書いた太一のサポーターグラフを交流することを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">太一のサポーターグラフを交流して問いを決めよう。</div>	友達はどんなサポーターグラフを書いているのかな。
2 見通しをもつ。	○ だれが太一の成長に一番大きく影響しているのかを児童に聞く。	おとうが一番関係している。おとうのような漁師になりたいというあこがれを太一は持っているから。
3 自己内対話をする。	○ 前時に書いたサポーターグラフを見直し、理由をもう一度確認・整理する時間を少し設ける。	与吉じいさだと思う。太一を漁師にするためにいろんな技術や大切なことを教えたから。
4 グループ対話をする。	◆ 一番大きく影響している登場人物を選んだ児童同士を中心に友達と理由を確認し合う。 ○ 違う立場の児童同士でも交流させる。	瀬の主だと思う。瀬の主と出会って太一は変わったから。 理由が書けなかった。
5 全体対話をする。	○ 自分の考えを発表させ、児童の発言に質問がある場合は質問させる。 ◆ 一番大きく影響を与えた人物を選ぶことが難しかったり、理由を書くことが難しかったりした児童にも発言させる。	もっと太一と登場人物の関係を詳しく読んでいかないと理由が書けないし、だれが一番とか決められない。
6 解決していく問いを決める。	○ 「どうすればもっと自信をもって理由が書ける？」や「多数決で決める？」と揺さぶり、今後の学習に向けた児童の発言を促す。 ○ 児童が書いた問いをまとめた表を使って、太一と登場人物の関係を読んでいくための問いを決定する。	なんで与吉じいさの弟子になったのかを読むと太一と与吉じいさの関係が詳しく読めそう。
7 振り返りをする。	○ 次のことを振り返りで書かせる。 ・ 今日授業で分かったこと、分からなかったこと ・ 自分の意見が変わったこと、なるほどと思った友達の考え ・ 今後の学習で解決していきたいこと	なぜ太一は瀬の主を打たなかったのかを読めば太一と瀬の主の関係が分かりそう。 中心人物とその他の人物の関係を読み取ることができる問いを考えている。 【思・判・表】 (ノート)



# どっちがわかりやすいかな？ひきひき法とひきたす法

## 1年 ひきざん(2)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

## 1 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領第1学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

A (2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

(エ) 簡単な場合について2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

## (1) 単元観

前単元までの学習で、答えが10以下の加法及び減法の学習と10より大きい数の学習を行ってきた。「ひきざん(1)」の学習では、減法が用いられる場面とブロック操作による減法の概念の拡張を図った。また、求残、求差などの違いを問題文から正確に把握することで、ブロック操作や図が異なることを学習した。10より大きい数の学習では、数を10といくつと見る考え方を習得させた。

本単元では、(2位数)－(1位数)の問題場面から、これまでの(1位数)－(1位数)の考えでは、計算できないことを把握し、どのようにすれば、正確に(2位数)－(1位数)の繰り下がりの計算ができるのか、思考させる。すべての問題に対してブロックでの操作、図の書き方、計算の仕方を習得していく。減加法、減々法の両者を扱い、問題場面によって、どちらの方法がよいかを考えることを課題とし、それぞれの適用について考える。そして、計算カードの練習を通して減法の習熟を図る。単元の終わりには児童が、「ひきざん(1)」でも学習済みの、求残、求差、求小などの違いを再度学習した上で、問題を作り、児童同士で解き合う活動を行う。

以上の単元学習を通して、児童の数に対する感覚を豊かにし、正確に素早く繰り下がりのある減法の計算ができるようにする。

## (2) 児童観

## 学力調査等の実態

本学級の児童のひきざん(1)のテストの通過率90点以上の児童は、86.9%であった。技能的な計算問題は、全員が間違えることなく解答できていた。一方で、問題にあった正しい図を選択したり、場面に合った問題文を作ったりする思考力をみる問題では、自分の考えが形成できず、正答の児童は78.2%だった。また、考えがまとまらず無回答の児童は2名いた。

これまでの既習の考えや、10といくつの考え方は定着しており、計算間違いは少ないものの、どのように考えたのか、計算の過程を説明する力は不十分な児童もいる。これまでに、ブロック操作をたくさん行っているため、考えがまとまらなくなれば、ブロック操作に戻りながら、自分の考えを形成していく児童の姿も見られる。

## 個へのアプローチ

減々法や減加法などの複数の考え方が出てきた場合、違いを明確に捉えたり、どちらがより良いのか尋ねられた場合に、自分の考えが形成できなかったりする児童がいることが想定される。

## (3) 指導観

本単元では、10のまとまりを考えながら、繰り下がりのある減法の学習を進める。いろいろな計算方法を取り上げることは、児童によっては思考の混乱を生む場合もあるので、半具体物の自然な操作として、右からブロックを数え引いていく減々法を学習する。全員が減々法を習得した上で、減加法の学習へと展開していく。問題場面を正確に把握させてから、立式へとつなげていく。立式や作図の根拠をもたせるために、ペアや全体で、問題文と合わせながら確認をする指導を行う。

どこからどのように引くのか減加法と減々法を比較し、それぞれの良さを理解するために、ブロックや図を用いて自分の考え方の説明をさせる。

減々法や減加法のそれぞれの考えについて、常にブロックを動かして考えさせる。その中で、具体的にどのように違うのか、自分の言葉で表現させる。

問題に応じてどちらの方法を使うと良いのかを見極める際には、友達と考えを共有する中で、自分の考えを形成し、どちらに近い考えか選択させるなどの指導を行う。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

- 10のまとまりに着目して繰り下がりのある計算の意味や方法を理解し、正しく計算する。  
(知識及び技能)
- 繰り下がりのあるひき算の仕方を半具体物や図、言葉、式を用いて表現し考える。  
(思考力・判断力・表現力等)
- 生活の中から繰り下がりのある減法の場면을想起して、意欲的に学習に参加しようとする。  
(主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	繰り下がりのある減法について理解し、正しく計算をしている。場면을式に表したり、式を読み取ったりしている。	繰り下がりのある減法の計算の仕方について、半具体物や図を用いて考えたり、思考の過程を表現したりしている。	意欲的に計算をしたり、日常生活に関連させて問題を作ったりするなどして学習に参加している。

**3 指導計画 (全11時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>既習と比べながら、具体的にどこが違うのかを見付け、減々法を使って繰り下がりのある減法の計算をする。(1)</p>	<p>これまでは、ばらの数だけで計算ができていたのに、この問題は計算できないから、どうしたらいいのかな。 ブロックを使って考えれば、どんな問題も解くことができるよ。</p>	<p>問題場面が、減法(求残場面)であることに気付いている。 【知・技】(ノート)</p>
	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>減加法を使って繰り下がりのある減法の計算をする。(2)(本時2/11)</p> <p>減法の用いられている場面が、求差になっていることに、気付き、どこが違うのか考えながら計算する。(1)</p> <p>繰り下がりのある減法について、問題場面に応じた計算の仕方で、問題を解く。(2)</p> <p>減法の問題作りの活動を通して、減法の意味や方法について考えを深め、式から問題場面を考える。(1)</p> <p>ひきざんカードを用いて、繰り下がりのある減法の計算の練習を行う。(2)</p>	<p>10のまとまりから、数を引くと、たし算も使うことになるね。 まとまりからひくと、数が小さくなるから、計算を間違えることもなくなるね。</p> <p>数が減ったり、なくなっているわけではないから、まる図のかき方が変わるね。 図は変わるけど、計算の仕方は同じ方法が使えるよ。 問題に合わせて、ひきひき法か、ひきたす法かを選ぶといいね。</p> <p>まる図よりも、さくらんぼ図で考えると、速く答えが出せるね。 ばらからひくか、10のまとまりからひくかも、見ただけですぐわかるね。</p> <p>問題を作るときは、場面が分かるように書かないと、図に表すときに困るね。</p> <p>頭の中で、さくらんぼ図をかきながら、カードをすると速く解くことができるね。</p>	<p>減加法について減々法との相違点に気付き、減加法を用いて計算している。 【思・判・表】(ノート)</p> <p>減加法の方法が正確に理解でき、数え引きではなく、減加法をもとに、計算している。 【知・技】(ノート)</p> <p>既習の求残の場面とどこが違うのか問題場面から読み取りながら、立式し計算している。 【思・判・表】(発表)</p> <p>さくらんぼ図を用いて、正しく減法の計算を行っている。 【知・技】(ノート)</p> <p>言葉で、計算の順序を説明している。 【思・判・表】(発表・ノート)</p> <p>減法が用いられる場面を考え、式にあった問題場面を想像し、作成している。 【態度】(ノート)</p> <p>繰り下がりある減法を正しく計算している。 【知・技】(行動観察)</p> <p>意欲的にゲームに取り組んでいる。 【態度】(行動観察)</p>
二	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>練習問題を通して、既習事項の理解を深める。(1)</p> <p>力だめしの問題を通して、既習事項の確かめをする。(1)</p>	<p>この問題は、ひきひき法と、ひきたす法のどちらを使って考えると考えやすいかな。 ひき算が使える場面は、周りにもたくさんありそうだね。</p>	<p>繰り下がりのある減法の問題場面を整理し(求残・求差・求補)、読み取りながら正しく立式している。 【知・技】(ノート)</p>

4 本時の展開 (2/11)

(1) 本時の目標

10のまとまりを意識しながら、減加法の考え方で減法の計算の仕方を考えることができる。

(2) 観点別評価規準

10のまとまりに着目しながら、減加法の計算の仕方を考えている。

【思・判・表】

(3) 適用題の設定理由

問題【A】では減加法の考えを使って問題を解くことができることねらいとしており、問題【B】では、減加法の考え方の説明ができるかどうかを見取ること、今後の指導に生かす。

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応										
1 既習事項の復習をする。(3分)	○ 前時に解いた問題を振り返り、どのようにブロックを動かしたのか確認をすることで、減々法の定着を図る。	11-2はばらの1をひいてから、のこりの1を10のまとまりからひいたね。										
2 課題をつかみ立式する。(7分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     どんぐりが 12こあります。こまをつくるのに 9こ つかいました。のこりの どんぐりは なんこでしょうか。                 </div> ○ 減る場面であることから、ひきざんの式になることを確認し、立式の根拠を明らかにする。 ○ 全体で減々法の計算の方法を復習し、他の考え方で解くことができないかという課題をもたせる。 ◆ 既習の減々法の確認を行うことで、学習内容の復習と、考え方の定着が図れていない児童には、定着をさせる。	ひくひくほうじゃない、やりかたもあるのかな。										
3 自力解決をする。(7分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">                     どこから9を ひけばよいだろう。                 </div> ◆ ブロックで「どこから」「どのように」ブロックを引いているのかを確認する。 ○ ブロック操作が終わった児童は、ノートにわかりやすく図や言葉で方法を書く。 ○ ペアで意見を交換させ、自分の考えを声に出して伝えることで、考えを整理させ、求め方の共通点や相違点を考えさせる。	「のこり」があるから、ひきざんだね。 「つかいました」でなくっているから、矢印で引く張る図になると思います。 前に勉強したやり方を使うと、ばらの2をひいてから、のこりの7をひいたね。										
4 全体で考え方を共有する。(10分)	○ ペアで共有した考えを、ブロックを操作したり、図を指し示したりしながら、「はじめに」「つぎに」と順序を表す言葉を使って全体で話す。	10のまとまりから、ひくと1あまったよ。 あまった1と、ばらの2をどうしたらいいのかな。 ひきざんの勉強だから、2-1をしたらいいと思います。										
5 まとめをする。(5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">                     10のまとまりから、ひいても、ただしこたえがでる。                 </div> ○ 前時の考えと本時の考えを比較することで、同じ式でも様々な方法で計算することができることを知り、本時の問題場面ではどのやり方がわかりやすいかまとめる。	ブロックで考えたら、答えは、3になるから、2+1になると思います。 ○ 繰り返し下がりのある減法について、10のまとまりに着目しながら、減加法の計算の仕方を考えている。 【思・判・表】(ノート)										
6 適用題を解く。(10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>                     目 アイスクリームが13こあります。せんせい が 7こ たべました。のこりはなんこでしょうか。                      ( 10のまとまりから ・ ばらから ) ひきます。                      (しき) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>                      (こたえ) _____                      (ず) _____                 </p> <p>                     目 木にかきが13こなっています。さるが9ことっていきました。かきは、めとほんこいつているでしょうか。                      けんたくんは、つぎのようにかんがえましたが、うまくいきませんでした。どこをまちがえたのでしょうか。                 </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; display: inline-block;">                     しきは、13-9です。まず、10のまとまりから、ひけばいいので、10-9=1。ひきざんのもんだいなので、ばらの3から、この1をひきます。3-1=2になります。こたえは、2です。                 </div> </div>											
7 振り返る。(3分)	○ 今日の学びを振り返ることで、自分の成果や課題を認識し、次時の目標を立てることができるようにする。											



単  
元  
名九九を使って考えよう  
2年 かけ算(3)

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性 自分への自信

## 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領算数科第2学年の「A(3)乗法」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

A(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (1) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。  
 (2) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。  
 (3) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。  
 (4) 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。  
 (5) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (1) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

## (1) 単元観

本単元は、乗法九九表を観察して乗法の交換法則に気付くとともに、簡単な場合の2位数と1位数との乗法の計算の仕方について考えたりいろいろな数のまとまりで被乗数を捉えて乗法の式に表したりすることで、乗法への理解を深めることをねらいとしている。

本教材は、身に付けた乗法九九を活用し、九九表を拡張したり乗法が適用できる場面で問題解決をしたりする。乗法九九を知るだけでなく、乗法が用いられる場合について理解を深めたり簡単な性質について知ったりすることで、既習をもとに統合的・発展的に考えるのに適した教材である。

また、本単元では、「いくつずつ」、「いくつ分」を明らかにして図や式、言葉で表して説明したり、式と図を対応させながら話し合ったりすることで、自分と違った見方や考え方に気付く、数の意味や表し方への理解を深めていくことができると考える。

## (2) 児童観

## 学力調査等の実態

レディネステストの結果、かけ算の意味を理解している児童は、78.6%、図から「いくつずつ」・「いくつ分」を捉えて、問題文の表す場面を図にかくことができた児童は、82.1%、立式し、答えを求めることができた児童は、89.2%であった。以上の結果より、 $(1つ分の数) \times (いくつ分) = (ぜんぶの数)$  というかけ算の式の意味を理解できていない児童が見られる。

アンケートの結果、「算数が好き」と答えた児童は、89.2%であった。その理由として、「新しいことを知れる」・「計算が楽しい」という回答があった。また、「自分の考えを友達に伝えることは得意」と答えた児童は、78.6%だった。ペアで発表することはできて全体の前では自信がなかったり、発表の仕方に困ったりしてしまうことが考えられる。友達と考えを積極的に交流したくなるような場を設定する必要がある。

## 個へのアプローチ

基準量を捉えることが難しかったり、問題場面を具体的にイメージできなかったりする児童がいると想定される。

## (3) 指導観

本単元は、まず、九九表を用いてかけ算の交換法則が成り立つことを学習していく。その中で、「被乗数、乗数は、どちらにどんな数字を当てはめてもよいのではないか」という考えが生まれてくると考えられる。そこで、九九表から生活場面へと段々問題場面を移すなかで、被乗数・乗数を気にした方がよい場合があることに気付かせたい。

本時においては、割合の素地となる基準量を捉える学習として、基準量が後に示された問題場面について考えていく。既習事項である「いくつずつ」・「いくつ分」を基に自分の考えを説明させる。

その際、図や言葉によって自分の考えを表現し、対話によって友達と考えを交流させながら、思考を深められるようにしたい。

具体物や図を使って問題場面のイメージをもたせる。児童同士の対話を意図的に取り入れ、問題場面の理解をより深めさせたい。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

- 乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成できるとともに、被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解する。  
(知識及び技能)
- 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えるとともに、乗法九九の表を観察して、乗法についての性質を見出す。また、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考える。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 乗法のきまりや乗法九九表を活用して、生活や問題解決に生かそうとする。  
(主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解し、九九表のきまりを理解している。 乗法のきまりを用いて、乗法九九表を手際よく完成させることができている。 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解し、九九表のきまりを理解している。	数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えている。 乗法九九の表を観察して、被乗数、乗数、積の関係や交換法則などの乗法についての性質を見出している。 簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考え、式や図を用いて表現し、答えの求め方を工夫している。	乗法九九表を活用して、進んできまりを見つけたり、楽しいゲームを工夫したり、生活や問題解決に生かそうとしていたりしている。

**3 指導計画 (全10時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 5px; background-color: #e0e0e0;">課題の設定</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 5px; background-color: #e0e0e0;">情報の収集</div> </div> <p>乗法九九の表の書き方を知る。 4, 16, 30はどんな乗法の答えなのかを考える。 乗法九九の答えを表に書く。(1)</p> <p>九九表から、いろいろなきまりや特徴を考え、発表する。(1)</p> <p>かけられる数が3の答えと、かける数が3の答えを比べる。 答えが同じになるわけを考え発表する。 交換法則を用いて問題を解く。(1)</p>	<p>九九表という物があるのか。 覚えていたことを使えば簡単だよ。 あれ?答えが同じところがたくさんあるな。 九九表には、たくさんきまりがあるのだな。</p> <p>なぜ、答えが同じになるのかな。 そうか、かけ算は掛けられる数(1つ分)とかける数(いくつ分)を入れ替えても答えが同じだからだ。</p>	<p>九九表の仕組みを理解している。 乗法九九の表を完成することができる。 【知・技】(ノート, 行動観察)</p> <p>九九表のよさに気づき、九九のきまりや特徴を見出している。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>被乗数と乗数に着目して、式や図を用いて表現し、答えが同じになるわけを考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
【本質的な問い】かけ算は、どんなときにつかえるだろう。			
二	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 5px; background-color: #e0e0e0; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">整理・分析</div> <p>ブロックの数を求める式を考える。 交換法則や情報のきまりを使って、計算のしかたを考える。(1)</p> <p>問題文に合ったかけ算の式を考える。 場面に合った式になっているかを図や言葉を使って説明する。(1) (本時5/10)</p> <p>12×3の計算のしかたを分配法則を使って考える。(1)</p> <p>3×12の計算のしかたを考え、答えを求める。(1)</p>	<p>あれ?確かに、かける数とかけられる数を入れ替えても答えは同じだけど、図と結びつかないな。 5のかたまりが4こだから、5×4だと思う。4×5だと、4のかたまりが5こだから、おかしい。</p> <p>たし算でも確かめられるよ。友達と考えている式が全然違うよ。友達は、どのようにして考えているのかな。 なるほど、やはり1つ分といくつ分は、どちらでもいいわけではなくて、大切なことなんだな。</p>	<p>簡単な2位数と1位数の計算について、図で表したり、式を変形したりすることができる。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>基準量が後に示された問題場面で、式の意味を図に表し説明することができる。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>簡単な2位数と1位数の計算について、分配法則をもとに考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>

三	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>19人で旅行に行くときの、座席の取り方を考える。 他の人数の場合の座席の取り方を考える。(1)</p>	<p><b>実行</b></p> <p>座席の形を見ると、1つ分が分かるね。 いくつ分は、何列あるかを見ると分かるね。</p>	<p>かけ算九九を想起し、場の状態を考えながら、かけ算九九を生活場面で活用し、問題を解決している。 【思・判・表】(ノート、行動観察)</p>
四	<p><b>ふりかえり</b></p> <p>かけ算の練習問題に取り組むとともに、単元の学習を振り返る。(2)</p>	<p>どれだけ学んだことが身についているかな。</p>	<p>単元で学んだことや学習・生活に生かしたいことなどを振り返っている。 【態度】(発言・ノート)</p>

#### 4 本時の展開 (5/10)

##### (1) 本時の目標

基準量が後に示された問題で、式の意味について考え、図に表して説明することができる。

##### (2) 観点別評価規準

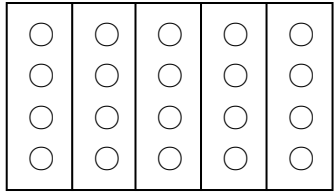
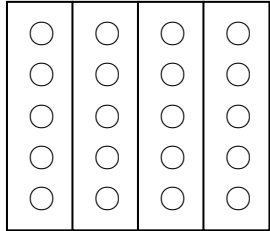
基準量が後に示された問題場面で、式の意味を図に表し説明している。

【思・判・表】

##### (3) 適用題の設定理由

異なる問題場面においても基準量を捉えて、計算することができるかを見るときともに、自力解決できなかった児童のつまずきの原因を分析し、今後の指導に生かす。

##### (4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 復習する。(3分)	○ フラッシュで「何個のいくつ分」を振り返り、本時の学習につなげる。	
2 問題に出会い、課題を設定する。(5分)	○ 2通りの式を導くために、基準量が後に出てくる問題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">           4人にケーキをあげます。1人に5こずつあげるには、ぜんぶでなんこいるのでしょうか。         </div> ○ $4 \times 5$ , $5 \times 4$ , または、どちらでもよいかを問う。	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <math>4 \times 5</math>と<math>5 \times 4</math>だと意味が違うよ。         </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;">           どちらも答えは20個だから、どちらも正しいよ。         </div>
しきのいみを図にかいてせつ明しよう。		
3 2通りの式を図や言葉で表す。(7分)	○ ノートに $4 \times 5$ , $5 \times 4$ の式を図や言葉で表させる。 ◆ 図が書けない児童には、問題文の順に数図ブロックを操作するように促し、「何のいくつ分」かを考えるように助言する。	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <math>4 \times 5</math>の図だと、5人にあげることになってしまうぞ。         </div>
4 2通りの式の説明をする。(10分)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p><math>4 \times 5</math></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4こずつ5人分</li> <li>・ 「1つ分」は4こ</li> <li>・ 「いくつ分」は5こ</li> <li>・ <math>4 + 4 + 4 + 4 + 4</math></li> </ul> </div> <div style="text-align: center;"> <p><math>5 \times 4</math></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5こずつ4人分</li> <li>・ 「1つ分」は5こ</li> <li>・ 「いくつ分」は4こ</li> <li>・ <math>5 + 5 + 5 + 5</math></li> </ul> </div> </div> <p>○ 話し合いでは、友達の間を読み取ったり、付け加えたりして、みんなで考えを出し合うことができるようにする。</p> <p>○ 2通りの式の違いを明らかにする。</p>	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           まず、1つ分を見つけなければいいんだよ。 次に、いくつ分を見つかるんだ。         </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;">           答えは20で同じだけど、図で考えると式の意味が違うことがわかるね。         </div>

5 学習したことを確かめる。(5分)

6 適用題を解く。(10分)

7 振り返る。(5分)

○  $5 \times 4$ から(1つ分の数)  $\times$  (いくつ分)を導き、かけ算の式の意味を再確認することができるようにする。

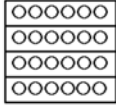
○ フラッシュを用いて、問題場面に合うかけ算の式や図を選ばせ、全体で学んだかけ算の式の意味について定着を図る。

**A**

もんだいに合うように もんだいとしきを 線で つなげましょう。  
また、しきにあう図を 線で つなげましょう。

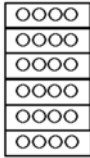
1はこ6こ入りのボールが4はこあります。ボールは、ぜんぶで何こありますか。

・  $4 \times 6 = 24$  ・



おせんべいが6ふくろあります。1ふくろに4まい入っています。おせんべいは、ぜんぶで何まいありますか。

・  $6 \times 4 = 24$  ・



**B**

グミが 同じ 数ずつ 入った ふくろがいくつか あります。グミ ぜんぶの 数は  $9 \times 6$ の しぎで もとめられます。

つぎの 中で 正しい ものには ○, 正しくないものには ×を つけましょう。

- ① グミの ふくろは ぜんぶで 9つあるね。( )
- ② グミは 1ふくろに 9こずつ 入っているね。( )
- ③ グミの ふくろは ぜんぶで 6つあるね。( )
- ④ グミは 1ふくろに 6こずつ 入っているね。( )

○ 今日の学習で分かったことや友達の考えのよいところについて、振り返りをノートに書かせる。

○ 基準量が後に示された問題場面で、式の意味を図に表し説明している。【思・判・表】(ノート)

1つ分の数やいくつ分を考えれば、正しく立式できる。

図を書くことで、正しく式に表わせる。

○○さんの説明の( )が良くわかりました。



単  
元  
名

# 分数の計算の仕方を考えよう

## 3年 分数

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領第3学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- A (6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (7) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。
- (イ) 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。
- (ウ) 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (7) 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。

### (1) 単元観

分数の学習は、児童にとって困難な学習内容とも言われている。つまりさせる大きな原因の1つには、量の大きさを表す分数と、割合を表す分数の指導の混乱があげられる。第2学年では、ある大きさの半分や4つに分けた1つ分といった簡単な分数について学習している。第3学年では、これらの経験を踏まえて、長さやかさの端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すのに分数を用いることを知り、それらを適切に用いることをねらいとしている。

また本単元では、分数の大きさを図や数直線上に表したり、同分母分数の加法・減法の仕方を考えたりすることで、分数の意味や表し方が分かるとともに、同分母分数の加法・減法の意味について理解することもねらいとしている。本教材は、分数の大きさを図や数直線上に表したり、それをもとに小数の大きさと関係付けたり計算の仕方を考えたりすることで、1をもとにした分数の大きさを捉えていく。このような見方は、基準量の分数倍にあたる量を求める考え方や、1をもとにしたときの割合分数で表す考え方や、整数の除法の結果を表す商分数の学習へとつながるため、系統性を意識した指導が必要であると考える。

### (2) 児童観

#### 学力調査等の実態

レディネステストで「1 dLのます図に指定された量のかさだけ色を塗る問題」と「○dLのいくつ分で○dLであることを答える問題」を実施した。ます図に色を塗る問題の正答率は100%であったが、○dLのいくつ分で○dLであることを答える問題の正答率は57.1%だった。

分数は1を等分した1つ分の大きさを表した数であることが分かるようにしていく必要がある。

#### 個へのアプローチ

分数は1を等分したいくつ分の大きさを表した数であることを理解することに課題がある児童がいる。

### (3) 指導観

本単元では、第2学年までに学習したことを基に、分数の意味や表し方を学習していく。導入では、1mのテープを等分した長さの単位分数のテープと同じ長さのものをさがさせ、1mを何等分した1つ分で表せることに気付かせていく。等分した大きさを分数で表すことについて理解させることは、第5学年で学習する分数が割合や商を表すことにつながるため、重要である。また、分数で表した長さを実際に見たり、それを基に測定したりする経験をさせることで、量分数で表すことに親しませたい。さらに、分数をL・dLマスの図やテープ図、数直線上に表して数量の大きさを掴ませていくことで、分数が表す数量への見方を広げていきたい。

本単元の学習では、分数は1を等分したいくつ分の大きさを表した数であることを理解することにつまずく児童がいることが考えられる。そこで、単元の導入では、1mのテープを等分した長さの単位分数のテープと同じ長さのものをさがすことで、単位分数が視覚的に捉えられるようにする。また、ペアで図を使って話し合う場を仕組むことで、分数の分母の数が大きくなると数の大きさは小さくなることを実感したりできるようにする。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 分数の意味や表し方, 簡単な場合の加法及び減法の意味について理解する。 (知識及び技能)
- 同分母分数の大小比較や加法・減法の仕方について, 単位分数の幾つ分かで表して考える。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- 分数や分数で学習したことを学習や生活に生かそうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	分数の意味や表し方, 同分母分数の加法及び減法の意味について知っている。	同分母分数の大小比較や加法・減法の仕方を単位分数の幾つ分かで表して考えている。	分数で表すことよさに気付き, 学習や生活に生かそうとしている。

### 3 指導計画 (全10時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>1mのテープを等分した長さの単位分数のテープと同じ長さのものをさがす。(1)</p>	<p>○分の1のテープの長さは, ○まい分で1mになるということかな。</p>	<p>いろいろな等分した長さの単位分数のテープの長さのものをさがそうとしている。</p> <p>【態度】(行動観察, 発言)</p>
	<p>【本質的な問い】分けた長さやかさは, 分数でどのように表すことができるだろう。</p>		
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>単位分数のいくつ分という見方で, 長さやかさを分数や図に表す。(2)</p> <p>分数を使って, 長さやかさをはかる。(1)</p> <p>分数の仕組みを調べ, 同分母分数の大小比較をする。(1)</p> <p>分数を正しく表している図を考える。(1)</p> <p>分数と小数の関係を調べ, 大小比較をする。(1)</p> <p>分数のたし算・ひき算の問題場面を図や数直線に表し, 計算の仕方を考える。(2) (本時8/10)</p>	<p>○分の1のいくつ分と考えれば, 分数で表せるね。 1mや1Lを何等分したいいくつ分で見ればいいね。</p> <p>身近な長さやかさも分数で表せるんだね。</p> <p>○分の1のいくつ分と考えれば比べられるね。</p> <p>1mや1Lを何等分したいいくつ分になっているかで考えればいいね。</p> <p>0.1と<math>\frac{1}{10}</math>は同じ大きさだね。</p> <p>○分の1のいくつ分と考えれば, 整数と同じように計算ができるんだね。</p>	<p>分数の表し方を理解し, 分数を図に表すことができる。 【知・技】(ワークシート)</p> <p>図に表された数量を分数で表すことができる。【知・技】(ワークシート)</p> <p>身近なものの長さやかさを分数で表している。【態度】(発言・行動観察)</p> <p>大小比較の仕方や1と等しくなる分数があることを知っている。 【知・技】(発言・ノート)</p> <p>1mや1Lを何等分したいいくつ分になっているかという考え方をういて分数を正しく表した図について考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)</p> <p>分数と小数の大きさの関係を知っている。【知・技】(発言・ノート)</p> <p>同分母分数の加法・減法の仕方を単位分数の幾つ分かで考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>学習したことを活用し, 問題作りをして解き合ったり, 練習問題に取り組んだりする。(1)</p>	<p>分けた大きさを分数で表すとき, ○分の1のいくつ分を考えることが大切だね。</p>	<p>進んで分数の問題を作ったり解いたりしている。 【態度】(ノート・行動観察)</p>

#### 4 本時の展開 (8/10)

##### (1) 本時の目標

1 Lを何等分したいいくつかになっているかという捉え方を用いて同分母分数の加法の計算のしかたを考えることができる。

##### (2) 観点別評価規準

1 Lを何等分したいいくつかになっているかという捉え方を用いて同分母分数の加法の計算のしかたを考えている。 【思・判・表】

##### (3) 適用題の設定理由

数値を変えた場合でも、分数のたし算の計算をすることができるかを見るとともに、自力解決できなかった児童のつまずきの原因を分析し、今後の指導に生かす。

##### (4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出 合い、めあて を設定する。 (5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">あきらさんは、牛乳をきのう<math>\frac{1}{5}</math>L、今日<math>\frac{2}{5}</math>L飲みました。 合わせて何Lの牛にゆうを飲んだでしょうか。</div> <p>○たし算になることを確かめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「合わせて」だから足し算だね。</div>
2 自力解決 する。 (10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">分数のたし算のしかたを考えよう。</div> <p>◆ どのような求め方が考えられるか、児童が意見を出すことで考え方の見通しをもてるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">式はかんたんにつくれるよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">今までみたいのまま図をかいてみたらいいと思う。</div>
3 考えを出 し合い、練り 合う。 (10分)	<p>○ 自分の考えをノートに自由にかきこませる。</p> <p>◆ 全体を「2L」として捉えてしまう可能性がある。自力解決の段階で児童の実態を見取っておく。</p> <p>○ <math>\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{10}</math>としている誤答があれば取り上げ、全体で考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">テープ図をかいてみるのもいいんじゃないかな。</div>
4 まとめる。 (5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">分母が同じ分数をたす時は、分母はそのまま分子だけたすといくらになるかを考えるとよい。</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">分母の数が同じということは、どちらも1Lを同じ数に分けているんだね。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">友達の発表を聞いて、3/10 がまちがっている理由がわかったよ。</div>

<p>5 適用題に取り組む。 (10分)</p>	<p>【A】あつしくんは<math>\frac{2}{7}</math>Lのジュースを飲みました。しかし、のどがかわいていたので<math>\frac{4}{7}</math>Lのジュースをおかわりしました。あつしくんは合わせて何Lのジュースを飲んだのでしょうか。計算の仕方を説明しましょう。</p>	<p>○ 1Lを何等分したいくつ分になっているかという捉え方を用いて同分母分数の加法の計算のしかたを考えている。【思・判・表】(ノート)</p>
<p>6 振り返る。 (5分)</p>	<p>【B】ともこさんは<math>\frac{6}{14}</math>Lと答えました。しかし、ともこさんの計算の仕方は間違っています。正しい計算の仕方をともこさんに説明してあげましょう。</p>	<p><math>\frac{2}{7}</math>Lは1Lを7等分した2つ分のことだよ。</p> <p><math>\frac{4}{7}</math>Lは1Lを7等分した4つ分のことだね。</p> <p>分母が同じ数だから、分子だけ計算すればよさそうだね。</p>
<p>①自分の成長 ②友達から学んだこと ③うまくいったことや失敗したこと ④新たな疑問</p>		

# Run up for “小数のかけ算わり算”

## 4年 計算の仕方を考えよう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

### 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第4学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- A (4) 小数とその計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (e) 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (f) 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えとともに、それを日常生活に生かすこと。

### (1) 単元観

本単元は、乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の仕方について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して考えることが主なねらいである。本単元では、後に学習する「小数のかけ算とわり算」に向け、計算の仕方を計算の意味と関連付けたり、数を構成する単位に着目したりする見方を育て、小数に整数をかけたりわったりする計算の意味を理解し、計算の仕方について考えることができるようにしていく。

これまでに「小数」では、小数が整数と同じ仕組みで表されていることやその仕組みを基に加法や減法の計算ができることを学習した。本単元で乗数や除数が整数である場合の小数の乗法や除法について学習することで、小数の四則計算の可能性が広がったことを実感させるとともに、小数の仕組みや計算への理解を深められるようにしていく。

また、本単元で学習する内容は、第5学年で学習する「単位量あたりの大きさ」「小数のかけ算」につながっていく。

### (2) 児童観

#### 学級の実態

9月にアンケートによる意識調査を行ったところ、算数の学習に苦手意識をもつ児童の割合は26.1%であった。その理由には、「問題場面をイメージできないから」「計算するのが苦手だから」が主に挙げられていた。

また、「算数の学習で進んで意見を伝えることができていない」と感じている児童の割合も26.1%であった。その理由に「自分の考えに自信がないから」が多く挙げられていた。

学級の実態として、「問題場面をイメージすること」や「自分の考えを進んで伝えること」に課題がある児童がいる。

#### 個へのアプローチ

9月にレディネステストを行ったところ、「問題場面を適切に図や式に表すこと」に課題が見られた児童の割合は21.7%であった。意識調査の回答では「問題場面を図や式に表すこと」に対し苦手意識をもっている児童も数名いた。

また、「他者の考えや説明の仕方をもとに説明すること」に課題が見られた児童の割合は26.1%であった。回答の中には、計算の意味が理解できていないものがあつた。

児童のつまずきのポイントとして、「問題場面を適切に捉えること」「他者の考えや説明を正しく理解すること」の2点があると考えられる。

### (3) 指導観

授業の導入では、問題場面をイメージすることができるよう、簡単な整数の場合の問題場面を導入で提示し、どのような図や式で表せるか考えさせる。その際、図を用いて式の意味を説明させることで、図に表すことや図を用いて説明することに苦手意識をもつ児童が自信をもって説明できるようにしたい。

また、自力解決の前にペアで解決方法について見通しをもたせたり、意見交流の前にペアで考えを説明し合う場を設けたりして、立式や考えの理由を明確にしていけるようにしたい。

自力解決の際には、児童の分かりやすい説明や多様な考えを見付け、ほめたりみんなに紹介したりして、前向きな雰囲気を作りたい。

問題場面を図に表すことで、場面をイメージしたり求め方を考えたりできるようになる。導入では、乗法を用いる場面について扱うことで、乗法の場面でどのような図になるかイメージをもたせておきたい。

また、自力解決や意見交流において児童が多様な方法で考えられるよう、導入で提示する問題で計算の意味を確かめたり単位に着目して考えさせたりして、解決の手掛かりをつかませておく。

そして、それぞれの考えを説明する場では、計算の意味や説明の意味について、図を用いて確かめていく。そこで、図を用いて表すと考え方が分かりやすくなることを実感させたい。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 乗数や除数が簡単な整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができる。 (知識及び技能)
- 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考える。 (思考力、表現力、判断力等)
- 小数やその計算の仕方を日常生活や学習に生かそうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	乗数や除数が簡単な整数の場合の小数の乗法及び除法の計算ができています。	数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えて表現している。	小数やその計算の仕方を日常生活や学習に生かそうとしている。

#### 3 指導計画 (全3時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p><b>情報の収集</b></p> <p>乗数が整数である場合の小数の乗法の計算の仕方について考える。(1) (本時1/3)</p> <p><b>整理・分析</b></p> <p>除数が整数である場合の小数の除法の計算の仕方について考える。(1)</p>	<p>【本質的な問い】 小数のかけ算やわり算はどうすれば計算できるのだろう。</p> <p>かけ算は同じ数を何回か足していく計算だから、たし算で考えればいいね。  <math>0.1L = 1dL</math> だから、LをdLにすれば整数と同じように計算できるよ。  <math>0.1</math>のいくつ分で考えれば、整数と同じように計算できるよ。</p> <p>かけ算と同じように、LをdLにしたり<math>0.1</math>のいくつ分で考えたりすれば整数と同じように計算できるよ。          わり算はかけ算の逆で、「いくつずつ」や「いくつ分」を求める計算として考えればいいね。</p>	<p>計算の意味と関連付けたり数を構成する単位に着目したりして考えている。</p> <p>【思・判・表】 (発言・ノート)</p> <p>数を構成する単位に着目し、乗法の場合と同様に考えて除法の計算ができる。</p> <p>【知・技】 (ノート)</p>
二	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>小数の乗法や除法の計算が適用できる場面を見付け、解決する。(1)</p>	<p>かさや長さが小数になっても、整数と同じように考えて求めればいいね。          身の回りには、小数のたし算やひき算、かけ算やわり算が使える場面がたくさんあるんだね。</p>	<p>小数の四則計算が適用できる場面を見付け、進んで解決している。</p> <p>【態度】 (発言、ノート)</p>

#### 4 本時の展開 (1/3)

##### (1) 本時の目標

乗数が整数である場合の小数の乗法の計算の仕方について考える。

##### (2) 観点別評価規準

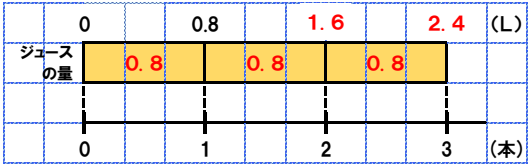
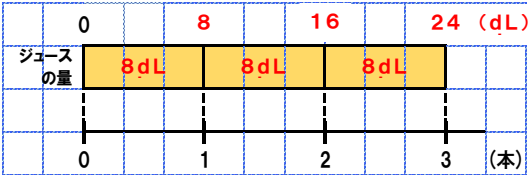
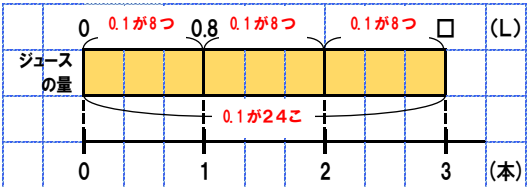
乗数が整数である場合の小数の乗法の計算の仕方について、計算の意味と関連付けたり数を構成する単位に着目したりして考えている。 【思・判・表】

##### (3) 適用題の設定理由

適用問題Aは、乗数が簡単な整数である場合の小数の乗法の計算ができるかを見取るためのものである。

適用問題Bは、他者の説明をもとに、 $0.1$ のいくつ分で考えて整数の場合と同様に考えて求める方法を説明できるかを見取るものである。

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
<p>1 問題解決のイメージをもつ。(5分)</p> <p>2 問題に出会う。(2分)</p> <p>3 本時のめあてをつかみ、見通しをもつ。(3分)</p>	<p>◆ 整数の場合の問題場面から図を用いて計算の意味や仕方を確かめることで、図を用いた表現への抵抗感を無くしたり、数を構成する単位に着目する手掛かりにしたりできるようにする。</p> <p>ジュースが0.8Lずつ入っているびんが3本あります。ジュースは全部で何Lあるでしょうか。</p> <p>○ 立式させ、図を用いてその理由を確かめる。</p> <p>◆ どうすれば計算できそうかペアの友達と相談する場を設定し、見通しをもたせる。</p>	<p>8Lのびんの3本分を式で表すと、<math>8 \times 3</math>になるね。</p> <p>0.8Lのびんが3本分だから、<math>0.8 \times 3</math>で求めます。</p> <p>いろいろな方法で計算できそうだね。</p>
<p>4 自力解決をする。(10分)</p>	<p>【たし算にする考え】</p> <p><math>0.8 \times 3</math>は、0.8の3つ分だから、たし算で求められます。  <math>0.8 + 0.8 + 0.8 = 2.4</math> だから  <math>0.8 \times 3 = 2.4</math>です。</p> 	
	<p>【dLにする考え】</p> <p><math>0.8L = 8dL</math>  <math>8 \times 3 = 24</math> で、24dLです。  <math>24dL = 2.4L</math> なので、  <math>0.8 \times 3 = 2.4</math>です。</p> 	
<p>5 考えを共有し、比較する。(13分)</p>	<p>【0.1のいくつ分にする考え】</p> <p><math>0.8L</math>は0.1Lの8つ分です。  <math>8 \times 3 = 24</math>  <math>0.1L</math>が24こあるので  <math>0.8 \times 3 = 2.4</math>です。</p> 	
<p>6 適用問題を解く。(7分)</p>	<p>○ 図を用いて、考えの意味を確かめる。</p> <p>◆ <math>1.5 \times 3</math>を複数の方法で計算させることで、友達の考えを適用できるようにしていく。</p> <p>○ 似た考えやいつでも使えそうな考えについて話し合う場を設定することで、考えを比較させる。</p>	<p>○ 計算の意味と関連付けて考えている。 【思・判・表】(ノート)</p>
<p>7 振り返る。(5分)</p>	<p>【A】牛にゆうが0.6L入ったびんが4本あります。牛にゆうは全部で何Lあるでしょうか。</p> <p>【B】<math>1.2 \times 3</math>の仕方について、整数×整数で求める方法をたけしさんの考えをもとに説明しましょう。          (たけしさんの考え)  <math>0.5</math>は、<math>0.1</math>の5つ分です。<math>5 \times 3 = 15</math>  <math>0.1</math>が15こあるので、<math>0.5 \times 3 = 1.5</math>です。</p> <p>○ 計算する方法について分かったことや自分の学び方について振り返らせる。</p>	<p>○ 数を構成する単位に着目して考えている。 【思・判・表】(ワークシート)</p> <p>たし算で計算したり1dLや0.1Lのいくつ分で考えて計算したりすればいいね。</p>
		<p>いろいろな方法で計算できるようになって、楽しかったな。</p>





# 割合って何を表してるの？

## 5年 割合とグラフ

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性 思考力・表現力

## 1 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領第5学年の「C 変化と関係」「D データの活用」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- C (3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。
- (イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
- D (1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。
- (イ) データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。

## (1) 単元観

本単元は、基準量を1としたとき、比較量がどれだけにあたるかを割合で表し、それを用いて数量の関係の比べ方を考察することができるようになることをねらいとしている。また、割合を百分率や歩合で表すことや円グラフや帯グラフを読んだり表したりすることができるようになることをねらいとしている。

本単元は、「単位量あたりの大きさ」、「小数のかけ算」、「小数のわり算」で学習したことをもとに、2つの数量の関係を比べる方法を考察し、割合で表すことができるようになることをねらいとしている。その際、2つの数量の関係を図に表して立式したり、図を基にその理由を考えたりしていく。図を基に2つの数量の関係を適切に捉えさせることで、基準量・比較量・割合の関係やそれぞれの求め方を理解させていく。また、割合の求め方を学習した後に、円グラフや帯グラフについて学習し、その後、基準量や比較量の求め方を学習する。基準量や比較量を求める学習では、グラフを使って割合やその要素を表すことで、基準量と比較量、割合の関係を捉え直すことができるようにしていく。

## (2) 児童観

## 学級の実態

8月に行った意識調査のアンケートによると、「算数が好き・得意」と答えた児童が67%、「あまり好きではない・得意ではない」と答えた児童が33%であった。その理由として、「文章問題が難しくて分からないから」「わり算などの計算が苦手だから」などが挙げられた。

また、「算数の学習で友達と話し合うことは大切だ」と感じている児童は90%だが、「友達に自分の意見を伝えている」という児童は81%であった。伝えることができない理由としては、「自信がないから」「うまく説明ができないから」という理由が挙げられていた。算数への苦手意識から意見を言うことへの抵抗感が見られる。

## 個へのアプローチ

8月に実施したレディネステストにおいて、割合、比較量、基準量を求める問題で、正しく立式できた児童はそれぞれ69.6%、96.9%、51.7%であり、基準量を求める問題での課題が見られた。しかし、どの問題でも、立式はできていても、正しく図がかけない児童が見られたことから、問題の意味を理解しているのではなく、感覚的に立式している児童もいると考えられる。

## (3) 指導観

本単元では、基準量と比較量の関係を正しく捉えること、図を使って立式の意味を説明することを大切にしたい。そのために、まずは導入で問題の具体的な場面を見せ、問題の全体像をイメージしやすくなるよう工夫していく。そうすることで算数に苦手意識をもつ児童が、何を求めているのかを図に表しやすくなると考える。

また、自力解決の前に見通しをもたせたり、全体交流の前後にペアで考えを説明し合ったりさせ、立式や説明ができるようにしたい。自信がない児童は全体で説明することに抵抗感を示すため、全体交流の前だけでなく、全体交流の後にもペアでの説明をすることで、だんだんと説明の仕方や考え方をつかんでいけるようにしたい。

レディネステストから、式の意味を説明したり、図をかいて何を求めているかをつかんだりすることにつまずく児童がいると予想される。特に、基準量を求める場面では、1にあたる部分がどこかが分かりづらくなるため、問題文に返りながら図に□や矢印を書き込んで思考させることで、基準量と比較量の関係の理解につなげたい。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 百分率を用いた表し方を理解するとともに、割合を用いて数量の関係を比べることができる。また、円グラフや帯グラフの特徴やそれらの使い方を理解する。(知識及び技能)
- 数量の關係に着目し、図や式を用いて、2つの数量の關係や別の2つの数量の關係との比べ方を考える。また、目的に応じて資料の特徴や傾向に着目し、割合の違いを捉える。(思考力、判断力、表現力等)
- 割合を用いた比べ方やグラフに表すことよさを感じ、学習や生活に生かしたり、考察の方法や結果、結論を批判的に振り返ったりする。(主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	割合、比較量、基準量の関係を図に表し、求めている。 割合を百分率を用いて表している。 円グラフや帯グラフを用いて、データを読んだり表したりしている。	割合として捉えられる2つの数量の関係を、図や式を用いて表したりそれを用いて説明したりしている。 資料の特徴や傾向に着目し、割合の違いを捉え、説明している。	学習や生活で、割合を用いて比べたりグラフに表したりしている。 学習で、考察の方法や結果、結論を批判的に振り返っている。

#### 3 指導計画 (全15時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>割合が用いられている身の回りの事象やその表し方について考える。(2)</p>	<p>もとにする量の「4割」や「20%」ってどういうことだろう。</p> <p>「シュートの成績」や「どちらがお得か」は、どうすれば比べたりグラフに表したりできるだろう。</p>	<p>割合が用いられていることに興味をもっている。 【態度】(発言・ノート)</p> <p>既習や生活経験から求め方や割合の表し方を考えている。 【思・判・表】(ノート)</p>
	<p><b>【本質的な問い】</b> 割合は何を表しているのだろう。</p>		
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>全体と部分である2量から、シュートの成績や混み具合の比べ方などの割合の求め方を考える。(2)</p> <p>全体と部分でない2量から、割合の求め方を考える。(1)</p> <p>百分率や歩合の表し方について知り、割合の求め方を考える。(3)</p>	<p>(比べられる量) ÷ (もとにする量) で、もとにする量を1としたとき、比べられる量がいくつにあたるかを求められるね。このように表した数を「割合」というんだね。</p> <p>もとにする量が変わると割合も変わるね。このとき、割合が1よりも大きくなることもあるよ。</p> <p>もとにする量を100にして表した割合を百分率といい〇%と表し、0.1を1割と表した割合を歩合というんだね。 割合は、百分率でも歩合でもどちらでも表せるね。</p>	<p>単位量当たりの大きさを基に、シュートの成績の表し方を考えている。 【思・判・表】(発言、ノート)</p> <p>もとにする量を考えて立式し、割合を求めている。 【知・技】(ノート)</p> <p>百分率や歩合の表し方を理解し、適切に求めている。 【知・技】(ノート)</p> <p>身の回りのものから割合で表したいものを見付け、求めている。 【態度】(発言・ノート)</p>

二	比較量の求め方を考える。(2)	(もとにする量) × (割合) で、比べられる量が求められるね。	単位量あたりの大きさの考え方を基に、比較量の求め方を考えている。 【思・判・表】(発言・ノート) 割合を1から増やしたり減らしたりした場合の比較量の求め方を考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)
	基準量の求め方を考える。(1) (本時 1 1 / 1 5)	(比べられる量) ÷ (割合) で、もとにする量が求められるね。	単位量あたりの大きさの考え方を基に、基準量の求め方を考えている。 【思・判・表】(発言・ノート)
	割合を帯グラフや円グラフに表す。(1)	割合を帯グラフや円グラフで表すと分かりやすいね。	(比べられる量) ÷ (もとにする量) で割合を求め、帯グラフ・円グラフに表している。 【知・技】(ノート)
	<b>まとめ・創造・表現</b> 割合についての問題作りをし、解き合う。(1)	求めたい量によって、問題文や式が変わってくるよ。	求めたい量に合った問題を作ったり、作った問題を正しく立式し解いたりしている。 【知・技】(ノート)
三	<b>実行</b> <b>ふりかえり</b> 学習したことを使って、いろいろな問題を解決する。(2)	身の回りのいろいろなことは、割合を使って表したり大きさを求めたりできるね。	自分の学び方や学習・生活とのつながりについて、振り返っている。 【態度】(発言・ノート)

#### 4 本時の展開 (11 / 15)

##### (1) 本時の目標

単位量あたりの考え方をを使って、基準量を求める図や式の説明をすることができる。

##### (2) 観点別評価規準

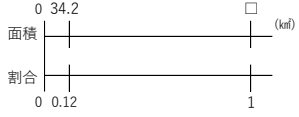
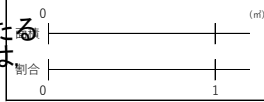
図を基にして、単位量あたりの大きさから基準量を求め、図や式の説明をしている。 【思・判・表】

##### (3) 適用題の設定理由

【A】では本時の理解を図ることをねらいとしており、【B】では、前時の比較量を求める時に出てきた「〇%引き」の考え方を活用し、基準量を求めることができるかを見取することで、今後の指導に生かす。

##### (4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出合い、見通しをもつ。	○ 比較量の求め方を振り返らせ、数量の関係やそれを表した図やグラフのイメージをつかませる。 尾道市の耕地面積は34.2km <sup>2</sup> で、尾道市全体の面積の12%にあたります。尾道市全体は何km <sup>2</sup> でしょうか。 ○ 基準量を求める問題であることを確かめ、比較量、割合、基準量の関係をつかませる。 ◆ ノートに数直線図をかかせ、問題解決の見通しをもたせる。	比べられる量は、もとにする量の何倍かで考えて求めることができたね。 知りたいのはもとになる量だ。
2 本時のめあてをつかむ。	もとにする量はどうすれば求められるだろう。	
3 自力解決をする。	○ 面積の求め方を式、図、数、言葉でノートにかかせる。 ◆ つまずきのある児童には、□を使った式を基に考えさせ、解決の手掛かりにさせる。	
4 全体で話し合う。	○ ペア・全体で尾道市全体の面積の求め方について、図を基に説明し合う場を設定することで、除法を用いて求めればよいことや式の意味を確かめられるようにする。 ◆ 基準量の求め方を全体で確かめた後、自分の考えをかけたノートを加筆・修正し、ペアで説明し合うことで、考え方や説明の仕方を	1%を求めて100倍すれば求められそう。 単位量あたりの大きさの考え方は使えるかな。

	<p>振り返ることができるようにする。  <b>【単位量あたりの大きさを使って考える】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>□km<sup>2</sup>を1としたとき0.12にあたる面積が34.2km<sup>2</sup>なので、□×0.12=34.2          □を求める式は、34.2÷0.12=285          だから285km<sup>2</sup>。</p> </div> 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>耕地面積は、尾道市の12%で34.2km<sup>2</sup>だから、34.2×0.12=4.104で、4.104km<sup>2</sup>じゃないかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>尾道市が耕地面積より小さくなっているのはおかしいよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>先生の考えは、比べられる量を求める式になっています。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>もとにする量は、(比べられる量)÷(割合)で求めることができます。</p> </div>
5	<p>まとめる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>もとにする量は、比べられる量 ÷ 割合 で求められる。</p> </div>	
6	<p>適用題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【A】</b> けんたさんの家では畑の一部を花畑にしています。花畑は60m<sup>2</sup>で畑全体の面積の20%にあたります。畑全体の面積は何m<sup>2</sup>でしょう。</p> <p>(説明)          ( )m<sup>2</sup>を1としたとき( )にあたる面積が( )m<sup>2</sup>なので、□を求める式は( )になります。</p> </div> 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○ 図を基にして、単位量あたりの大きさから基準量の求め方を考え、説明している。  <b>【思・判・表】</b>(ワークシート)</p> </div>
7	<p>振り返る。</p> <p>○ どうすればもとにする量の求め方が分かったかノートに書かせることで、学び方について振り返らせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>比べられる量ともとにする量の関係が分かればいいね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>図を使えば、求め方が分かりやすくなるね。</p> </div>

## 速さを比べよう

### 6年 速さ

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

#### 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年の「C 変化と関係」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- C (2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (イ) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

#### (1) 単元観

本単元では、速さの意味を知り、その表し方や求め方を理解することや、速さ、かかった時間、進んだ道のりの3つの数量の関係を理解することをねらいとする。

第5学年では、異種の二つの量の割合について、部屋の混み具合や仕事率などを取り上げて指導している。第6学年では、異種の二つの量の割合である速さについて指導する。速さについては、児童は日常生活において、人の走る速さや乗り物が移動する速さなどを、速い、遅いなどと表現して捉える経験をしてきている。速さを量として表すには、移動する長さ、移動にかかる時間という二つの量が必要になる。速さは、単位時間あたりに移動する長さとして捉えると、 $(速さ) = (長さ) \div (時間)$  として表すことができる。また、速さと時間から長さを求めることもできるし、長さから速さを求めることもできる。実際の場面と結び付けるなどして、生活や学習に活用できるようにしていきたい。

#### (2) 児童観

##### 学級の実態

本学級の児童の全国学力・学習状況調査算数の正答率は、84% (全国 66.6%) であった。単位量あたりの増減を判断し、その理由を記述する問題の正答率は 73.2%、除法の式の意味を理解する問題の正答率は 63.4% と課題が見られた。このことから、単位量あたりの大きさに着目しながら式や言葉で説明したり、式の意味を理解したりすることに課題があると考える。

どの児童も主体的に学習に参加しているが、2割の児童が個人で課題を解決していく力が十分定着しているとは言えない。

##### 個へのアプローチ

速さは目に見えないため、具体的なイメージをもつことが難しく、問題解決に時間がかかる児童がいると想定される。

#### (3) 指導観

本単元は、遠足の行程表を見せ、どうやって到着時刻を決めているのか、話し合わせるところから単元をスタートさせる。単元の終わりには、日常場面の問題を解かせ、算数の学習を進んで問題解決に活用しようとする態度を育てていきたい。

本単元は、条件に合わせて問題を解いたり説明したりすることができるようにするために、大量の情報の中から問題解決に必要な情報を選択し、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決することができるような日常場面の問題を設定する。また、数直線図を使って式の意味について考える活動を取り入れる。

自分の歩く速さを調べる活動や数直線図を活用した児童同士の対話の設定などにより、速さを具体的に実感させながら、学習を進めていく。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 単位量あたりの考えを基に、速さなどを求めたり、速さの表し方を理解したりする。 (知識及び技能)
- 速さを求めるときに、単位量あたりの考えを用いて考える。 (思考力、表現力、判断力等)
- 速さを求めるときに、単位量あたりの考えを用いたり、生活や学習に活用したりしようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

## 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>単位量あたりの考えを基に、速さなどを求めている。</p> <p>単位量あたりの考えを基にした速さの表し方を理解している。</p>	<p>速さを求めるときに、単位量あたりの考えや道のりと時間が比例関係にあることなどを基に、数直線や図、式を用いて考えている。</p>	<p>速さを求めるときに、単位量あたりの考えを用いて数値化したり、具体的な場面と結びつけて生活や学習に活用したりしようとしている。</p>

## 3 指導計画（全8時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準（評価方法）
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>遠足の行程表は、どうやって到着時刻を決めているのかな。</p> <p>【本質的な問い】速さや時間、道のりは、どうすれば求めることができるのだろう。</p>	<p>速さを求めるときに、単位量あたりの考えや道のりと時間が比例関係にあることなどを基に、数直線や図、式を用いて考えている。</p>	<p>速さを比べるために単位量あたりの考えを用いている</p> <p>【思・判・表】（プリント）</p> <p>速さは、単位時間あたりに進む道のりで表されることを理解している。</p> <p>【知・技】（ノート）</p>
	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>4人の子どもの走る速さを調べ、その比べ方を考える。(1) (本時1/8)</p> <p>時速、分速、秒速について知り、公式を適用して速さを比べる。(1)</p> <p>同じ速さのものを、時速や分速や秒速で表す。(1)</p> <p>100mをどのくらいで速さで歩くのかを実際に調べてみる。(1)</p> <p>図や表に表して、道のりや時間を考える。(1)</p>	<p>1秒間あたりに走る道のりや1mあたりに走るのにかかる時間で比べたらいいね。</p> <p>時速は1時間あたり、分速は1分間あたり、秒速は1秒間あたりに進む道のりを表しているんだね。30分は<math>\frac{1}{2}</math>時間と表すこともできるね。</p> <p>60をかけたり割ったりすれば、時速や分速、秒速に直すことができるんだね。</p> <p>歩く速さは、秒速1.3mだ。分速74mだ。(道のり) ÷ (時間) で、歩く速さを調べることができるね。</p> <p>道のりは、(速さ) × (時間)、時間は、(道のり) ÷ (速さ) で求めることができるね。</p>	<p>時速、分速、秒速の相互の変換をしている。</p> <p>【知・技】（ノート）</p> <p>実際に測定して、時速、分速、秒速を求めている。</p> <p>【知・技】（ノート、行動観察）</p> <p>速さと時間が分かっている場合の道のりや、速さと道のりが分かっている場合の時間を求めている。</p> <p>【知・技】（ノート）</p>
二	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>提示された条件について、速さを適用して考える。(1)</p> <p>練習問題を通して、既習事項の理解を深める。(1)</p> <p>力だめしの問題を通して、既習事項の確かめをする。(1)</p>	<p>(道のり) ÷ (速さ) を使って時間を求めることができた。数直線図に表すと、分かりやすいな。</p> <p>速さの考えを使えば、目的地への到着時刻を調べたり、道のりを調べたりすることができる。</p>	<p>速さの考えを、問題を解決に活用している。</p> <p>【思・判・表】（ノート、行動観察）</p> <p>速さと時間が分かっている場合の道のりや、速さと道のりが分かっている場合に時間を求めている。</p> <p>【知・技】（ノート）</p> <p>速さを求めるときに、具体的な場面と結びつけて、生活や学習に活用しようとしている。</p> <p>【態度】（ノート、行動観察）</p>

#### 4 本時の展開 (1/8)

##### (1) 本時の目標

速さを比べるために単位量あたりの考えを用いることができる。

##### (2) 観点別評価規準

速さを比べるために単位量あたりの考えを用いている。

【思・判・表】

##### (3) 適用題の設定理由

数値を変えた場合でも、速さを求めることができるかを見るとともに、自力解決できなかった児童のつまづきの原因を分析し、今後の指導に生かす。

##### (4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応																																								
1 速さのイメージをつかむ。(2分)	○ 動画を見せ、目に見えない速さのイメージをつかませる。	「速さ」がどういうものか分かった。																																								
2 問題に出会う。(8分)	<table border="1" data-bbox="386 734 782 907"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>道のり(m)</th> <th>時間(秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あつし</td> <td>50</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>かず子</td> <td>50</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>さとし</td> <td>54</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>たまみ</td> <td>60</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ 表を見てすぐに比べることができる人を問うことで、道のりが同じ人同士や時間が同じ人同士は速さを比べることができることに気付かせる。</p> <p>○ ペアで話し合わせることで、自分の考えをもてるようにする。</p> <p>○ 道のりも時間も違う人同士はどうしたら速さを比べることができるかに意識を焦点化させていく。そして、5年生の時の学習のように単位量あたりの大きさを求めて比べればよいという見通しをもたせる。</p>	名前	道のり(m)	時間(秒)	あつし	50	8	かず子	50	10	さとし	54	12	たまみ	60	12	<p>走った道のりが同じ人同士なら比べられるよ。誰が一番速</p> <p>それだったら、あつしさんとかず子さんは50m走るのにかかった時間を比べればいいね。かかった時間が短い人が速いよ。</p> <p>5年生の単位量あたりの大きさの学習のように、大きさをそろえてから、速さを比べればよいと思う。</p>																									
名前	道のり(m)	時間(秒)																																								
あつし	50	8																																								
かず子	50	10																																								
さとし	54	12																																								
たまみ	60	12																																								
3 本時のめあてをつかむ。(2分)	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">単位量あたりの大きさを求めて、速さを比べよう。</p> <p>◆ 「1秒あたりに何m走ったか」と「1mあたりに何秒かかったか」という比べ方があるということに気付かせる。</p>	<p>ぼくは1秒あたりに何m走ったかの方が考えやすそうだ。</p>																																								
4 自力解決をする。(8分)	<p>○ まずは、あつしとたまみに絞って比べさせる。</p> <p>◆ 説明が困難な児童が多い場合は、自力解決を早めに切り上げる。</p> <p>○ 見通し場面で出た意見を基に自力解決に取り組ませる。</p> <p>◆ 計算だけで説明を終わらせず、どちらが速いのか結論まで書けているかを確認する。</p>	<p>ぼくは、1秒あたり何m走ったかを考えたよ。 あつし→<math>50 \div 8 = 6.25</math> たまみ→<math>60 \div 12 = 5</math> 1秒あたり6.25m走ったあつしの方が速いね。</p>																																								
5 全体で話し合う。(10分)	<p>○ 説明を数直線図と結び付けて説明できるように、全体で確認する時間を確保する。</p> <div data-bbox="510 1814 981 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">x</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: right;">50</td> <td style="width: 5%;"></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 5px;">道のり</td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="text-align: right;">(m)</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 5px;">時間</td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="text-align: right;">(秒)</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;">1</td> <td style="border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;">8</td> <td></td> </tr> </table> </div>		x							50		道のり									(m)	時間									(秒)		1							8		<p>わたしは、1mあたり何秒かかったかを考えてみたよ。 あつし→<math>8 \div 50 = 0.16</math> たまみ→<math>12 \div 60 = 0.2</math> 1mあたり0.16秒だったあつしの方が速いね。</p> <p>50が8にあたる数だ。1にあたる数を求めようとしているね。</p>
	x							50																																		
道のり									(m)																																	
時間									(秒)																																	
	1							8																																		

<p>6  まとめと振り返りをする。(5分)</p> <p>7  適用問題を解く。(10分)</p>	<p>◆ わり算の意味を一人一人が数直線図で説明できるかを確認する。また、数直線図を活用することで、1秒では〇m、2秒では〇m進むなどというイメージをつかませたい。</p> <p>◆ 1秒あたりよく進んだ方が速いことや1mあたりかかった時間が少ない方が速いことを確認する。</p> <p>○ 本時の学習で分かったことを自分の言葉でまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【A】 かず子さんとさとしさんでは、どちらが速いでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【B】 30秒で5m進むトカゲと40秒で8m進むトカゲとでは、どちらが速いでしょうか。</p> <p>・ <math>30 \div 5 = 6</math></p> <p>・ <math>40 \div 8 = 5</math>                      答え 30秒で5m進むトカゲ</p> <p>この考え方は正しいでしょうか。それとも正しくないでしょうか。自分の考えを図、式、言葉などを用いて説明しましょう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>1秒あたりを求めるには、50mを8等分するといひね。そうすると、<math>50 \div 8 = 6.25</math>で1秒あたりが6.25mで2秒だと12.5m、3秒だと…図の中にわり算が見えた!</p> </div> <p>○ 速さを比べるために単位量あたりの考えを用いている。</p> <p>【思・判・表】(プリント)</p>
--	---	--



## 未来へ受け継ごう 尾道の祭り 3年 尾道の祭り

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力 主体性・積極性 尾道市民としてのアイデンティティ

### 1 単元について

○ 本校における総合的な学習の時間の目標及び本単元で育てたい資質・能力は以下の通りである。

郷土を素材とした活動や体験を通して、課題を自ら見出し、仲間と協力して探究活動に取り組む態度を育てるとともに、郷土への愛着を深め、郷土のよさを守ろうとする態度を育てる。本単元では、思考力、判断力、表現力等（課題発見・解決力）、主体的に学習に取り組む態度（主体性・積極性、尾道市民としてのアイデンティティ）の資質・能力を育てる。

#### (1) 単元観

本単元においては、地域貢献を図る探究的な学習を行うことを通して、地域の祭りに関する問題を取り上げ、児童自ら課題を発見し、解決方法を考えて実行することで、児童の思考力、判断力、表現力等（課題発見・解決力）と、主体的に学習に取り組む態度（主体性・積極性、尾道市民としてのアイデンティティ）を育てることをねらいとしている。

本教材は、尾道の祭りを調べていくことで、祭りには名前の由来や意味があること、地域の人々の祭りに対する願いや努力や工夫があることを知ることができる。そのことで、地域のすばらしさや、人々のあたたかさを感じ、郷土に対する愛着が深まる教材である。また、問題点や課題を知り、考えていくことで「地域の役に立ちたい」という尾道市民としてのアイデンティティを高めることができる。また、カリキュラム・マネジメントの視点から、国語科の「ほけんだよりを読み比べよう」の学習との関連を図り、「事柄の取り上げ方や説明の仕方を工夫して書く」という目的意識をもって、調べたことをまとめる活動をすることで、効果的に学習を進め、本校のめざす資質・能力の育成を図ることができる教材である。

#### (2) 児童観

##### 課題発見・解決学習の実態

質問紙調査※の結果、以下の実態が見られた。

課題設定では、「自分で課題を決めている」と答えた児童は、78%であった。課題設定が苦手な児童の中には、「何を調べていけばいいかわからない。」と答えており、児童自身に問題意識が高まっておらず、解決したいという思いがもてていない。

整理・分析では、これまでの学習で表やグラフにまとめていることもあり、75%の児童が肯定的に答えている。しかし、まとめ・表現をするに当たって、整理・分析の段階で、目的意識や相手意識をもって、調べたことの中から適切な情報は何かを分析することができていない。そのため、表現の段階で、調べたことをそのまま活用する児童が多い。

まとめでは、目的意識や相手意識をもってまとめることに課題があるため、できた物を推敲したり、改善したりすることに課題がある。また、単元を通して身に付いた力や、本時で自分にどんな力が付いたかを振り返る力が十分とは言えない。

※基礎・基本定着状況調査児童質問紙No13～27

#### (3) 指導観

本単元の課題発見・解決学習では、特に以下の点を重点に取り組む。

課題設定では、尾道の祭りの名前の由来や年代などを調べるために、インターネットやインタビューを通じて、学習材に対する児童の興味・関心を高める。また、情報収集や整理・分析した後、課題設定をすることで試行錯誤を繰り返しながら、問題意識を高めていきたい。

整理・分析では、尾道の祭りの魅力を知ってもらい、祭りに参加したり、受け継ぐ人を増やしたりしたいという目的意識や相手意識をもっておたより等にかかせるようにする。そのために、国語科と関連させたり、尾道新聞の方から目的や意図をもった書き方の工夫を聞いたりする。表現では、評価を基に、試行錯誤させながら、目的意識や相手意識をもって書くことの必要性を実感させるとともに、効果的な書き方を習得させ、表現力を高めるために、一度だけでなく何度か書き直させる。

まとめでは、コンピテンシー表を用いて資質・能力について振り返らせたり今後の目標を自己決定させたりして、自己評価する力の向上を図る。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 地域の祭りには、それぞれ名前の由来、歴史、役割や特徴があることを知る。(知識及び技能)
- 探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら解決方法を考え、目的意識をもって情報収集、整理・分析、自己評価するなど、問題を解決する方法を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- 地域の祭りに関する問題の解決方法を考えることを通して、地域の役に立ちたいという思いをもって、主体的、協同的に課題を解決したり、自己の生き方を考えて実践したりしようとする。(意欲・態度)
- 地域の祭りに関する問題の解決に向けて解決方法を創造し実行することで、地域の一員としての自覚をもち、尾道の歴史や地域の人々の生き方を大切にす。(価値観・倫理観)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度	
			意欲・態度 (主体性・積極性)	価値観・倫理観 (尾道市民としてのアイデンティティ)
評価規準	<p>地域には様々な由来をもつ祭りが多くあり、その祭りには歴史や役割があることなどを理解している。</p> <p>地域の祭りに関する問題や今後の課題について概要を知っている。</p>	<p>地域の祭りの問題に気付いて学習課題を設定している。</p> <p>様々な資料や聞き取りなどを活用して適切に情報を収集し、収集した情報を目的に応じて整理している。</p> <p>伝えたいことを中心に考えて表現し、自他の文章を比べながら聞いている。</p> <p>コンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。</p>	<p>地域の祭りに関する学習課題に対して関心をもち、進んで学習計画を立てている。</p> <p>地域の祭りの問題解決のために進んでアイデアを創造し、取り組もうとしている。</p> <p>他の人の意見も取り入れて文章の改善案を考えている。</p> <p>これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。</p>	<p>地域の祭りを残していきたいという地域の人々の願いを大切にしている。</p> <p>地域の一員として地域の歴史の伝承に貢献することの意義や素晴らしさを感じている。</p>

#### 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元においては、地域の祭りに関する問題を題材として取り上げ、地域に住まれている人々との関わりを通して地域の祭りに関する問題に気づき、解決方法を創造して実行する活動を中心とした単元を構成することで、児童の主体的な課題発見・解決学習を支援する。これらのことを通して、地域の祭りに関する現状と人々の願いについての理解(知識)を深め、情報収集や整理・分析、振り返りなどを繰り返しながら探究活動に慣れることで課題発見・解決力(思考力、判断力、表現力等)を育成する。また、地域のために役に立ちたいという思いを抱かせることで主体的に学習に取り組む態度(課題解決への主体性・積極性や尾道市民としてのアイデンティティ)を育成する。

4 指導計画 (全30時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)	教科の課題 発見・解決学習
	<p><b>課題の設定</b></p> <p>尾道の祭りについて知っていることを出し合い、関心をもつ。(1)</p> <p>祭りのビデオを見て、分かったことや疑問に思ったことを出し合う。(1)</p>	<p>「尾道みなと祭」「尾道住吉花火祭り」「水尾町の水祭り」「祇園祭り」「ベッチャー祭り」があるよ。</p> <p>いつやるか、どんな様子かは知っているけど、分からないことがたくさんあるな。もっと知りたいな。調べてみたいな。</p>	<p>地域の祭りに関して関心をもっている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p> <p>地域の祭りに関して分からないことや疑問に思ったことをたくさん見付けている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>	
<p>尾道の祭りは、いつから、なんのために行われているのだろう。</p>				
	<p><b>情報の収集</b></p> <p>尾道の祭りについて、インターネットで調べたり、地域の人や祭りの関係者にインタビューしたりして調べる。(7)</p>	<p><b>整理・分析</b></p> <p>尾道には、自分がよく知らなかった祭りがたくさんあるな。それぞれの祭りには意味があって、歴史があって、地域の人たちが大切に守ってきたんだな。</p> <p>祭を受け継ぐ人が少ないのなら、どうにかしないと祭りがなくなっちゃうな。</p>	<p>地域の祭りについて、様々な資料や聞き取りなどを活用して適切に情報を収集している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p> <p>地域には様々な由来をもつ祭りが多くあり、その祭りには歴史や役割があることなどを理解している。【知識及び技能】(ワークシート)</p> <p>地域の祭りに関する問題や今後の課題について概要を知っている。【知識及び技能】(ワークシート)</p>	
<p>尾道の祭を受け継ぐために、自分達には何ができるのだろうか。</p>				
	<p><b>課題の設定</b></p> <p>調べたりインタビューしたりしたことをこれからどうしていきたいかを考える。(2)</p>	<p>お祭りにそんな意味や人々の願いが込められているとは考えていなかった。もっと祭りのよさや地域の人々の願いをいろいろな人に知ってもらいたいな。おたよりを作って、いろいろな人に知ってもらおう。</p>	<p>地域の祭りの問題に気付いて学習課題を設定している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p> <p>地域の祭りの問題解決のために進んで自分の考えを出し、取り組もうとしている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>	
	<p><b>整理・分析・表現</b></p> <p>調べて分かったことをおたより等でまとめる。(5)</p> <p>ベッチャー祭りについてまとめたものを、駅や市役所においてもらう。(1)</p>	<p>いろいろな人に祭りに興味をもってもらったり、受け継ぐ人を増やしたりするためには、どんなことを書いていったらよいかな。</p> <p>「いつから始まったか」は、書かないといけないな。</p> <p>「どんなことをする祭りなのか」を紹介しよう。</p> <p>「お祭りの見所」は入れたいな。</p> <p>祭りに関わる方々の願いや思いも書き加えよう。</p>	<p>収集した情報を目的に応じて整理している。【主体性・積極性】(おたより等)</p>	<p>国語科 『ほけんだより』を読みくらべよう」でことごらの取り上げ方や説明の仕方を工夫して書く。</p>

<p><b>課題の設定</b></p> <p>ベッチャー祭りについて書いたおたより等についてのアンケートの結果から、課題を考える。</p> <p>尾道新聞の方に来ていただき、文章の意図を伝えるために大切なことは何かについてのお話を聞く。(2)</p> <p>自分の書いた文章や友達の文章を読み返し、目的意識をもった文章を書くために、どうしたらよいか考え、学習課題を設定する。(2)</p>	<p>具体的に書いた方が分かりやすいんだな。</p> <p>字の大きさや書く順序も大切なんだな。</p>	<p>おたより等の書き方についての問題に気付いて学習課題を設定している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p> <p>おたより等の書き方についての問題解決のために進んで自分の考えを出し、取り組もうとしている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>	
<p>相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、表現するためには、どのように書くとよいのだろうか。</p>			
<p><b>整理・分析・表現</b></p> <p>学習課題を基に、自分の文章を修正する。(2)</p> <p>グループで、お互いの文章を読み合い、アドバイスし合う。(1)</p> <p>(本時24/30)</p> <p>文章を仕上げる。(2)</p> <p><b>まとめ</b></p> <p>グループでお互いの文章を読み合い、よかったことを話し合う。(1)</p> <p>自分の文章でがんばったことを振り返る。(1)</p> <p>学習を通じて、分かったことや、学んだことを振り返る。(1)</p> <p>これから、自分たちがどのように祭りに関わるのかや、尾道の一員としての自分の生き方を考える。(1)</p>	<p>ちょっとこの文章だと、祭りの楽しさが伝わらないな。</p> <p>祭りの写真は、これじゃない方がいいんじゃないかな。写真や絵をどんなものにするのか考え直してみよう。</p> <p>レイアウトを考え直してみよう。</p> <p>この書き方なら、祭りのよさが伝わったり、祭りを受け継ぎたい人が出てきたりするね。</p> <p>目的意識をもって、意図的に文章を書くことが大切だな。</p> <p>尾道の祭りのすばらしさや、祭りに関わる地域の方々の思いが分かり、改めて尾道のすばらしさを感じることができました。尾道が大好きになりました。</p> <p>これからも、祭りに参加しよう。他の県のいここにも教えてあげよう。</p> <p>全国の他の祭りも調べて、比べてみたいな。</p> <p>祭りを守るためにいろいろな人が努力していることを知り、素晴らしいことだと思ったよ。自分も尾道の地域の一員として、地域のためになることを考えて、できることを進んでやっていきたいな。</p>	<p>他の人の意見も取り入れて文章の改善案を考えている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p> <p>地域の祭りを残していきたいという地域の人々の願いを大切にしている。【尾道市民としてのアイデンティティ】(ワークシート)</p> <p>地域の一員として地域の歴史の伝承に貢献することの意義や素晴らしさを感じている。【尾道市民としてのアイデンティティ】(ワークシート)</p> <p>これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。【尾道市民としてのアイデンティティ】(ワークシート)</p>	

## 5 本時の展開 (24/30)

### (1) 本時の目標

目的意識や相手意識をもって、おたより等の内容の改善策を考えることができる。

### (2) 観点別評価規準

他の人の意見も取り入れて文章の改善案を考えている。

【主体性・積極性】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 これまでの学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習を振り返らせる。(試しにおたより等を作ってみたが、お祭りに行ってみたいと思ってもらえていない。)</li> <li>○ アンケート結果を集計したものを提示し、全体で行ってみたいと思わなかった数を表にして実感させる。</li> <li>○ 林良司さん(尾道新聞)から、目的意識、相手意識のある書き方をしているかどうかについて、アドバイスして頂いたことを、キーワードで提示し、今日の改善の方向性をもたせる。</li> </ul>	<p>このままでは、地元の人や観光客に祭りに行ってみたいと思ってもらえない。どうすればいいのかを話し合えばいい。</p>
2 めあてを設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時で何を学ぶのか全体で確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お祭りを受け継ぐ人を増やしたり、お祭りに参加したい人を増やしたりするためには、どんな書き方をしたらいいのかな。</p> </div>	<p>どうすれば祭りを受け継ぐ人が増えるかな。今のままの書き方では、伝わらない。書き方を変えていかなければいけない。</p>
3 見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 本時でどんな力を付けたいかコンピテンシー表を見て確認させる。</li> <li>○ どのように学習を進めていくのか、学習方法を児童と考える。</li> </ul>	<p>祭りを受け継ぎたいと思う人を増やすには、祭りのやりがいについて、もっと具体的に書いた方がいいな。</p>
4 問題点を見付け、改善点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地元の人や観光客から集めたアンケートや林さんのアドバイスのキーワードを基に、問題点を見付けさせる。</li> <li>○ 地元の人と観光客の意見を基に考えた改善点は黄色の付箋、林さんのアドバイスを基に考えた改善点は赤の付箋に分けて書かせ、整理させる。</li> </ul>	<p>祭りに参加したい人を増やすには、もっと楽しさを書かないとな。</p>
5 話し合ったことを全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各グループの祭りを受け継ぎたいと思わなかった原因を交流し、共通点や相違点を発表させる。</li> <li>○ アドバイスをもらった改善案から、自分がやろうと思うことを発表する。</li> </ul>	<p>他の人の意見も取り入れて文章の改善案を考えている。 【主体性・積極性】</p>
6 まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 改善案を実行するために、これから何をしていかななくてはならないかを考える。</li> <li>○ これからの学習について発表させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お祭りを受け継いでいくために、おたより等を書き直したり付け加えたりして、もう一度作り直す。もう一度祭りについて調べたりインタビューし直したりする。</p> </div>	<p>今すぐには解決できない問題もあるな。もう一度、調査が必要だ。</p>
7 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合ったことを基に、自分たちのグループが行う表現方法を決める。</li> <li>○ 今日の授業でどんな力が付いたか、考えの変容などをコンピテンシー表に書かせる。</li> </ul>	<p>今日は、実際に地元の人や観光客が書いた物を見たり林さんのアドバイスを聞いたりして、祭りに行ってもらったり参加してもらったりするためには、もっと伝える相手の思いを知ること、目的を達成するために、レイアウトや書く順番内容など、表現の仕方を工夫することが大切であることに気付きました。そのためにも調べ直したりインタビューし直したりします。</p>

## 「買い物学習」へ GO!

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力

## 1 児童観

本学級は、6年男子1名の知的障害特別支援学級である。

## 資質・能力に関する実態

本学級の児童は今年度より在籍する児童である。静かで落ち着いて学習に取り組んでいる反面、日常生活の中で人に接する機会が少なく、社会性やコミュニケーション能力の広がりには課題がある。語彙は知識として覚えているが、実際の場面での活用が難しい。自分の興味・関心のあることは進んで説明できるが、一度決めたことに対しては、こだわりの強さから人の意見を聞き入れたり変更したりすることが難しい。

これまでの学習の中では、時間や時刻との違いを明確に説明することができ、長さの単位については、ほぼ理解できている。しかし、自信のないことに対しては慎重になり、2位数3位数の足し算や引き算の基礎となる繰り上がり・繰り下がりの計算に時間がかかる。また、掛け算も順番に唱えることはできるが、ランダムな問題が出ると、時間がかかる。その他の場面においても、間違えることを意識して、緊張のあまり、肩が上がり、瞬きが速くなったりする。そのため、児童が見通しをもって安心して学習に取り組み、達成感や自己有用感を積み重ね、自信につながるような場の設定が必要である。

## 2 単元について

## (1) 単元観

本単元では、本校の特別支援学級3学級合同で開催するお楽しみ会の開催に向けて、必要な準備物を考えて買い物に行く設定で単元を構成している。対象や目的が明確で見通しがもちやすいため、児童にとって取り組みやすい内容である。また、実際に買い物学習を実施する前に模擬買い物学習も行う。その中で店員、客の両方の立場の経験を通してコミュニケーションの力を育てたり、品物に見合った代金を支払う経験を通して金銭感覚を身に付けたりすることを通して、社会的スキルや日常生活に必要なスキルの向上が期待できると考える。そして、最後に買い物学習を実施することで、児童が目的意識をもって、積み重ねてきた学習の成果を実際の生活場面で発揮することができ、成功経験を積み重ねることができると考える。

## (2) 指導観

第一次では、昨年度経験した買い物学習やお楽しみ会をしたことを思い出させ、たんぼぼ学級が主になってお楽しみ会を開催させるために、全体計画を立てることができるようにする。また、新聞広告を使って資料を集め、どんな店があるか、どの店の何が安いかなどを調べて比較することができるようにする。

第二次では、模擬買い物の計画を立て、自分の予想していた値段と一般的な値段の相違に気付かせる。また、買い物に行ったとき、お店の人とどんなコミュニケーションをとり、代金を支払って必要な物を買うことができるのかなどを考えさせたい。

第三次では、お楽しみ会に必要な材料を買い物に行く経験をする。行った経験を元に、絵や文にまとめ、他の特別支援学級の友達に発表することで達成感と自信をつけさせたい。

本単元を通して、生活経験を広げるためにも、人とのかかわりを大切に、店員とのやりとりをしながら、その他の日常生活の場面においても応用できる力を付けたい。さらに、この単元を通して、自分一人でも買い物ができるという自信をもたせたい。

**(3) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

- お楽しみ会に向けて、主になって計画を立て必要な物を準備することができる。(主体的学習に取り組む態度)
- 買い物に出かけ、その場に応じた会話をし、買い物をすることができる。(思考力・判断力・表現力)

**3 単元の評価規準**

- 学習の全体計画を立て、買い物をする目的を考えることができる。(主体的学習に取り組む態度)
- 買い物学習で、その場に応じた会話をし、品物に応じて代金を支払うことができる。(思考力・判断力・表現力)

**4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり**

本単元では、お金に関心を持ち、買い物学習によって自分から必要な物を買いたいという意欲をもたせ、品物に見合った代金を支払うことができることをねらいとしている。また、買い物をする側とお店側の両方の立場を経験しながら、言葉のやりとりを学び、日常生活においても挨拶や丁寧な言葉遣いなどができると考える。さらに、将来、社会生活を送るためにも、人とのかかわりをもつことで、生活経験を広げ必要なルールも身に付けてほしいと考える。

**5 指導計画 (全12時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>学習の見通しを立てる。 昨年度までの経験を思い出す。 全体計画を模造紙に表す。(2)</p>	<p>お楽しみ会をしたことあるな。 一学期は、さくら学級・すみれ学級と交流し、自己紹介やゲームをしたな。</p>	<p>お楽しみ会について意欲的に取り組もうとしている。 【態度】(行動観察)</p>
	<p><b>情報の収集</b></p> <p>新聞の広告を集める。 広告を選別する。 品物を集めて値段を付ける。(2)</p>	<p>どんな店があるのだろうか。 品物に値段を付けてシールを貼らなければ。 品物に値段を付けるのは難しいな。 「これ ください。」 「いくらですか。」「おねがいします。」 言うのは恥ずかしいな。</p>	<p>自分の知っている店について話すことができる。 品物に合った値段を付けている。 その場にあった会話をしている。 【思・判・表】(行動観察)</p>
二	<p><b>整理・分析</b></p> <p>学習用のお金を用意する。 教室にお店を設定する。 (3) (本時5/12)</p>	<p>どんな店にしようかな。 どんな値段にしたらいいかな。 お客さんにどんなことを言おうかな。</p>	<p>品物に見合った金額を考えて準備しようとしている。 その場にあった会話をしようとしている。 【思・判・表】(行動観察)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>買い物に出かける。(3)</p>	<p>バスに乗って買い物に行きたいな。 バスの乗り降りですんなりに気をつけたらよいのか考えよう。 お金を上手に払うことができるかな。 その場で会話ができるかな。 楽しく行けるといいな。</p>	<p>公共交通機関を使う際の注意点や、買い物に行く目的を考慮することができる。 【思・判・表】(行動観察)</p>
	<p><b>ふりかえり</b></p> <p>自分の目標が達成できたかふりかえる。(2)</p>	<p>自分の目標通り、買い物ができたかな。 楽しくできたかな。 買い物は楽しいな。 また、買い物に行きたいな。</p>	<p>お店の人と対話することができる。代金を支払うことができる。 【思・判・表】(行動観察)</p> <p>自分の活動を振り返り、ワークシートに書き発表することができる。 【態度】 【思・判・表】(行動観察)</p>

## 6 本時の展開 (5/12時間)

### (1) 本時の目標

買い物をする側と店側の両方の立場での対話ができる。  
自分が必要な物を選ぶことができ、お金のやりとりができる。

### (2) 観点別評価規準

必要な物や、自分の欲しい物を選ぶことができる。 【思・判・表】  
買い物をする側と店側との立場に応じた対応をとることができる。 【思・判・表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆) 予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
<p>1 ウォーミングアップを行う。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p> <p>3 対話の仕方を考える。</p> <p>4 買い物をする。買い物をする側とお店側を決める。(交代する。)</p> <p>5 まとめと振り返りをする。</p>	<p>○ 学習用のお金を使って、両替の仕方を考えさせる。</p> <p>◆ 100円玉を両替したら、50円玉が2枚、10円が10枚、1円は?など</p> <p style="text-align: center;">両替は簡単だったな。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">買い物をするとき、お店の人との対話の仕方を考えよう。</p> <p>○ 品物が見つからない場合や値段が分からない場合、レジでの支払いの仕方について考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">お金は足りるかな。</p> <p>◆ その場に応じた言葉が言えるように、繰り返し練習させる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">〇〇は、どこにありますか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">これいくらですか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">お願いします。</p> <p>○ 対話する時の相手の立場を考えさせ、丁寧に話すことができるようにする。</p> <p>◆ 困った時や分からないことは、相手に聞くことで伝わり、答えてもらうことで解決する練習を通して理解させ、自信をもつことができるようにする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">はずかしいけど、聞いてみよう。</p> <p>○ 買い物をする側とお店側の両方を体験させる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">おつりを間違えないように渡さなくちゃ。</p> <p>◆ 一学期に算数科でお金の計算の仕方を学んだことを想起させる。</p> <p>◆ 品物が2つ以上の場合、おつりを求める場合には、電卓を利用してよいことにする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">何から買おうかな。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">どっちが安いかな。</p> <p>◆ 接客の際に必要な言葉をいくつか提示し、選択させる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">お客様には、なんて声をかけよう。</p> <p>○ 自分の目標が達成できたか振り返る。</p> <p>◆ ワークシートで自己評価し、発表させる。</p> <p>◆ できたことを褒めることによって自己肯定感を高める。</p> <p>◆ 次回の予定を伝え、次の活動への意欲をもたせる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">         ・楽しかったな。          ・また、やりたいな。          ・早く買い物に行きたいな。       </p>	<p>必要な物を選んで、自分の欲しい物を選ぶことができる。</p> <p style="text-align: right;">【思・判・表】 (行動観察)</p> <p>買い物をする側と店側との立場を理解して、人と対応することができる。</p> <p style="text-align: right;">【思・判・表】 (行動観察)</p>



# 「聞いてQ！」 ～相手の話をよく聞こう～

本題材で育成する資質・能力

コミュニケーション

## 1 児童観

本学級は、5年男子1名、6年女子1名の計2名の自閉症・情緒障害特別支援学級である。

### 資質・能力に関する実態

本学級の児童は、これまでに自立活動や交流学級での活動を通して、友達との関わり方について学習を積み重ねてきているものの、経験が少ないことや課題に取り組んでできなかった経験などから不安を感じやすく、自己肯定感が低い傾向にある。そのため、校内電話で伝言を頼んだ際には、自分の名前を名乗らなかつたり、伝言内容が不十分になったりする。また、相手に順を追って自分の考えを説明したり、相手の意図を理解したりすることに苦手意識をもっているため、人と話し合うことに困難さを感じている。

個々の児童の様子は次の通りである。

A児 (5年)	自分が興味・関心をもっている事柄については、喜んで話したり、尋ねたりすることができ、話を聞くこともできる。しかし、相手の立場に立つことが難しいため、一方的な話になりやすく、自分にとって興味のない話をされると一方的に会話を止めてしまうことがある。好きな活動に対して意欲的に取り組むが、没頭すると、単独行動になる傾向もある。また、自分の思いを相手に分かりやすく整理し、順序立てて話すことが苦手なため、同学年とのコミュニケーションが取りにくい。
B児 (6年)	得意とすることは、積極的に取り組むことができるが、苦手とすることや自分には、できないと感じると、なかなか取り組むことが難しいことがある。交友関係は狭く、慣れ親しんだ関係にある人との間では、表情豊かに会話をすることができるが、大勢の中や環境の変化には、緊張と不安を感じやすく泣き出すことがあり、相手の態度や発言に異論があっても、その場では言えないこともあるが、担任や保護者を介することで思いを伝えることがある。

## 2 題材について

- 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の次の項目を受け、児童の実態をふまえて設定している。

### 2. 心理的な安定

- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (B児)

### 3. 人間関係の形成

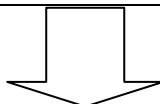
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (A児・B児)

### 6. コミュニケーション

- (2) 言語の受容と表出に関すること (A児)

### (1) 題材観

本題材では、コミュニケーションの基礎となる「相手の話を聞く」「自分の考えを話す」の力を身に付けることをねらいとする。実生活でも経験する可能性がある場面（電話連絡を受けたり、伝えたりする。）を設定することにより児童同士が関わり合うことやメモをとることに必然性をもたせ、必要に応じて聞き漏らしを確認することの重要性に気付かせていく。また、本題材では、留守電話を家族に代わって受け、家族に伝える活動を通して「相手に伝えたい」気持ちを育むことができると考える。



## (2) 指導観

本題材では、伝言を正しく聞き取ることや、自分の伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるためには、電話の受け方や情報の整理の仕方を身に付けることが大切である。伝言を受ける場合は、メモを取りながら伝言内容を確認することが重要になる。また、伝言をする場合は、相手が聞き取りやすい声の大きさや速さで話すことや要点を明確に伝えることが重要である。これらの重要性は児童に伝えるのではなく、なぜ重要なのかを考えさせたい。

まず、短期記憶は忘れやすいことを体験させた後、電話連絡の聞き手と話し手を経験させる。この活動を通して、メモを取る利点である「伝言を忘れないで済む」ことや「聞き漏らしがないか確認できる」ことがあることに気付かせる。また、メモを事前に書いておく利点として「相手に分かりやすく伝える」ことや「落ち着いて話す」ことができることにも気付かせる。

さらに、児童同士が関わり合うことを通して、自分の伝えたいことを理解してもらえらる喜びや相手の考えを受け止められた成就感を味わうことができ、自分の言葉で伝えることへの自信がコミュニケーションの資質・能力の向上を図ることにつながると考える。

## (3) 題材でめざす児童の姿

A児 (5年)	電話連絡を受ける時には、メモを取りながら話しを聞き、伝言をお願いする時には、相手がメモを取りやすい速さで話すことができる。
B児 (6年)	電話連絡を受ける時には、相手に内容を確認しながらメモを取り、伝言をお願いする時には、5W1Hを意識して相手に話すことができる。

## 3 題材の評価規準

A児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"><li>電話で聞き取った情報を書きとめ、伝言することができる。</li><li>電話で伝言をお願いする場合は、要点をまとめたメモを準備し、聞き取る相手のことを考えて、5W1Hごとにゆっくり話すことができる。</li></ul>
B児 (6年)	<ul style="list-style-type: none"><li>電話で聞き取ることができなかった内容は、相手に確認してメモを取り、伝言することができる。</li><li>電話で伝言をお願いする場合は、落ち着いて電話をかけ、5W1Hを書いたメモを見ながら、話すことができる。</li></ul>

## 4 本題材において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本題材では、電話で受けた内容を家族に伝えることを想定し、伝言内容を聞き取ったり、相手に伝言したりする活動を行う。これは、学校生活及び日常生活において必要とされる言葉表現によるコミュニケーションの力を身に付けることに繋がると考える。

5 指導計画 (全3時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一 電話連絡を受けよう	<p><b>課題の設定</b></p> <p>伝言ゲームをする。(1)</p> <p>電話連絡を受けるために必要なことを考える。</p>	<p>全部聞き取るためには、どんな工夫をすればいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを取ろう。</li> </ul> <p>どんなことを聞き取ったらいいんだろう。</p>	
	<p><b>【本質的な問い】</b> 上手な話し方や聞き方のコツは何だろう。</p>		
	<p><b>情報の収集</b></p> <p>5W1Hの情報を聞き取る。 (1) (本時2/3)</p>	<p>まず、メモを取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、どこ、誰、何、なぜ、どのように</li> </ul> <p>次に、聞き取れなかったことは、尋ねてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇をもう一度教えてください。</li> </ul> <p>最後に、聞き間違えていないか確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・△△でいいですか。</li> </ul>	<p>A児 電話で聞き取った情報を短い言葉で書きとめ、少しでも正確なことを伝言相手に話すことができる。 【コミュニケーション6-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 落ち着いて電話での情報を収集し、聞き取ることができなかった内容は、相手に尋ねてメモに書き残し、伝言相手に話すことができる。 【心理的な安定2-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p>
二 電話連絡をしよう	<p><b>整理・分析</b></p> <p>正確に伝言してもらうためには、どんな準備をすればよいか考える。 (1)</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>伝言する時や伝言をお願いする時は、どんなことを心がけることが大切か考える。</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>自分の目標が達成できたかふりかえる。</p>	<p>どんなあいさつをすれば良いだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もしもし、〇〇さんのお宅でしょうか。</li> <li>・私は、△△といます。</li> <li>・〇〇さんは、いますか。</li> <li>・伝言をお願いします。</li> </ul> <p>用件の伝え方はどうすればよいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hを落とさずに伝えよう。</li> <li>・はっきり、ゆっくりと話すようにしよう。</li> </ul> <p>5W1Hをメモに取り、相手に確認する。 相手が聞き取りやすいように、はっきり、ゆっくりと話すようにする。</p> <p>聞き逃さないようにメモを取りながら聞いた。 聞き逃しても勇気を出して相手に尋ねることができた。</p>	<p>A児 伝言をお願いする場合は、要点をまとめたメモを準備し、聞き取る相手がメモを書いたり、記憶したりすることを考えて、ゆっくり話すことができる。 【人間関係の形成3-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 伝言をお願いする場合は、落ち着いて電話をかけ、5W1Hを書いたメモを見ながら、話すことができる。 【人間関係の形成3-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p>

6 本時の展開 (2/3時間)

(1) 本時の目標

A児…電話連絡をメモを取りながら聞き取り、相手に伝えることができる。

【コミュニケーション6-(2)】

B児…落ち着いた電話連絡を受け、伝言内容を確認しながらメモを取ることができる。

【心理的な安定2-(2)】

(2) 観点別評価規準

A児…電話で聞き取った情報を短い言葉で書きとめ、少しでも正確なことを伝言相手に話そうとすることができる。

【コミュニケーション6-(2)】

B児…落ち着いた電話での情報を収集し、聞き取ることができなかった内容は、相手に尋ねてメモに書き残し、伝言相手に話すことができる。

【心理的な安定2-(2)】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆) 予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
<p>1 ウォーミングアップゲームを行う。 ・スリーヒントゲーム</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>○ 3つの情報を聞き取ることがポイントであることを伝える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">電話で聞いたことを忘れないようにしないと。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">きちんと聞き取れなかったらどうしよう。</div> </div> <p>○ 学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。 ◆ タイムスケジュールを示し、見通しをもたせる。</p>	
<p>家族に代わって電話を受けよう。</p>		
<p>3 自分のめあてを確認する。</p> <p>4 伝言の説明を聞く。</p> <p>5 電話を受ける。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>A児</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">電話連絡の内容を聞き取り、相手に伝える。</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>B児</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">電話連絡を確認しながら聞き取り、相手に伝える。</div> </div> </div> <p>○ 例を示した後、改善点を考えさせる。 ◆ 電話の受け方のどこに問題点があったのか、どんな対応をすべきだったのか挿絵を提示しながら、考えさせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">聞き取れなかったことをそのままにしているよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">情報が多すぎて覚えられない。</div> </div> <p>○ 必要な内容を忘れないようにするための工夫を考えさせる。 ◆ 5W1Hとメモをとることの大切さを確認する。</p> <p>○ 電話連絡を行う方と受ける方は、交代で行う。 ◆ 連絡内容は、5W1Hだけのものと文章化したものから選択させる。 ◆ メモは、罫線だけのものとあらかじめ5W1Hの項目を書いたものから選択させる。 ◆ 聞き取れなかったことや分からないことは、勇気を出して相手に確認することが大切であることを助言する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">「〇〇をもう一度教えてください。」とお願いすればいいんだ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">「集合場所は、△△でいいですか。」と確認しよう。</div> </div> <p>◆ メモを丁寧に書き取ろうとするB児には、メモは通話の後、別のメモ用紙に丁寧に書き直せばよいと助言する。</p> <p>○ 連絡内容を確認する。 ◆ 聞き取った情報は、担当が肯定的評価をする。</p>	<p>A児</p> <p>○ 電話で聞き取った情報を短い言葉で書きとめ、少しでも正確なことを伝言相手に話そうとすることができる。</p> <p>【コミュニケーション6-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>B児</p> <p>○ 落ち着いた電話での情報を収集し、聞き取ることができなかった内容は、相手に尋ねてメモに書き残し、伝言相手に話すことができる。</p> <p>【心理的な安定2-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p>

<p>6 まとめと振り返りをする。</p>	<p>○ 自分の目標が達成できたか振り返る。</p> <p>◆ 児童の自己評価に加え相互評価を発表させることで、満足感をもたせる。</p> <p>・電話で聞いたことをメモするのは難しかったけれど、なんとか伝えることができました。</p> <p>・分からなかったことや書き取れなかったことは、そのままにせず、確認することができました。</p>	
-----------------------	--	--

# 「気持ちのプレゼント」 ～「もちもちの木」の劇を成功させよう～

本題材で育成する資質・能力

表現力 コミュニケーション

## 1 児童観

本学級は、3年女子2名、5年女子2名の計3名の聴覚障害特別支援学級である。

### 資質・能力に関する実態

本学級の児童は、自分の気持ちを伝えることができるように努力を積み重ねてきた。学校生活にも慣れ、少しずつ自分の思いを言葉にすることができるようになった。しかし、自分の気持ちを伝えたいという気持ちが優先し、相手の気持ちを考えずに発言することや話し手の意図を十分理解しないまま、思い込みで話を展開することが、人との交流をもつ上での課題である。これまで様々な学習場面において、相手の気持ちを想像し、発言や行動を考える場面を設定した。学習したことを実生活の経験につなげられていないことから、実感が得られていないことが、本学級児童の実態であり課題とするところである。

個々の児童の様子及び聴力レベルは次の通りである。

	児童の様子	平均聴力レベル 着用閾値
A児 (3年)	性格は明るく、他者への関心が高い。友達への思いやりで「・・・したほうがいいよ。」「・・・すべきだよ。」と自分の考えを一方向的に押しつけてしまうことがある。	右 70.0 db
		18.8 db (補聴器)
		左 60.5 db
B児 (3年)	転入したことで、児童に大きな生活の変化があった。同学年や異学年の児童との関わりにおいて、自分が相手の気持ちを考えずに発言し、思い込みで行動してしまうことがある。	右 62.5 db
		37.5 db (補聴器)
		左 52.5 db
C児 (5年)	集団においては、ロジャーを使用して話を聞き、周りの様子を見て適切な行動ができている。しかし、話を関連づけて考えることが苦手なことから、誤解をして思い込みで行動することがある。	右 101 db
		46.5 db (補聴器)
		左 100 db
		23.8 db (人工内耳)

## 2 題材について

○ 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の次の項目を受け、児童の実態をふまえて設定している。

### 6. コミュニケーション

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること (A児)

### 3. 人間関係の形成

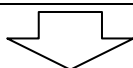
(4) 集団への参加の基礎に関すること (B児)

### 3. 人間関係の形成

(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (C児)

## (1) 題材観

本学級は補聴器や人工内耳で聴力を補い、授業数の半数以上を特別支援学級で過ごしている。しかし、3年・5年の複式学級で当該学年の学習を進めるにあたり、教科学習において相互の交流はないが、自立活動においては、学級内での異学年交流をもつことができている。その中で、2人よりも3人での児童同士の話合いの場面において、コミュニケーションに課題が見られた。本題材では、「もちもちの木」の劇を用いて、さくら学級・たんぼぼ学級の6年生の児童へそれぞれの気持ちを伝える。「6年生に喜んでもらいたい。」という思いをもとに、劇の練習に取り組み、誰かのために行動する喜びを経験し、実感させることをねらいとしている。本題材の表現活動を通して「誰かのために一歩踏み出す勇気」や「優しさがあれば、いざという時に行動できる」ことなどをメッセージとして届けさせたい。



## (2) 指導観

本学級の児童は、はじめての経験で状況を把握できないことに不安感を覚え、学習に意欲的に取り組むことができない。聴覚障害のある児童の場合、聞こえに課題があることから目の前の状況だけで判断しがちである。そのため、そこに至るまでの状況の推移についても振り返りながら順序立てて考えるなど、出来事の流れに基づいて、総合的に判断する経験が必要であるとされている。これまでの自立活動では、「なんのためにするのか」ということを明確に示し、目標とすることに価値を見いだすことができるように指導を心がけてきた。本題材では、3人での劇に初めて挑戦する。「何をするのか」「どうするのか」「なぜするのか」ということに見通しをもたせ、劇練習に取り組みさせる。卒業していく児童に喜んでもらったことが成功体験となり、学習をやり切ったことを自信とし、今後の力とさせたい。また、演技を3人で試行錯誤していく過程を経ることで友達と円滑に交流する力の向上を図っていききたい。

## (3) 題材でめざす児童の姿

A児 (3年)	6年生に喜んでもらうために友達の考えを聞いて、演技を工夫し取り組むことができる。 友達の気持ちを察したり、話合いを通して理解しようとしている。
B児 (3年)	友達の意見に耳を傾け、劇の成功に向けてその場に相応しい態度で練習に取り組むことができる。 友達の立場を考え、自ら進んで活動に参加しようとしている。
C児 (5年)	自分が伝えたいことを考え、劇を成功させようと積極的に取り組むことができる。 友達の為に行動することに充実感を味わい、その良さを理解することができる。

## 3 題材の評価規準

A児 (3年)	・友達の意見を参考に6年生の気持ちを考えながら、取り組むことができる。 ・わからない時には聞き返し、話を理解することができる。
B児 (3年)	・友達の意見を受け入れ、練習に取り組むことができる。 ・表現方法を工夫し、成功の為に努力することができる。
C児 (5年)	・6年生へ伝えたい思いを劇で伝える意味を理解し、取り組むことができる。 ・成功を目指して、適切な態度で取り組むことができる。

## 4 本題材において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本題材は卒業していく6年生への思いを伝える活動を通して、他者を思いやる心情及びコミュニケーションの力を育成しようとするものである。劇を通して、6年生への感謝の気持ちを伝えるという目標に向かって取り組む中で、誰かのために行動する喜びを経験させたい。また、練習をしていく過程において自分の考えを伝える力や友達の意見を聞いて行動する力を育成できると考える。

## 5 指導計画 (全14時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一 6年生のお別れ会を計画しよう	<p><b>課題の設定</b></p> <p>「もちもちの木」の劇を通して、6年生に喜んでもらうためにはどうしたらいいのかを考えお別れ会を計画する。(1)</p>	<p>なぜ、劇をするのかな。 どんな物語だったかな。 物語を読んでみよう。 物語から何を伝えようかな。 どんなふうに進めたらいいかな。</p> <p>たんぼぼ学級・さくら学級の6年生に喜んでもらえるように3人で演技を工夫しよう。</p> <p><b>【本質的な問い】6年生に喜んでもらおう。</b></p>	<p>A児 話の内容を聞いて、分からないときには質問することができる。 【コミュニケーション6-(5)】(行動観察)</p> <p>B児 先生や友達の話最後まで聞いて理解し、発言することができる。 【人間形成3-(4)】(行動観察)</p> <p>C児 友達が何を伝えたいのか考え、質問や確認をすることができる。 【人間形成3-(2)】(行動観察)</p>
二 劇に挑戦しよう	<p><b>情報の収集</b></p> <p>オペレッタ「もちもちの木」物語の人物や背景について考える。(1)</p> <p>物語のメッセージを考える。(1)</p> <p>自分たちが何を伝えたいのかを考える。(1)</p> <p>役割分担を考える。(1)</p> <p>劇練習をする。(3)</p>	<p>物語を読んで理解しないと劇ができないね。 豆太ってどんな子かな。 豆太の気持ちがわかるな。 暗い道はこわい。でも豆太はがんばったね。 臆病者なのに、おじいさんのために走ることができたんだね。 物語から伝えられることって何かかな。 初めてのことでドキドキするよね。 この場面では・・・してみよう。</p>	<p>A児 場や相手の状況を考えて演技をすることができる。 【コミュニケーション6-(5)】(行動観察)</p> <p>B児 場や相手の状況を考えて演技をすることができる。 【人間関係3-(4)】(行動観察)</p> <p>C児 友達の考えを聞いて、演技を工夫することができる。 【人間関係3-(2)】(行動観察)</p>
三 演技の工夫を考えよう	<p><b>整理・分析</b></p> <p>「豆太は見た」場面の演技を工夫する。(1)(本時9/14)</p> <p>「弱虫でもやさしけりゃ」の場面を完成させる。(1)</p> <p>劇の完成を目指す。(1)</p>	<p>映像を見てみ振り返ろう。 音楽があると演技しやすいかも。 動作を大きくすると盛り上がるかな。 風の音を入れたらいいね。 群読を練習しよう。</p> <p>次回はどこから練習しますか。</p> <p>たんぼぼ学級・さくら学級の友達に・・・が伝わったらいいな</p>	<p>A児 場面や友達の演技を考えて表現を工夫することができる。 【コミュニケーション6-(5)】(行動観察)</p> <p>B児 話を最後まで聞いて、それに対する質問や確認をしながら演技することができる。 【人間関係の形成3-(4)】(行動観察)</p> <p>C児 これまでの演技に対する意見を参考に演技することができる。 【人間関係の形成3-(2)】(行動観察)</p>
四 お別れ会をしよう	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>お別れ会の計画をする。(1)</p> <p>お別れ会をする。(1)</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>活動を振り返り、6年生への手紙を書く。(1)</p>	<p>劇を楽しんでくれるかな。 一番いい演技を見てもらおう。 大きな声で、はっきり聞こえるように演技をしよう。 音読劇のプレゼントは、どうだったかな。</p> <p>私たちの劇を喜んでくれたかな。</p>	<p>A児 6年生に喜んでもらうためにどうすればよいのかを考えて行動している。 【コミュニケーション6-(5)】(行動観察)</p> <p>B児 6年生に伝えるために適切な言葉や態度でお別れ会に参加できる。 【人間関係の形成3-(4)】(行動観察)</p> <p>C児 お別れ会で6年生が喜んでくれているか考えながら、お別れ会に参加できる。 【人間関係の形成3-(2)】(行動観察)</p>

## 6 本時の展開 (9/14)

### (1) 本時の目標

A児・・・自分と友達の考えの違いを認めながら、共通の目標に向けて自分の演技の方法を考えていく。

【コミュニケーション6-(5)】

B児・・・友達の考えに耳を傾け、6年生に思いが伝わるように演技を工夫することができる。

【人間関係の形成3-(4)】

C児・・・自分の伝えたいことや友達が何を考えているのかを理解して、行動することができる。

【人間関係の形成3-(2)】



(2) 観点別評価基準

A児・・・場面や友達の演技を考えて、表現を工夫することができる。

【コミュニケーション6－(5)】

B児・・・話を最後まで聞いて、それに対する質問や確認をしながら演技することができる。

【人間関係の形成3－(4)】

C児・・・これまでの演技に対する意見を参考に演技することができる。

【人間関係の形成3－(2)】

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆) 予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
<p>1 本時の学習課題をつかむ</p> <p>2 各自のめあてと今日のめあてを確認する。</p> <p>3 練習する。</p> <p>4 練習の振り返りをする。</p> <p>5 よいと思う演技を試す。</p> <p>6 振り返りをする</p> <p>7 次回の活動を予告する。</p>	<p>○ 前時の練習をふまえて音読劇の完成を目指していくことを伝える。</p> <p>○ 学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。</p> <p>◆ タイムスケジュールを示し、見通しをもたせる。</p> <p>「豆太は見た」の場面を完成させよう。</p> <p>A児 ○ 友達の考えを聞いて自分の演技を工夫する。</p> <p>B児 ○ 友達の考えを聞いて、友達に伝わる演技をする。</p> <p>C児 ○ 友達の考えを取り入れ、場面の完成を目指して演技する。</p> <p>○ 全体で工夫することと自分が工夫することを決めて、練習させる。</p> <p>◆ お互いの演技を見合って、意見交換をする。</p> <p>◆ 演技をしているところの映像を見る。</p> <p>○○さん、・・・のところを大きなで言ったほうが良いと思います。</p> <p>○○さんは、・・・のところを・・・のようにやってみたらどうか。</p> <p>○ 話し合いのルールや話型を提示し、安心して話し合いが進められるようにする。</p> <p>◆ 話し合いが円滑に行えるように、意見をまとめるなどの支援をする。</p> <p>◆ お互いの演技について互いの良さを認める声かけをルールとする。</p> <p>・・・はとてもよかったよ。でも・・・の場面は、～だから・・・は・・・のようにしたほうが良いと思う。</p> <p>・・・場面の切り替えをはやくしたらどうか。</p> <p>○○さんの・・・はとてもいいですね。</p> <p>◆ 話し合ったことをもとに「もちもちの木」の「豆太は見た」の場面をする。</p> <p>◆ 間違っても、最後までやり切らせる。</p> <p>○ 自分のめあてが達成できたかをふりかえる。</p> <p>◆ ワークシートを用意し、自己評価させる。</p> <p>○ 友達のよかったことを発表する。</p> <p>友達の考えを参考に演技することができました。</p> <p>友達と「豆太は見た」の場面を工夫することができました。</p> <p>・○○さんは、私の話を最後まで聞いて演技してくれたから私の演技がしやすかったです。</p> <p>・○○さんは豆太の気持ちや場面を考えてナレーションをしていたのが良かったです。</p> <p>・○○さんが自分の演技についての考えを一生懸命伝えてくれました。</p> <p>・みんなでクライマックスの場面について、一生懸命考えることができました。</p> <p>◆ 次回の子定を「弱虫でもやさしけりゃ」の場面であることを伝え、音読劇を完成させることを伝える。</p>	<p>A児</p> <p>○ 場面や友達の演技を考えて、表現を工夫することができる。</p> <p>【コミュニケーション6－(5)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>○ 友達の意見を参考に6年生の気持ちを考えながら、取り組むことができる。</p> <p>B児</p> <p>○ 話を最後まで聞いて、それに対する質問や確認をしながら演技することができる。</p> <p>【人間関係の形成3－(4)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>○ 友達の立場を考え、自ら進んで活動に参加しようとしている。</p> <p>C児</p> <p>○ これまでの演技に対する意見を参考に演技することができる。</p> <p>【人間関係の形成3－(2)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>○ 友達の為に行動することに充実感を味わい、その良さを理解することができる。</p>

## 令和元年度 御指導いただいた先生方

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部	教育課程調査官	笠井 健一 先生
比治山大学・比治山大学短期大学部 広島大学	副学長 名誉教授	林 武広 先生
福岡教育大学 教育学部	教授	河野 智文 先生
福岡教育大学 教育学部	准教授	岩田 耕司 先生
広島県教育委員会 義務教育指導課	指導主事	松尾 真理 先生
広島県東部教育事務所	指導主事	兼永 正彦 先生
尾道市教育委員会	課長補佐兼係長	石本 美喜 先生
尾道市教育委員会	指導主事	大矢 純一 先生
尾道市教育委員会	指導主事	山口 晴子 先生
尾道市教育委員会	指導主事	才谷 瑛一 先生
広島県立尾道特別支援学校	教育相談主任	井桁 陽介 先生
広島県立尾道特別支援学校	教育相談主任・地域支援部長	新林 美穂 先生

## 令和元年度研究同人

宮本 佳宏	石川 智子	槇田 有香	岡 明美
上田 千紘	綿貫 岳人	亀本 拓朗	重光 泰徳
田邊 日向子	梶本 沙織	舛上 敏成	赤羽 夏美
菅方 賢司	谷川 友弥	岩本 章子	黒飛 美稻
岡田 美紀代	牧 元 藍	川嶋 佳那美	島本 佳代子
灰垣 亜希子	上田 大地	前田 真由美	福田谷 知加子
中谷 稔	岡田 陽子	石田 博子	魚谷 壽眞子
貝川 充洋	柏原 ひとみ	Marie Wyatt	木附 尚子